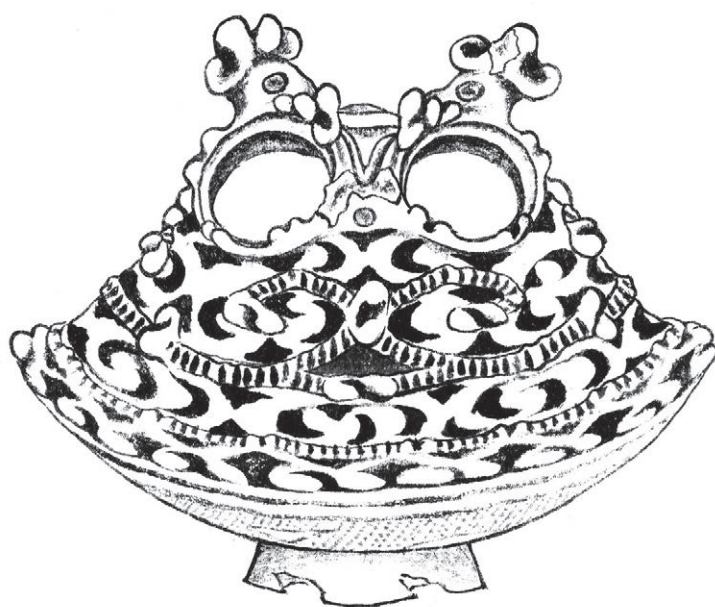
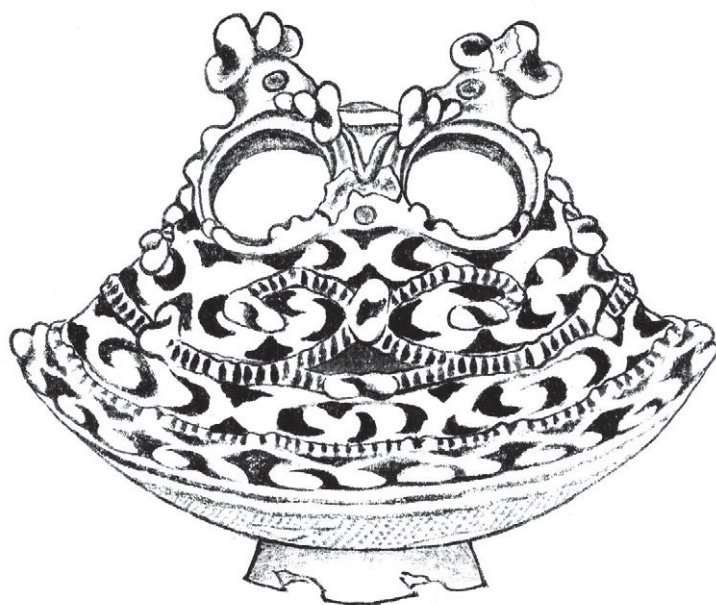


佐藤 郁 考古画譜Ⅱ



佐藤 郁 考古画譜Ⅱ



目 次

目次・例言

遺物解説

(1) 晩期の縄文土器	1
(2) 弥生土器・オホーツク式土器	3
(3) 須恵器・珠洲焼	4
(4) 内耳鉄鍋	5

遺物リスト	7
-------	---

写真図版	17
------	----

例言

1. この図録は、平成21年度に青森市の成田恵子氏から弘前大学に寄贈された成田彦栄氏考古資料に含まれる、佐藤蒔が描いた考古・歴史・民俗資料に関する約560枚の絵画のなかから、主に晩期の縄文土器・弥生土器・オホーツク式土器・須恵器・珠洲焼・内耳鉄鍋が描かれたもの147枚を選び、掲載した。
2. 図版の縮尺は原画の2/3を基本とし、それ以外の縮尺のものは図版にスケールを入れた。
3. 本図録の執筆ならびに遺物リストの作成は、関根達人（人文学部准教授）と立花晃一（大学院人文社会科学研究科1年）が行った。遺物解説の執筆分担は次の通りである。
関根：(1)晩期の縄文土器 (3)須恵器・珠洲焼 (4)内耳鉄鍋
立花：(2)弥生土器・オホーツク式土器
4. 図版の版組は、平成20年度の考古学実習として行った。実習の参加者は次の通りである。
葛西早津紀、菅野七瀬、菊地咲江、櫻田智恵、奈良美穂、本間大揮、三浦倫子、渡辺信彦
(以上8名、人文学部4年)
5. 本図録の編集は、関根が行った。
6. 本図録作成に関わる費用は、平成21年度弘前大学機関研究補助金から支出した。
7. 本図録の作成に関し、次の方々・機関の協力を得た（順不同・敬称略）。
成田恵子・成田容子・成田滋彦・大坂拓・小野哲也・上條信彦・榊原滋高・藤原弘明

遺物解説

(1) 晩期の縄文土器

本図録に掲載した147枚の考古画譜には、晩期の縄文土器と見なされる土器が破片資料を含めて151点描かれている。時期（型式）別では、初頭（大洞B式併行）6点、前葉（大洞BC式併行）14点、中葉（大洞C1式併行）35点、中葉（大洞C2式併行）31点、後葉（大洞A式併行）37点、末葉（大洞A'式併行）0点、細分不能28点となる。晩期後半に比べ晩期前半の資料は少なく、晩期末葉のものはない。本図録に掲載した晩期の土器151点中、出土遺跡が判明するものが47点ある。遺跡別では、つがる市亀ヶ岡遺跡が28点と最も多く、弘前市十腰内（1）遺跡が5点、平川市合戦沢（1）遺跡と弘前市湯口地区が各3点、青森市細野遺跡と鯨ヶ沢町建石地区が各2点と続き、他に青森市浪打地区、同市浪岡崎（1）遺跡、同市浪岡城跡、板柳町土井（1）遺跡のものが各1点となる。以上のように、出土地が判明したものは全て津軽地方の遺跡である上、型式学的特徴の点から明らかに津軽以外の土器と断定できるものが含まれていないことから、本図録に掲載した147枚の考古画譜に描かれた151点の晩期縄文土器は、ほぼ津軽地方の出土品と考えてよいであろう。

なお、亀ヶ岡遺跡から出土した土器は、晩期中葉～後葉のものが主体を占めるが、初頭や前葉の資料も含まれており、晩期全般にわたる。十腰内（1）遺跡出土土器も晩期前葉～晩期後葉にわたる。

以下、時期（型式）毎に、土器の特徴について述べる。

【晩期初頭の土器】

大洞B2式に併行すると考えられる土器としては、合戦沢（1）遺跡出土の浅鉢（101）、亀ヶ岡遺跡出土の短頸壺（103）、青森市浪打地区にあった射的場から出土した壺（108）、出土地不明の浅鉢（114a）・壺（104）・注口土器（105）が挙げられる。このうち、入組曲線文を施した114aは、大洞B2式に併行する時期、道南から津軽・下北地方に分布がみられる「東山1b式」（関根2007）に比定できる。

【晩期前葉の土器】

大洞BC式に併行すると考えられる土器としては、亀ヶ岡遺跡出土の壺（172a）、十腰内（1）遺跡出土の注口土器（115）、出土地不明の台付鉢（106・113a）・浅鉢（107a）・壺（109・128a・172a）・注口土器（113b・114b・116・117・118・122B）が挙げられる。亀ヶ岡遺跡の出土品の可能性が高い「瓶ヶ岡村佐藤太七氏蔵」と注記された113aの台付鉢は、地文として施した縄文の上に細めの沈線で入組三叉文を描き、その後、磨り消しなどの調整を十分に行っていないため、口縁部から文様帯内にかけ縄文が残る。筆者が「縄文地沈線文手法」と呼ぶこのような施文手法は、大洞諸型式には極めて稀だが、それに併行する北海道から津軽・下北地方の晩期の土器には普遍的にみられる（関根前掲）。比較的数量多く描かれた注口土器は、二段作りのもの5点と三段作りのもの2点に分けられる。

【晩期中葉（大洞C1式併行）の土器】

大洞C1式段階の土器とした35点中、出土地が判明するのは、亀ヶ岡遺跡10点、十腰内（1）遺跡2点、土井（1）遺跡1点の計13点である。いずれも晩期初頭～前葉にみられた地域的特色は影を潜め、概ね大洞C1式の型式名称で説明することが妥当な土器といえる。器種別では、深鉢1点、鉢2点、台付鉢4点、浅鉢3点、皿1点、台付皿2点、壺10点、注口土器5点、香炉形土器7点となる。亀ヶ岡遺跡から出土した大洞C1式相当の土器には、146の細口壺、159の注口土器、135・165a・165b・166・167の香炉形土器のように、非常に精巧な優品がみられる。

【晩期中葉（大洞C2式併行）の土器】

大洞C2式段階の土器とした31点中、出土地が判明するのは、亀ヶ岡遺跡5点、十腰内（1）遺跡・

細野遺跡・合戦沢（1）遺跡・弘前市湯口地区・鱈ヶ沢町建石地区各1点の計10点である。器種別では、深鉢1点、鉢9点、台付鉢2点、浅鉢2点、台付浅鉢1点、壺11点、注口土器5点となる。鉢（122・168・169・174・186e）や台付鉢（170a・171）では、地文は縦走縄文が主体的となる。壺（175b・176d・177・178b）の体部文様にみられる渦状の文様は、聖山式を特徴づけるいわゆる連繋入組文の一種で、東北地方では津軽や下北地方など津軽海峡域の土器に限られる。大洞C2式後半から大洞A式への過渡的な時期、いわゆる亀ヶ岡文化圏の中で津軽海峡を挟んだ地域は、小さな土器文化圏を形成していたといえる（藤沼ほか2004）。

【晩期後葉（大洞A式併行）の土器】

大洞A式段階の土器とした37点中、出土地が判明するのは、亀ヶ岡遺跡9点、弘前市湯口地区2点、十腰内（1）遺跡と細野遺跡各1点の計13点である。器種別では、深鉢3点、鉢2点、台付鉢2点、浅鉢9点、台付浅鉢3点、壺12点、注口土器2点、香炉形土器1点、蓋形土器1点、器種不明2点となる。前段階に引き続き、地文の縄文は縦走するものが主体的である。

注目される土器としては、亀ヶ岡遺跡出土の口頸部に紐孔を有する短頸壺（189）と同じく亀ヶ岡遺跡から出土した蓋形土器（204b）がある。

189同様、口頸部に紐孔を有する縄文晩期の短頸（無頸）壺は、青森市沢山（1）遺跡（児玉1994）、弘前市薬師Ⅱ号遺跡（藤沼・小川編2006、藤沼ほか2007）、弘前市十腰内（1）遺跡（杉山1928）、南部町剣吉荒町遺跡（鈴木・木村1988）、岩手県盛岡市つなぎⅢ遺跡（高橋・高橋1980）、岩手県北上市大橋遺跡（八木ほか2006）、北上市川岸場Ⅰ遺跡（及川ほか2004）、宮城県栗原市山王圀遺跡Ⅴc7層（伊東・須藤1985）、山形県河北町花ノ木遺跡（佐藤2008）から出土しており、大洞A～A'式期に東北地方の広い範囲に分布する。また、189のように浮線渦巻文を施した広口壺は、上記の山王圀遺跡、十腰内（1）遺跡の他に、新潟県北蒲原郡加治川村青田遺跡（新潟県教育委員会2004）、石川県松任市乾遺跡（岡本2001）・同市八田中遺跡（久田1988）、愛知県名古屋市長蔵貝塚B地点（南山大学人類学博物館1988）・同市西志賀貝塚（紅村1949）から発見されている。浮線渦巻文土器を検討した須藤隆氏は、その斉一性を重視し、「東海地方から北陸地方南半にかけて東北地方との緊密な交流関係のもとに、亀ヶ岡式土器の技術・意匠体系が受容され」と指摘する（須藤ほか2007）。筆者は、西日本から出土する亀ヶ岡式系土器を検討した際、「西日本で弥生文化が成立する板付Ⅰ式期には、大洞A式古段階の土器が北部九州にまで展開するが、交換財としての機能を有したと想定されるきわめて特殊な装飾土器が選ばれる傾向にある」と指摘したことがある（関根2008）。浮線渦巻文を施した広口壺もまさに交換財たる特殊な装飾土器の一つであり、東海・北陸地方では、大洞A2式期にも引き続き、そうした東北系の装飾土器が受容されていたことを示している。

蓋形土器（204b）は、中央に隆帯による区画を銕んで、変形した「S」の字状沈線の末端を入り組ませた文様を2単位配置する。縄文時代晩期後半の蓋形土器を集成・検討した佐藤祐輔氏の分類に従えば、蓋形土器が比較的多く作られる大洞A1式に位置づけられよう（佐藤前掲）。なお、既に須藤隆氏や佐藤祐輔氏が指摘しているように、本例のような東北地方の晩期後半の蓋形土器は、前に検討した189のような装飾性に富む特殊壺と組みあう可能性が高い（須藤ほか前掲、佐藤前掲）。

【引用・参考文献】

- 伊東信雄・須藤隆1985『山王圀遺跡調査図録』一迫町教育委員会
及川真紀ほか2004『川岸場Ⅰ遺跡第2次発掘調査報告書』前沢町文化財調査報告書16
岡本恭一2001『松任市乾遺跡発掘調査報告書』石川県埋蔵文化財センター
関西大学博物館1998『博物館資料図録』
紅村弘1949「西志賀貝塚出土の一土器について」『考古学集刊』3 32頁
児玉大成1994「特集 青森市沢山（1）遺跡の出土遺物」『撚糸文』21 青森山田高等学校考古学研究会

後藤守一・杉山寿栄男1924『原始文様集』工芸美術研究会
 佐藤祐輔2008「縄文時代晩期後半の蓋形土器」『研究紀要』5 81-112頁 山形県埋蔵文化財センター
 杉山寿栄男1928『日本原始工芸』工芸美術研究会
 鈴木克彦・木村鐵次郎1988『名川町剣吉荒町遺跡（第2地区）発掘調査報告書』青森県立郷土館調査報告22（考古7）
 須藤隆ほか2007『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』平成17～18年度科学研究費補助金基盤研究（C）（1）研究成果報告書
 関根達人2007「大洞系・類大洞系・非大洞系土器の検証」『考古学談叢』287-312頁
 関根達人2008「広域編年の事例 亀ヶ岡式土器」『縄文時代の考古学』2 240-256頁 同成社
 関根達人・上條信彦編2009『成田コレクション考古資料図録』弘前大学人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター
 高橋正之・高橋與右衛門1980『御所ダム建設関連遺跡調査報告書 盛岡市つなぎⅢ・つなぎⅣ・上野・南の又・堂ヶ沢Ⅰ・Ⅱ遺跡 雫石町広瀬Ⅱ遺跡（昭和52年度・53年度）』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書13
 辰馬考古資料館1988『考古資料図録』
 辰馬考古資料館2002『縄文遺跡探訪—亀ヶ岡遺跡とその周辺—』平成14年度秋季展示図録
 東北大学文学部1982『考古学資料図録』1・2
 南山大学人類学博物館1988『高蔵貝塚Ⅲ—1985年度夜寒地区発掘調査—』人類学博物館紀要10
 新潟県教育委員会2004『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 青田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書133
 久田正弘1988『八田中遺跡』石川県埋蔵文化財センター
 藤沼邦彦ほか2004『亀ヶ岡文化遺物実測図集』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告1
 藤沼邦彦ほか2006『亀ヶ岡文化遺物実測図集（2）』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告4
 藤沼邦彦ほか2007『亀ヶ岡文化遺物実測図集（3）』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告5
 藤沼邦彦・小川忠博編2006『ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の図録』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告3
 八木勝枝ほか2006『大橋遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書481

（2）弥生土器・オホーツク式土器

佐藤薊が描いた弥生土器は7点（102・180a・209a・210・211・212・213）、オホーツク式土器は4点（214a・214b・214c・215）である。

鉢形土器（209a）は弥生前期の砂沢式に時期するもので、あまり開かない器形と、細くやや曲線的な沈線で描かれる多段の複線変形工字文が特徴である。大坂拓氏のご教示によれば、これと類似した資料は、砂沢遺跡出土のもの（『砂沢遺跡発掘調査報告書—図版編—』28頁、第39図—15・16：弘前市教育委員会1988）や鱒ヶ沢町大曲遺跡出土のもの（『青森県郷土館調査研究年報第13号』62頁、土器実測図①—2：青森県立郷土館1989）がある。

鉢形土器（102）は弥生中期中葉、田舎館Ⅱ群に相当する土器である。この土器は刻み目を持つ波状口縁で、内面には粘土粒が貼り付けられる。体部下半にはゆるい曲線を描く横位沈線文を基調とした文様帯が展開し、沈線上にも粘土粒が貼り付けられる。

深鉢（213）と無頸壺（210）は弥生中期中葉、田舎館第Ⅲ群に相当する土器である。深鉢（213）は口縁から体部上半にかけて、平行沈線と鋸歯状文が交互に施文される。これと類似した資料は垂柳

遺跡（『青森県埋蔵文化財調査報告書第88集 垂柳遺跡』248頁）で報告されている（青森県教育委員会1985）。無頸壺（210）は口縁部に2個一対の紐孔が2カ所あり、錨形文と連続山形沈線文によって多段の文様帯が構成されている。これに類似した土器は垂柳遺跡（『青森県埋蔵文化財調査報告書第88集 垂柳遺跡』258頁、第111図－52・259頁、第112図－57）から出土している（青森県教育委員会1985）。

壺（180a）は弥生中期後葉、念仏間式に相当する土器である。この土器の特徴は、下膨れの器形と平行沈線・鋸歯状文で構成される文様帯である。六ヶ所村大石平遺跡などで、類似した文様の土器片が出土している（青森県教育委員会1985）。

田舎館から出土した蓋（211）は弥生中期に時期するものである。同心円に沈線が施され、2個一対の紐孔が2カ所ある。類例は砂沢遺跡のもの（『砂沢遺跡発掘調査報告書一図版編一砂沢遺跡』の119頁、土器番号230：弘前市教育委員会1988）や八戸市八幡遺跡出土のもの（『八幡遺跡』48頁－83：八戸市教育委員会1992）がある。

明治24年（1891）に北海道枝幸郡枝幸町の海岸から出土した甕（214a・214b・214c）はいずれも、8世紀のオホーツク式土器である。これらは現在、東北大学の所蔵品となっており、貼付浮文土器と判明した（東北大学文学部1982）。類例は、枝幸町目梨泊遺跡の第3号墓壙出土土器（枝幸町教育委員会1988）や網走市モヨロ貝塚出土土器（米村喜男衛1950）がある。

網走から出土した甕（215）は、円形刺突文によって文様が構成されている点では十和田式に近いが、器形的には7世紀の刻文土器段階に比定される。円形刺突文が刻文土器の段階にまで残ったものだと考えられる。

【引用・参考文献】

青森県教育委員会1985『垂柳遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第88集

青森県教育委員会1985『大石平遺跡発掘調査報告書』

青森県教育委員会1986『大石平遺跡Ⅱ発掘調査報告書』

青森県教育委員会1987『大石平遺跡発掘調査報告書Ⅲ』

青森県立郷土館1989「西津軽郡鰺ヶ沢町大曲遺跡発掘調査報告」『青森県立郷土館調査研究年報』第13号 57-82頁

青森県史編さん考古部会2005『青森県史』資料編考古3（弥生～古代）、青森県

浦幌町教育委員会1998『十勝太海岸段丘遺跡』

枝幸町教育委員会1988『目梨泊遺跡』

大沼忠春編2004『続縄文・オホーツク・擦文文化』考古資料大観11、小学館

東北大学文学部1982『考古学資料図録』2

常呂町1976『トコロチャシ南尾根遺跡』

八戸市教育委員会1992『八幡遺跡発掘調査報告書Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第47集

弘前市教育委員会1988『砂沢遺跡発掘調査報告書一図版編一』

弘前市教育委員会1991『砂沢遺跡発掘調査報告書一本文編一』

米村喜男衛1950『モヨロ貝塚資料集』野村書店

（3）須恵器・珠洲焼

今回掲載した147枚の画譜の中には須恵器14点（うち1点は須恵器の可能性があるが須恵器とは断定できない）と珠洲焼1点が含まれている。

須恵器は、器形やヘラ記号から五所川原産（坂詰編1969、工藤編1998、藤原2002・2003・2005）の

可能性が高いと判断されるものが10点を占めており、明らかに県外産といえるのは、秋田産の可能性のある内面に青海波文を有する破片（225a）と産地不明の平瓶（227）のみである。五所川原産と考えられる須恵器は、壺が5点、中甕が4点、器種不明1点である。このうち壺5点は全てヘラ記号を有する。五所川原産と推定される須恵器のなかで、弘前市鷹ノ巣遺跡から出土した壺（218）と鶴田町稲元遺跡から出土した中甕（223）は10世紀第1四半期にまで遡り、平川市猿賀館遺跡出土の壺（216）や224の出土地不明の中甕は10世紀第3四半期頃に比定される（藤原弘明氏のご教示による）。

中泊町小泊地区の「中ノ山」から出土した228の播鉢は、その特徴から吉岡康暢氏による珠洲焼編年（吉岡1994）のⅤ期に比定され、15世紀前半頃の所産と推定される。小泊地区には、嘉吉2年（1442）南部氏により十三湊を攻められた下国安藤盛季が蝦夷島に落ち延びる翌年冬まで拠点としたと伝えられる「小泊之柴館」があったとされ、比定地である神明宮付近では土塁や空壕が確認されている（沼館1977）。また、小泊地区にある三角山の東麓に位置する小屋ノ沢遺跡からは15～16世紀代の信楽焼壺が出土している（藤沼・工藤・佐々木・関根編2003）。

【引用文献】

- 工藤清泰編1998『犬走須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書21
坂詰秀一編1969『津軽・前田野目窯跡』ニュー・サイエンス社
沼館愛三1977『津軽諸城の研究（草稿）』みちのく双書34 青森県文化財保護協会
藤沼邦彦・工藤清泰・佐々木浩一・関根達人編2003『青森県史』資料編考古4（中世・近世）青森県
藤原弘明2002『M Z 6号窯跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書23
藤原弘明2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書25
藤原弘明2003『K Y 1号窯跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書26
吉岡康暢1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

（４）内耳鉄鍋

229・230の2点の内耳鉄鍋は、どちらも内側にL字形の耳を持ち、幅の広い口縁部の立ち上がりがシャープである。計測部位は不明ながら、注記からどちらも「厚サ二分」と、内耳鉄鍋としては比較的厚手であることが判る。底部の略図から、229は一文字の湯口跡を確認することができる。鉄鍋に詳しい小野哲也氏から、小野氏が17世紀以降の東北太平洋側地域産としたもの（小野2004・2005・2007）ではないかのご教示を得た。229・230とよく似た内耳鉄鍋は、八戸市沢里（森本1996）、岩手県軽米町大鳥Ⅰ遺跡（阿部1997）のように、青森県南部地方から岩手県北地域で、16世紀末～17世紀代の鍋被り墓から出土する（関根2003）。229・230はどちらも完形であり、青森県南部地方の鍋被り墓に納められていた可能性がある。

【引用・参考文献】

- 阿部勝則1997「軽米町大鳥Ⅰ遺跡墓壙出土の内耳鉄鍋」『紀要』XⅦ 61-64頁 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
音喜多富壽1954「内耳鍋を被って埋葬された人骨の一例」『内耳の鍋』12・13頁
小野哲也2002「中世・近世における鉄鍋製作技法について」『物質文化』74 61-82頁
小野哲也2003「列島各地における鉄鍋製作技法について」『物質文化』76 55-70頁
小野哲也2004「中世・近世における鉄鍋製作技法の地域差」『物質文化』77 39-56頁
小野哲也2005「北海道域を取り巻く製品流通状況について―鉄鍋の検討による―」『北海道考古学』41 77-89頁
小野哲也2007「北海道域出土鉄鍋の生産地」『北海道考古学』43 113-122頁

- 草間俊一・森本岩太郎1972『内耳鉄鍋と人骨』九戸村教育委員会
- 小井川潤次郎1954『内耳の鍋』八戸市教育委員会
- 越田賢一郎1984「北海道の鉄鍋について」『物質文化』42 14-38頁 物質文化研究会
- 越田賢一郎1996「北日本における鉄鍋」『季刊考古学』57 61-65頁 雄山閣
- 越田賢一郎2004「鉄鍋再考」『宇田川洋先生華甲記念論文集 アイヌ文化の成立』457-492頁 北海道企画出版センター
- 関根達人2003「鍋被り葬考—その系譜と葬法上の意味合い—」『人文社会論叢（人文科学篇）』9 23-47頁 弘前大学人文学部
- 羽柴直人 2002「岩手県における近世の鍋被り葬墓」『墓標研究会会報』6 13-21頁
- 森本岩太郎1996「八戸市沢里出土の内耳鉄鍋を被った古人骨」『研究紀要』11 14-18頁 八戸市博物館

遺物リスト1

図 番号	種類	時期	型式	出土場所	遺跡名	法量(cm)			所蔵者 (旧蔵者)	作画日	備考
						高	幅 (口径)	厚 (最大径)			
101	浅鉢	縄文晩期	大洞B式	南津軽郡竹館村廣船村堤ノ下	平川市合戦沢(1)遺跡	5.2	11.9	11.9	久原房之助		東北大学文学部蔵『考古学資料図録』J421(K387)「色セビヤ」
102	弥生土器	弥生中期	田舎館Ⅱ群	南津軽郡田舎館村田ノ中	田舎館村垂柳遺跡	7	6.7	6.7	久原房之助		東北大学文学部蔵『考古学資料図録』Y053(K382)
103	壺	縄文晩期	大洞B式		(つがる市亀ヶ岡遺跡)	10.3	7.3	16.3	久原房之助		東北大学文学部蔵『考古学資料図録』J 508(K83)
104	壺	縄文晩期	大洞B式			9	6.8	11.6			
105	注口土器	縄文晩期	大洞B式			10	8.1	16			
106	台付鉢	縄文晩期	大洞BC式			11.2	12.4	12.5			一部拓本
107a	浅鉢	縄文晩期	大洞BC式			4.7	12	12.6			
107b	壺	縄文晩期				22.3	7.8	12.8			
108	壺	縄文晩期	大洞B式	原別村大字浪打射的場	青森市浪打地区		残7.6	20	浅田祇年翁		「質堅クシテ朱ヲ塗レリ」 一部拓本
109	壺	縄文晩期	大洞BC式			11.8		14			
110a	壺	縄文晩期前半				3.9	3.3	4.9	谷口氏	1887.06.10	「黒色光澤アリ」
110b	斧状土製品?	縄文中期									拓本
111	土師器甕?	平安時代?				9.8	9.5	10.4			底径6.4cm 一部拓本
112a	壺	縄文晩期				12.7	7.6	10.9			
112b	玉	縄文晩期				3.4	1.7				「黒緑き班 蛇文石に似たり」
113a	台付鉢	縄文晩期	大洞BC式			14.7	10.6	13.1	西津軽郡瓶ヶ岡村佐藤太七氏		「薄褐色ヲ帯ブ」 一部拓本
113b	注口土器	縄文晩期	大洞BC式			6.8	4.5	12.5			「茶褐色ヲ帯ブ」
114a	浅鉢	縄文晩期	大洞B式			7.3	16.5	17			底径7cm 一部拓本
114b	注口土器	縄文晩期	大洞BC式			7.8	14.4	6.1			
115	注口土器	縄文晩期	大洞BC式		(弘前市十腰内(1)遺跡)	8.5	9.1	11.9	久原房之助		東北大学文学部蔵『考古学資料図録』J459(K342)
116	注口土器	縄文晩期	大洞BC式			6	11	12			同内6.4 高さ 計測は6cm 記入間違いか
117	注口土器	縄文晩期	大洞BC式			8.9	6.7	13.6			
118	注口土器	縄文晩期	大洞BC式			6.8		12.7			
119a	香炉形土器	縄文晩期前半				12.9	9.1	6.9			
119b	玉	縄文晩期				1.7	1.2	0.6			
119c	玉	縄文晩期				2.9	1				

- ・法量の欄の赤字で書かれた数値は、図から推定した大きさであり、計測値ではない。
- ・所蔵者（旧蔵者）の欄の赤字で書かれた人名は、部ノスケッチには註記されていないが、他の資料から判明した所蔵者（旧蔵者）である。

遺物リスト2

図 番号	種類	時期	型式	出土場所	遺跡名	法量(cm)			所蔵者 (旧蔵者)	作画日	備考
						高	幅 (口径)	厚 (最大径)			
119d	玉	縄文晩期				0.9	0.7	0.5			
119e	玉	縄文晩期				0.6	0.6	0.5			
120	深鉢	縄文晩期	大洞 C1式			14.2	11.5	11.6			一部拓本
121	鉢	縄文晩期	大洞 C2式			7.9	12.1	12.7			底径5.8cm
122a	鉢	縄文晩期	大洞 C2式	西津軽郡鳴 沢大字建石	鯨ヶ沢町 建石地区	11.5		12.3		1904.012	
122B	注口土 器	縄文晩期	大洞 BC式			6.4	5.5	11.2			
123	台付鉢	縄文晩期	大洞 C1式			10	8.8	9.6	弘前柏谷氏		底径6.4cm 「薄茶褐色 ヲ帯ブ」
124	台付鉢	縄文晩期	大洞 C1式			14.3	15	16.4	弘前 今氏		一部拓本
125a	台付鉢	縄文晩期	大洞 C1式			8.5	9.9	9.7			底径6.7cm 「質堅半腹 黒シ 少し光沢アリ」
125b	壺	縄文晩期 前半	大洞 C1式			10.6	6.7	10.6			底径6.7cm 「淡白ニシ テ光沢ナス」
126a	台付鉢	縄文晩期	大洞 C1式			9.1	12.1	13.8		1885.042	
126b	壺	縄文晩期	大洞 C1式			8.2	5.2	8.2		1885.042	底径4.5cm
126c	壺	縄文晩期				5.5	3.6	6.4		1885.042	底径3.9cm
127	鉢	縄文晩期	大洞 C1式		(つがる 市亀ヶ岡 遺跡)	5.6	9.6	10.8			杉山寿栄男『日本原始工 藝』P26-2
128a	壺	縄文晩期	大洞 BC式			残8.0		12.2			
128b	土器片	縄文後期	十腰内 I式								
129	壺	縄文晩期	大洞 C1式			残17.6		21.5			
130	壺	縄文晩期	大洞 C1式		(つがる 市亀ヶ岡 遺跡)	11.2	4.5	10.6	弘前 今氏	188409.1	「底少々凹」
131	壺	縄文晩期	大洞 C1式		(つがる 市亀ヶ岡 遺跡)	12	5.5	9	久原房之助		後藤守一・杉山寿栄男編 『原始文様集』 P 76下 東北大学文学部蔵『考古 学 資 料 図 録』 J 513 (K141)
132	壺	縄文晩期 前半				14.2	6.5	10.1	相沢 雪田 氏		「色茶褐色」 一部拓本
133a	注口土 器	縄文晩期	大洞 C1式			6.4	9.1	14.4			
133b	浅鉢	縄文晩期	大洞 C1式			2.9	6.7	7.4			一部拓本
134a	注口土 器	縄文晩期	大洞 C1式	中津軽郡裾 野村大字十 腰内字大平	弘前市十 腰内(1) 遺跡	7	7.9	15.8			一部拓本
134b	注口土 器	縄文晩期	大洞 C1式	中津軽郡裾 野村大字十 腰内字大平	弘前市十 腰内(1) 遺跡	6.4	8.8	13.6			一部拓本
135	香炉形 土器	縄文晩期	大洞 C1式	瓶ヶ岡	つがる市 亀ヶ岡遺 跡	残7.8	11.4	11.2	青森市 今 泉清氏		
136a	壺	縄文晩期	大洞 C1式			14.8	6.4	9.6	西津軽郡木 造村 高屋 氏		

遺物リスト3

図 番号	種類	時期	型式	出土場所	遺跡名	法量(cm)			所蔵者 (旧蔵者)	作画日	備考
						高	幅 (口径)	厚 (最大径)			
136b	香炉形 土器	縄文晩期	大洞 C1式			9.5		9.5	西津軽郡木 造村 高屋 氏		「薄黒色ヲ帯ブ」
137a	鉢	縄文晩期	大洞 C2式			10.8	11.9	13.9			一部拓本
137b	注口土 器	縄文晩期	大洞 C1式			3.3	1.9	6			
138	鉢	縄文晩期	大洞 C1式			6.4	13.8	13.5	黒石増田氏	1884.023	底径5.8cm
139	浅鉢	縄文晩期	大洞 C2式	十腰内	弘前市十 腰内(1) 遺跡	4.4	9.1	10.3			
140	皿	縄文晩期	大洞 C1式			3.2	16.2	16.6			
141	台付皿	縄文晩期	大洞 C1式			残3.2	15.4	15.4			一部拓本
142	浅鉢?	縄文晩期	大洞 C1式								拓本
143	台付皿	縄文晩期	大洞 C1式			10	13.6	13.6		1885.072	「色淡白シ」
144	台付浅 鉢?	縄文晩期	大洞 C2式				11.4	11.4			
145	壺	縄文晩期	大洞 C2式		(つがる 市亀ヶ岡 遺跡)	13.3	6.4	13.9	神田孝平		関西大学博物館蔵『博物 館資料図録』18 (本山コ レクション457-8) 底 径11.5cm 「少ク凹」
146	壺	縄文晩期	大洞 C1式	瓶ヶ岡	つがる市 亀ヶ岡遺 跡	18.7	7.8	19.8	下山形 熊 澤氏		「堅質黒色ニシテ所々ニ 朱残レリ」
147	壺	縄文晩期	大洞 C1式	北津軽郡板 柳村	板柳町土 井(1)遺 跡	11.2	6.7	12.7			杉山寿栄男『日本原始工 藝』P 12-9 底径6.1cm
148a	壺	縄文晩期	大洞A 式	相澤	青森市細 野遺跡	11.6	2.8	12	工藤祐龍		辰馬考古資料館蔵 『考 古資料図録』
148b	壺	縄文晩期	大洞 C2式	相澤	青森市細 野遺跡				工藤祐龍		辰馬考古資料館蔵 『考 古資料図録』
149	壺	縄文晩期	大洞 C2式			8	5.7	8.4	神田孝平		関西大学博物館蔵『博物 館資料図録』19 (本山コ レクション464-4)
150	壺	縄文晩期	大洞 C2式			残11.8	残5.7	12.5			底径4.8cm
151a	壺					12.4	7.3	12.4	谷口氏	1887.06.10	底径4.5cm、「少々凹タリ 色ハ淡白ニシテ所々光 澤アリ」
151b	壺	縄文晩期 中葉				9.7	5.8	12.4		1887.06.10	底径4.8cm、一部拓本
152a	壺	縄文晩期 中葉		瓶ヶ岡	つがる市 亀ヶ岡遺 跡	8.5	3.9	8			底径3.9cm、「色淡白」
152b	壺	縄文晩期 中葉				10.3	6.7	10.6			底径3.9cm、「色薄黒」
153a	壺	縄文晩期	大洞 C2式			13.2	9.5	15.5			一部拓本
153b	壺	縄文晩期	大洞 C2式			残10		残12.2			一部拓本
154a	壺	縄文晩期 中葉				残12.2		10.6			一部拓本
154b	壺	縄文晩期 中葉				7.7	4.9	8.6			

遺物リスト4

図 番号	種類	時期	型式	出土場所	遺跡名	法量(cm)			所蔵者 (旧蔵者)	作画日	備考
						高	幅 (口径)	厚 (最大径)			
155	壺	縄文晩期 中葉					9.5				底径9.4cm
156	壺	縄文晩期 中葉				17.3	9.3	16.1			
157	壺	縄文晩期	大洞 C2式	亀ヶ岡	つがる市 亀ヶ岡遺跡	残7.7		9.4	宮田氏	1880. 11.17	「色肉色」
158	土器片	縄文晩期 中葉		波岡村源常 林ノ御廟館	青森市浪 岡崎(1) 遺跡				廣峯神社	1880.051	底径7.2cm
159	注口土 器	縄文晩期	大洞 C1式		(つがる 市亀ヶ岡 遺跡)	6.5	9.2	12.4	久原房之助		杉山寿栄男『日本原始工 藝』P17-5一部拓本 東 北大学文学部蔵『考古学 資料図録』J 555(K343)
160	注口土 器	縄文晩期	大洞 C2式	中津軽郡裾 野村大字十 腰内字大平	(つがる 市亀ヶ岡 遺跡)	13.6	17.6	27			完形品
161	注口土 器	縄文晩期	大洞 C2式			6.7	7.9	10.3	神田孝平		関西大学博物館蔵『博物 館資料図録』12(本山コ レクション487-2)
162a	注口土 器	縄文晩期	大洞 C2式			7.1	7.3	13.2			
162b	骨角製 自在銚					残8.5	残7.4	残0.9			「土人之ヲ稱シテ鈎針ト 云フ然モ根元ニ塗ノ存 セルヲ以テ見レハ鈎針 ニアラスシテ俗ニ□謂 刺鈎ナルベク以テ魚獸 ヲ捕獲スルニ用ヒタル モノト想ハル而シテ其 獸角ヲ以テ製セルモノ ナルヤ若クハ獸骨製ナ ルニ至ラハ未タ確知ス ル能ハス」、「此凹□ニ塗 ヲ存ス是即チ柄ヲ付ケ タルモノト想ハル」
163a	鹿角製 腰飾り					15.1	3.4	2.2			
163b	猪牙製 首飾り					11.4	2.1	1.3			
163c	注口土 器	縄文晩期	大洞 C2式			9.9	10.7	14.5			
163d	骨篋					14.7	2	1.5			「アメ色ノ漆ヲ以テス ル」
163e	貝刃?					残4.7	残0.8				「古の刃、蛤ニニタル貝 ヲ以テ作ル」
164	香炉形 土器	縄文晩期	大洞 C1式			5.8		8.5	柏谷氏	1886.08.05	一部拓本
165a	香炉形 土器	縄文晩期	大洞 C1式	瓶ヶ岡	つがる市 亀ヶ岡遺跡	11.5		13.8	枝川 工藤 祐龍氏		
165b	香炉形 土器	縄文晩期	大洞 C1式		つがる市 亀ヶ岡遺跡	10.7		13.2	枝川 工藤 祐龍氏		
166	香炉形 土器	縄文晩期	大洞 C1式	瓶ヶ岡	つがる市 亀ヶ岡遺跡	8.1		10.6	館岡村 野 呂氏		一部拓本
167	香炉形 土器	縄文晩期	大洞 C1式	瓶ヶ岡	つがる市 亀ヶ岡遺跡	11.7		14	弘前 薄田 氏		
168	鉢	縄文晩期	大洞 C2式			7.6	8.6	9.6			

遺物リスト5

図番号	種類	時期	型式	出土場所	遺跡名	法量(cm)			所蔵者 (旧蔵者)	作画日	備考
						高	幅 (口径)	厚 (最大径)			
169	鉢	縄文晩期	大洞C2式			7.2	12	12.7			一部拓本
170a	台付鉢	縄文晩期	大洞C2式	湯口字二ノ下り山 畑	弘前市湯口地区	11.8	12.2	13			一部拓本
170b	スプーン状土製品			湯口字二ノ下り山 畑	弘前市湯口地区	7.5	3.3	1.6			弘前大学蔵『成田コレクション考古資料図録』(図録193) 一部拓本
171	台付鉢	縄文晩期	大洞C2式	亀ヶ岡古墟	つがる市亀ヶ岡遺跡	16.3	14.8	16.2	今野氏	1880.06.23	「色淡白ニシテ光澤アリ」
172a	壺	縄文晩期	大洞BC式			5.5	9.1	11.2		1885.011	底径4.5cm、一部拓本
172b	台付鉢	縄文晩期	大洞A式			10	9.4	10.3			底径5.8cm 一部拓本
173	鉢	縄文晩期	大洞A式	亀ヶ岡古墟	つがる市亀ヶ岡遺跡	5.8	12	12.1	久原房之助		底径4.2「淡白所々黒シ少ク光澤アリ」東北大学文学部蔵『考古学資料図録』J564(K184)
174	鉢	縄文晩期	大洞C2式	瓶ヶ岡	つがる市亀ヶ岡遺跡	10.5	11.4	12.7	村本喜四郎氏		「黒色」
175a	壺	縄文晩期	大洞BC式		(つがる市亀ヶ岡遺跡)	19.5	3.3	7.4	工藤祐龍		辰馬考古資料館蔵 『縄文遺跡探訪一亀ヶ岡遺跡とその周辺一』
175b	壺	縄文晩期	大洞C2式			9.7	10	11.3			
176a	浅鉢?	縄文晩期	大洞C2式								拓本
176b	壺	縄文晩期前葉				4.6	7.2	7.6			
176c	壺	縄文晩期	大洞C2式			5.5	1.6	3.3			
176d	壺	縄文晩期	大洞C2式			6.7	4.1	7.4			
177	壺	縄文晩期	大洞C2式			残13.1	残9.0	17.6			
178a	台付鉢	縄文晩期	大洞A式			残7.2	15.2	15.8			
178b	壺の肩部	縄文晩期	大洞C2式								
179	深鉢	縄文晩期	大洞A式			13.5	13.7	14.2			一部拓本
180a	壺	弥生中期	念仏間式			15.9	7	11.9			一部拓本
180b	深鉢	縄文晩期	大洞A式	瓶ヶ岡	つがる市亀ヶ岡遺跡	10	7.5	8.5			一部拓本
181a	壺					11.5	4.5	8.9			
181b	浅鉢	縄文晩期	大洞A式		(つがる市亀ヶ岡遺跡)	4.5	11.1	11.1	久原房之助		東北大学文学部蔵『考古学資料図録』J574(K191)
181c	耳飾り					1.1	1.6	1.6			
181d	壺					15.8	8.2	15.2			182にも図面あり
181e	不明					3.7	4.2	2.8			
181f	浅鉢	縄文晩期	大洞A式			6.7	23.6	23.6			一部拓本

遺物リスト6

図 番号	種類	時期	型式	出土場所	遺跡名	法量(cm)			所蔵者 (旧蔵者)	作画日	備考
						高	幅 (口径)	厚 (最大径)			
181g	台付浅鉢	縄文晩期	大洞A式			残6.1	18.2	18.2			182にも図面あり
181h	不明										
181i	土器					2.5	8.9	9.7			
181j	土器片	縄文晩期	大洞A式								一部拓本
182a	石匙?	縄文晩期				5.2	2	0.8			
182b	石鏃					5.3	1.5	0.7			
182c	台付鉢					11.5	12.4	13.1			
182d	不明					5.8	16.3				深さ1.6cm
183	壺	縄文晩期中葉				15.7	残7.9	15.2			一部拓本
184	浅鉢	縄文晩期	大洞A式		(弘前市湯口地区)	5.6	20.3	20.6	久原房之助		東北大学文学部蔵『考古学資料図録』J497(K216)一部拓本
185a	注口土器	縄文晩期	大洞C2式	廣船村合戦澤	平川市合戦沢(1)遺跡	8.8	7.9	10.1	廣船村外川氏		
185b	台付鉢 台部			廣船村	平川市合戦沢(1)遺跡				廣船村外川氏		
186a	敲磨器					8.9	10.5	3.1			
186b	台付浅鉢	縄文晩期	大洞A式			9.2	14.5	15.5			186Bに図面あり
186c	敲磨器					7.2	6.6	1.6			
186d	石刀	縄文晩期中葉				残9.2	4.1	1.1			
186e	鉢	縄文晩期	大洞C2式								拓本
187a	壺	縄文晩期				8.8	4.9	8.5			底径3.6cm
187b	浅鉢	縄文晩期	大洞A式			4.9	16.3	16.7			187Bに上面図あり
188	四脚付浅鉢	縄文晩期	大洞A式	湯口村字八森落	弘前市相馬湯口地区	8.2	16.9	16.9	久原房之助		東北大学文学部蔵『考古学資料図録』J729(K219)「色淡白」188Bに下面図あり
189	壺	縄文晩期	大洞A式		(亀ヶ岡遺跡)	21.5	8.5	24.2	佐藤薊田蔵	1885.030	「穴九ツ」、底径8.5cm、一部拓本、蓑虫山人筆「陸奥全国神代石并古陶之図」、若林勝彦「東京人類学会雑誌」「六孔又は十孔ヲスル貝塚土器」7-78、杉山寿栄男『原始文様集』P114右
190	壺	縄文晩期	大洞A式			14.2	8.4	15.3			一部拓本
191	壺	縄文晩期	大洞A式			残12.4		13.1			「苗代田又ハ水澤ヨリ掘リタル者ハ質堅クシテ寛全ナル者多シ又水気ノナキ山上ヨリ掘リタル者ハ質損失シテ大ム子如図」「色薄黒シ」
192a	壺	縄文晩期	大洞A式		(弘前市十腰内(1)遺跡)	13.6	6.4	14.5	久原房之助		後藤守一・杉山寿栄男編『原始文様集』P114左底径5.2cm、192Bに図面あり

遺物リスト7

図番号	種類	時期	型式	出土場所	遺跡名	法量(cm)			所蔵者 (旧蔵者)	作画日	備考
						高	幅 (口径)	厚 (最大径)			
192b	台付鉢	縄文晩期	大洞A式			6	15	15			
193	壺	縄文晩期	大洞A式	瓶ヶ岡	つがる市 亀ヶ岡遺跡	10.3	4.8	11.6	佐藤 薔	1880.051	弘前大学蔵『成田コレクション考古資料図録』(図録152)
194a	壺	縄文晩期				12.9	6.6	9.9			底径5.1cm、「薄黒色」
194b	壺	縄文晩期	大洞A式			10.2	5.7	11.4			底径4.5cm、「淡白ニ朱ヲスリタル者ナリ」
195a	壺	縄文晩期	大洞C1式			6.3	7.7	8.9			
195b	壺	縄文晩期	大洞A式			9	4	10			
196	壺	縄文晩期	大洞A式			8.3	2.7	7.9	弘前安田氏	1880.0505?	「底丸ク色ハ淡白ナリ」
197a	石棒?	縄文晩期				54.5	3.2				
197b	壺	縄文晩期	大洞A式			11.2	2.7	7.3		1885.011	底径4.8cm
197c	不明										
197d	石棒頭部										
198	壺	縄文晩期	大洞A式			12.1	3.3	9.8		1883.052	底径5.5cm
199	壺	縄文晩期	大洞A式		(つがる市 亀ヶ岡遺跡)	12.7	12.1	15.9	久原房之助 (佐藤部旧蔵)		東北大学文学部蔵『考古学資料図録』J536(K84)
200	壺	縄文晩期後半		浪岡ノ城跡	青森市浪岡城跡	21.8	8.8	26.1		1885.011	底径7.6cm、一部拓本
201	壺	縄文晩期後半		瓶ヶ岡	つがる市 亀ヶ岡遺跡	21.5	8.9	20	佐藤		一部拓本
202	無頸壺	縄文後期	十腰内5式		(弘前市 十腰内(2)遺跡)	9.4	6.4	8.5	久原房之助		東北大学文学部蔵『考古学資料図録』J108(K245)底径6.7cm
203a	注口土器	縄文晩期	大洞A式			8.4	6.2	10	西津軽郡楯岡村 野呂氏		「黒色ニシテ凹所ニ朱ヲ存ス且ツ頗ル光澤アリ」
203b	鉢	縄文晩期	大洞C2式			8.5	11.9	11.9			「茶褐色ヲ帯ブ」一部拓本
203c	壺	縄文晩期	大洞C1式			7.9		6.4			
204a	注口土器	縄文晩期	大洞A式	瓶ヶ岡	つがる市 亀ヶ岡遺跡	9.7	6.7	11.8	原氏		
204b	蓋形土器	縄文晩期	大洞A式	瓶ヶ岡	つがる市 亀ヶ岡遺跡	5.4	6.4	6.4	原氏		
205	香炉形土器	縄文晩期	大洞A式		(つがる市 亀ヶ岡遺跡)	9.3		13.2	伊東氏	1883.091	杉山寿栄男『日本原始工藝』P18-4
206a	浅鉢破片	縄文晩期	大洞A式								「上五分斗リ丹ト土ト當分ニ合タルヲカケタルカ如シ」
206b	浅鉢破片	縄文晩期	大洞C1式								
206c	浅鉢破片	縄文晩期	大洞A式								
207a	浅鉢破片	縄文晩期	大洞A式								「黒色ニシテ質堅ク、凹に朱残レリ」

遺物リスト8

図番号	種類	時期	型式	出土場所	遺跡名	法量(cm)			所蔵者 (旧蔵者)	作画日	備考
						高	幅 (口径)	厚 (最大径)			
207b	浅鉢破片	縄文晩期	大洞A式								
207c	浅鉢破片	縄文晩期	大洞A式								「質堅ク黒シ少シ光澤アリ下モ同」
207d	鉢破片	縄文晩期	大洞A式								「質堅ク黒シ少シ光澤アリ下モ同」
208a	土器片	縄文									
208b	土器片	縄文									
208c	土器片	縄文晩期	大洞A式								
208d	壺破片	縄文晩期中葉									
208e	鉢破片	縄文晩期	大洞C2式								
208f	浅鉢破片	縄文晩期	大洞A式								
208g	壺破片	縄文後期?									
209a	鉢	弥生前期	砂沢式	瓶ヶ岡	つがる市 亀ヶ岡遺跡	6.4	8.5	9.2		1904.01.17	
209b	壺	縄文晩期		建石	鯨ヶ沢町 建石地区	10.4	6.7	11.5		1904.01.18	一部拓本
210	無頸壺	弥生中期	田舎館Ⅲ群			13.3	8.4	17.3			
211	蓋	弥生中期		田舎館田ノ中	田舎館村 垂柳遺跡	1.2	14.5	14.5			穴4か所、一部拓本
212	壺	弥生中期		畑中	田舎館村 観妙寺遺跡or畑中遺跡	21.1		15.9			一部拓本
213	甕	弥生中期	田舎館Ⅲ群			21.2	16.3	17.2			一部拓本
214a	オホーツク式土器	7世紀		北見国枝幸郡枝幸村海岸	北海道枝幸町	12.1	12.1	11.4	久原房之助	1891.3.20	東北大学文学部蔵『考古学資料図録』N015 (K6)「鯨漁場 田口初太郎所持地ヨリ出ス」
214b	オホーツク式土器	7世紀		北見国枝幸郡枝幸村海岸	北海道枝幸町	22	20.5	21.7	久原房之助	1891.3.20	東北大学文学部蔵『考古学資料図録』N014 (K5)底径9.9cm
214c	オホーツク式土器	7世紀		北見国枝幸郡枝幸村海岸	北海道枝幸町	22	16.6		久原房之助	1891.3.20	東北大学文学部蔵『考古学資料図録』N016 (K4)底径8.4cm
215	オホーツク式土器	7世紀		北海道北見国網走	北海道網走市内	13	8.6	11.1			「色褐色ニシテ黒ノ班アリ」
216	須恵器壺	10世紀第3四半期	五所川原産?	猿賀神社	平川市猿賀館遺跡	22.1	12.1	19.5	尾上村福士氏	1883.012	底径12.1cm、「明治十三年之頃猿賀神社之草ヲ取セシ時人夫社之後ヨリ掘得タルト云フ」、「如图六ノ字アリ数ノシルシカ」
217	須恵器壺	10世紀	五所川原産?			残23.6		17.5	神氏		「大」ヘラ記号あり、一部拓本
218	須恵器壺	10世紀第1四半期	五所川原産?	字松本と云畑	弘前市鷹ノ巣遺跡	12.1		13.5	松木平村相馬長次郎	1884.070	底径6.1cm、肩部にヘラ記号あり
219a	須恵器壺	10世紀	五所川原産?			24.5	3.6	18.1			底径9cm、肩部にヘラ記号あり

遺物リスト9

図 番号	種類	時期	型式	出土場所	遺跡名	法量 (cm)			所蔵者 (旧蔵者)	作画日	備考
						高	幅 (口径)	厚 (最大径)			
219b	須恵器	10世紀	五所川 原産?			35.1	14.5	27.5			底径12.1cm
220	須恵器 壺	10世紀	五所川 原産?	西津軽郡大 館村沼ノ崎	つがる市 (旧森田 村)大館	残22.5		18			胴部にヘラ記号「L」
221	須恵器 壺?			浪岡村土中	青森市浪 岡地区	残18.8		20	下澤氏	1881.052	「黒色質堅シテ光澤ナ ス」
222	須恵器 中甕	10世紀	五所川 原産?	廣須新田		55.4	44.2	57.9		1881.082	
223	須恵器 中甕	10世紀第 1四半期	五所川 原産?	玉川村ノ山 中	鶴田町稲 元遺跡	46.9	21.2	43.9	西津軽郡猫 淵村 山本 惣左衛門 (惣左衛門 ノ二男十六 歳ノ時玉川 村ノ山中ヨ リ堀出ス)	1881.041	「材ハ瓦ナリ 堅コト鍋 鉄ノ如シ」
224	須恵器 中甕	10世紀第 3四半期	五所川 原産?			27.9	18.2	29.4			
225a	須恵器 破片	9世紀	秋田 県?				21.2				内面に青海波文
225b	須恵器 甕										1868年頃出土か?
226	須恵器 中甕破 片	10世紀第 2~3四半 期	五所川 原産?								拓本
227	須恵器 平瓶	平安時代				7.8	3.4	10.9			
228	珠洲焼 播鉢	15世紀前 半	珠洲V 期	小泊村中ノ 山	中泊町小 泊地区	38.8	37.9	37.9	尾崎行雄氏	1900.11.13	底径15.8cm、一部拓本
229	内耳鉄 鍋	17世紀				18.5	33.3	33.3			一文字湯口、厚さ0.6cm、 深さ17.3cm、底径24.8cm
230	内耳鉄 鍋	17世紀					27.1	27.3			厚さ0.6cm、深さ13.6cm



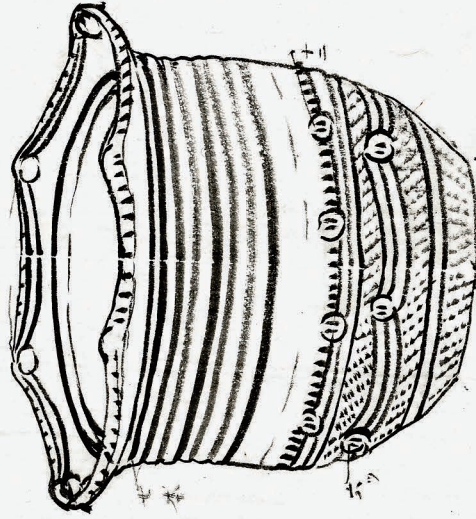
下面

南津縣郡

田舎館村田ノ中ヨリ出ス

高サ二寸三合

口徑二寸二合



仁都竹館村

大字廣船堤ノ下ヨリ出ス

高サ一十七合

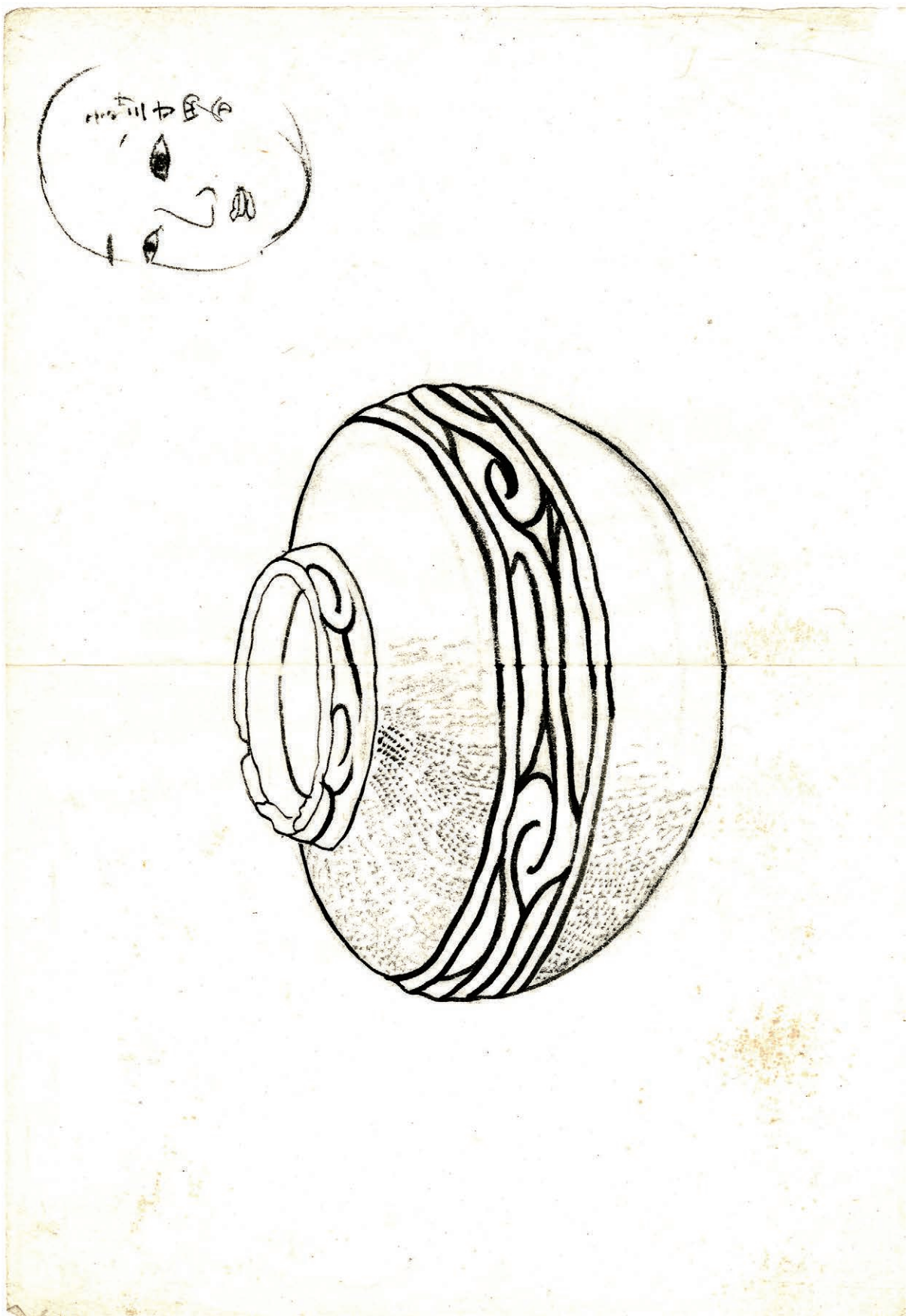
色やうや

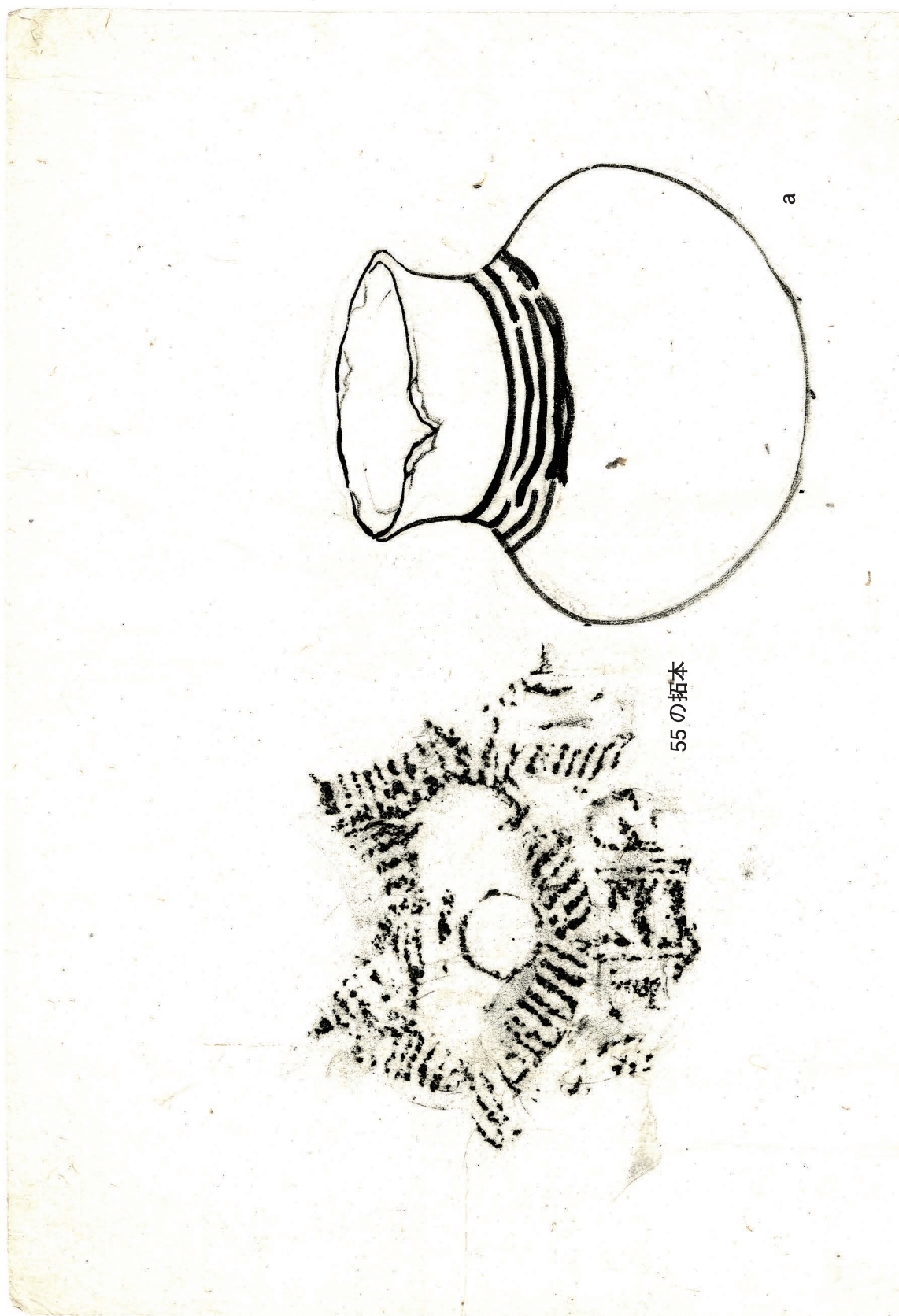


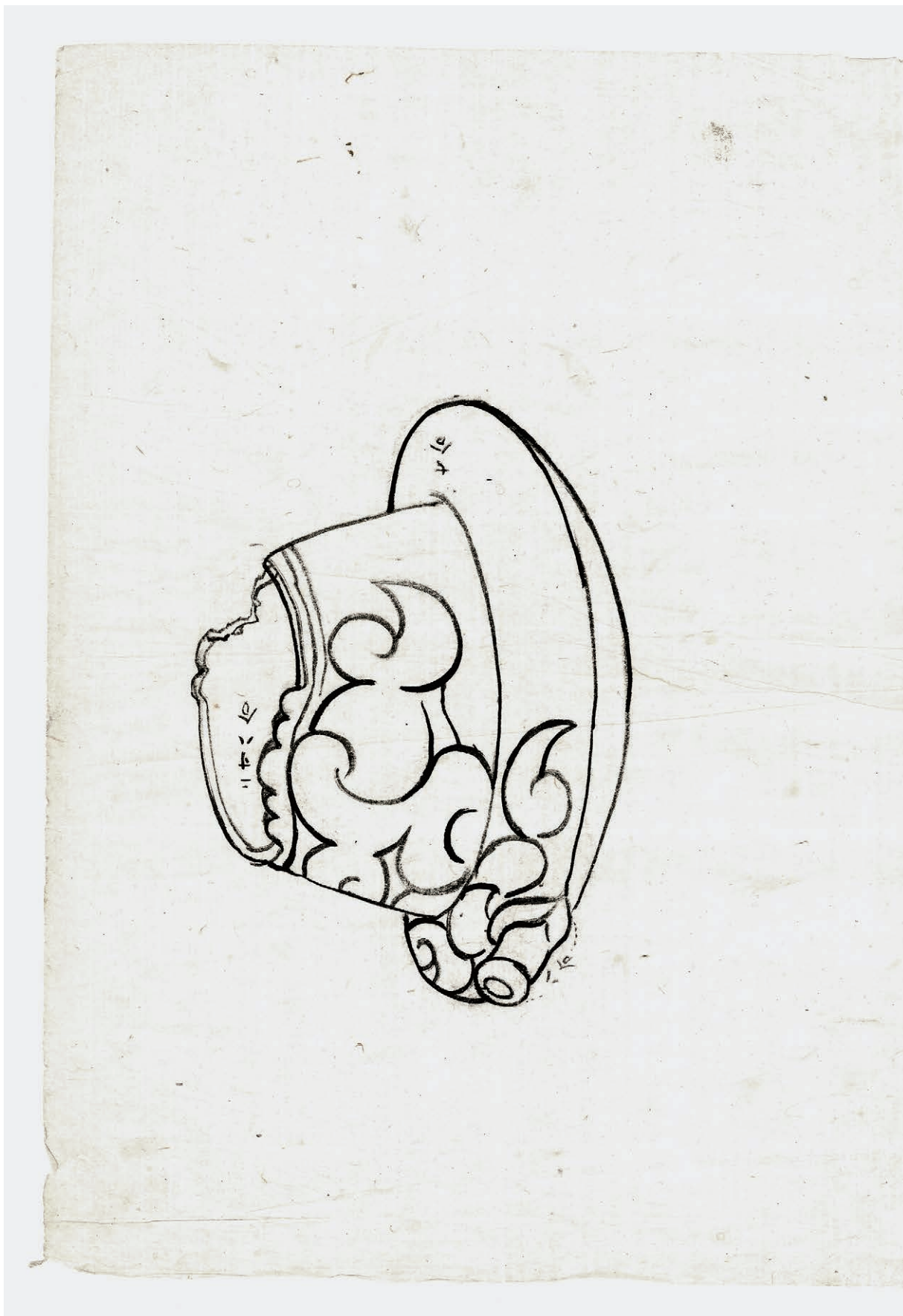
101 正面



前縁

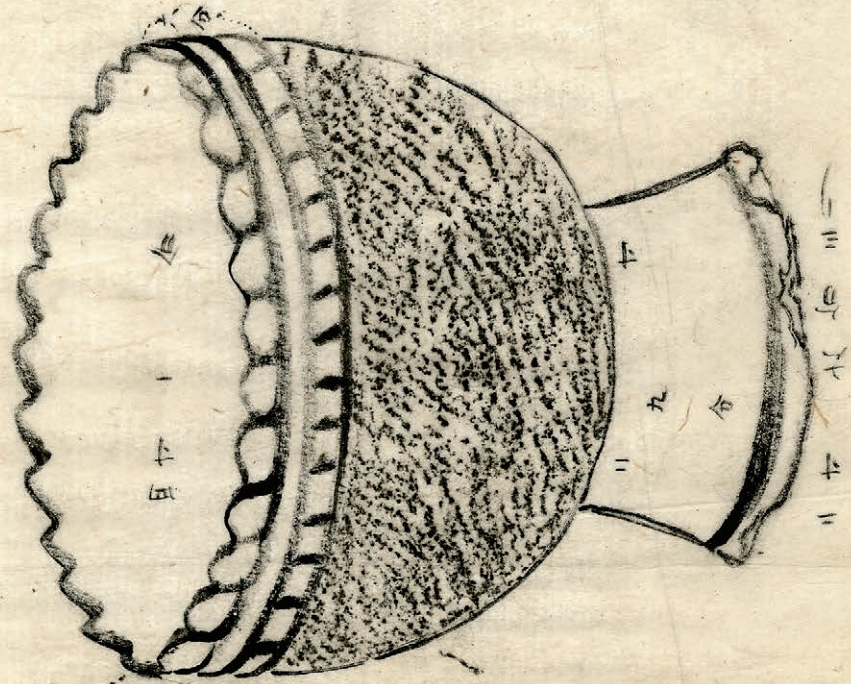






高^地 三十七合
厚^土 一合

命 廿 子 百



二 十 七 三

下

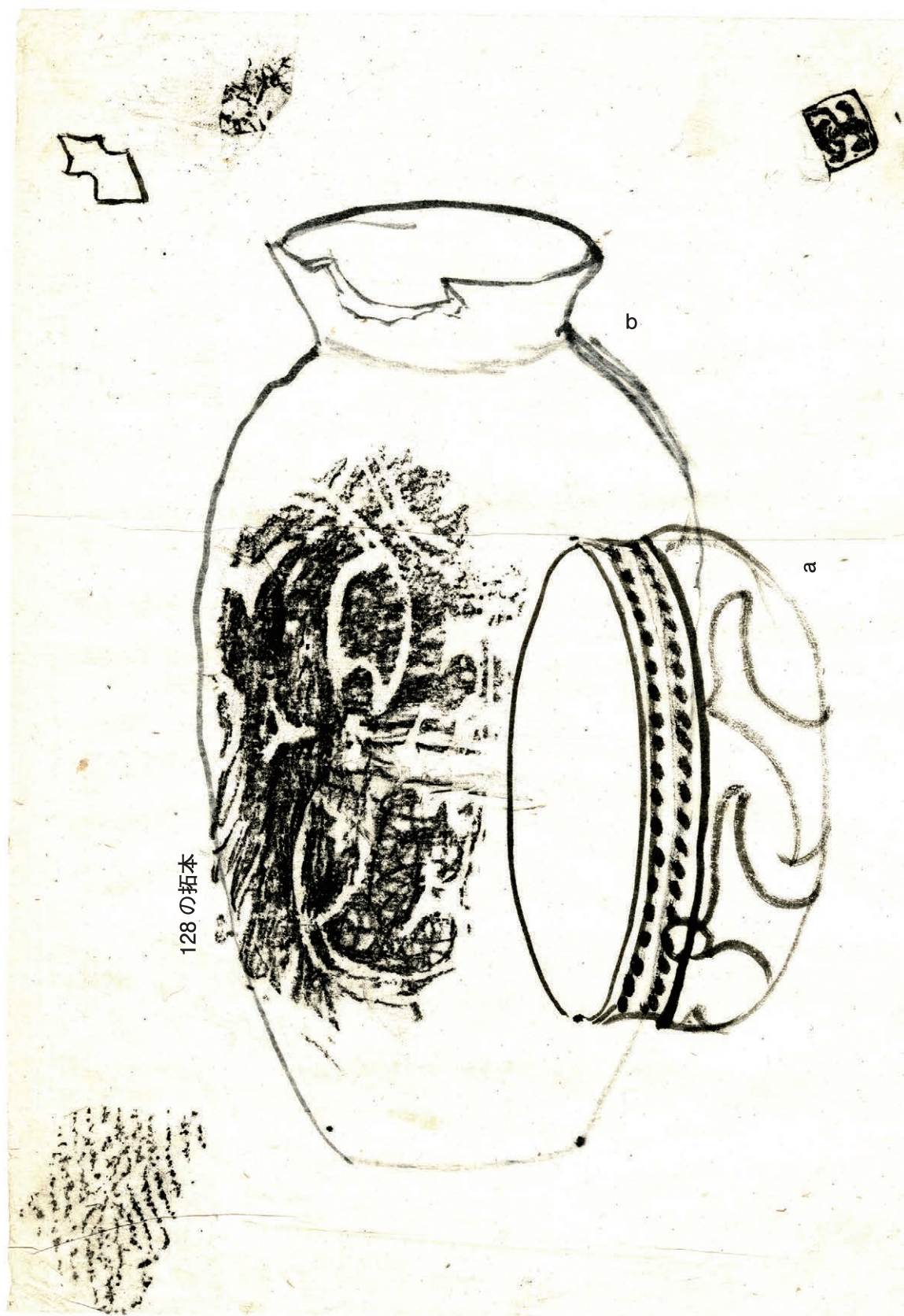
九

今

44

—

LIII



128の拓本

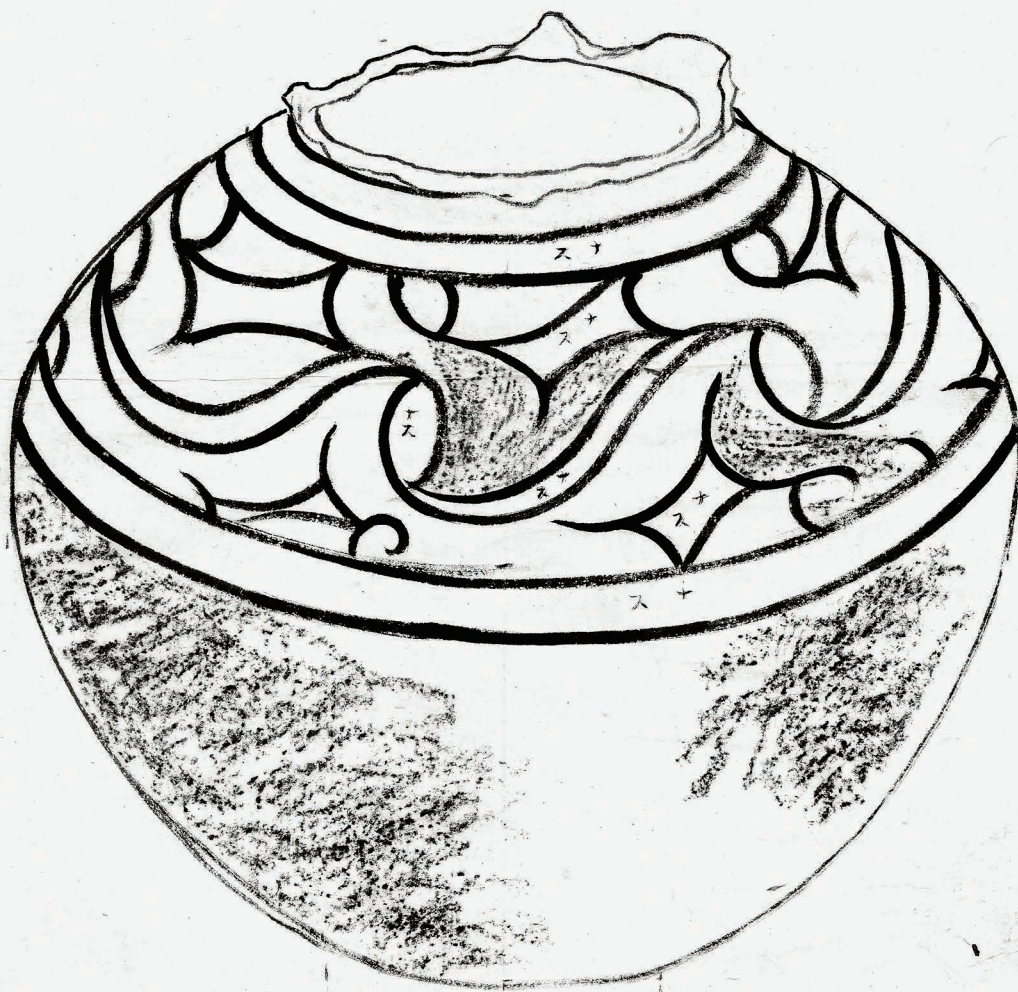
浅田祇羊翁藏

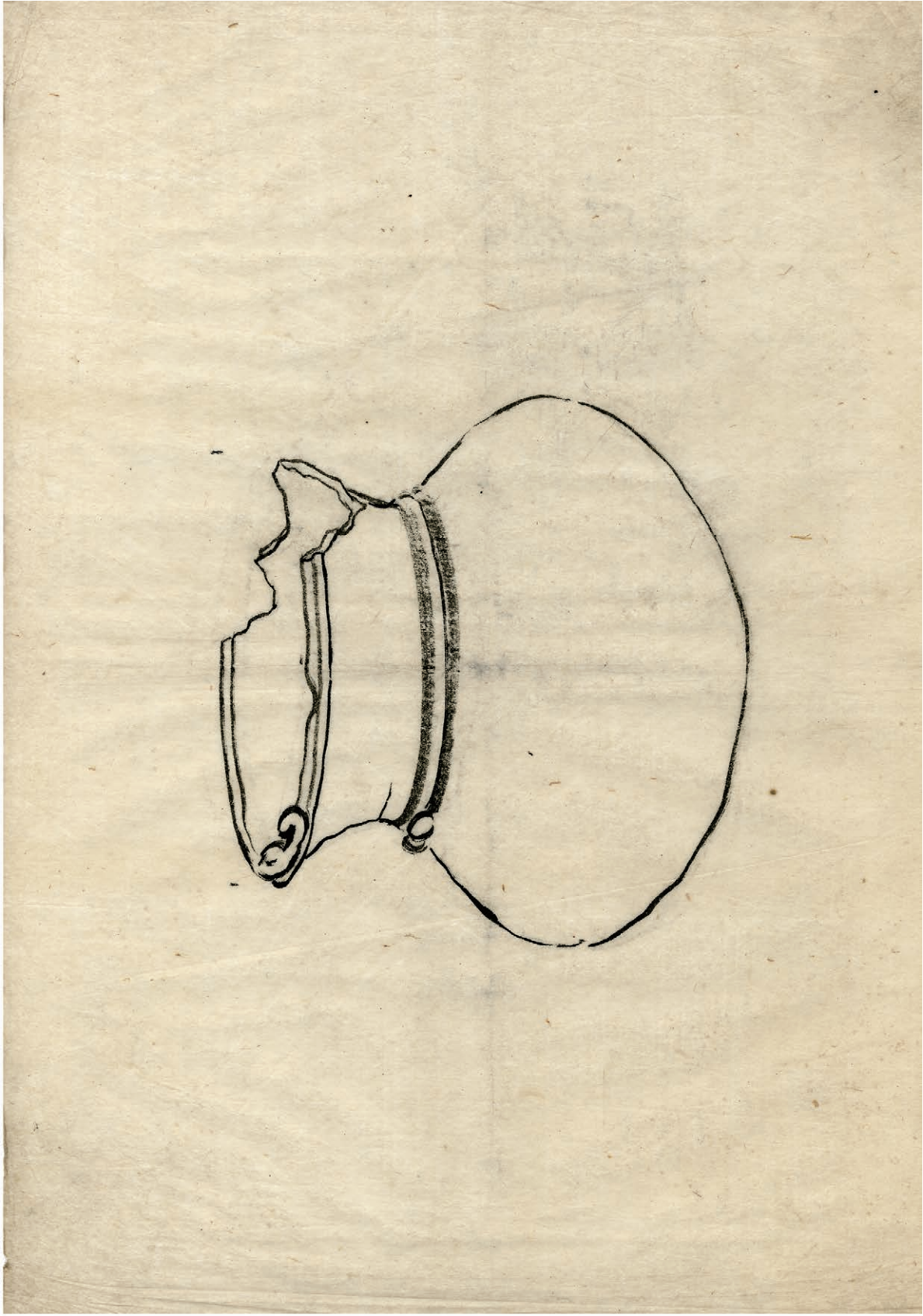
原別村大字浪打

射的場造宮際

本テタル内具一ツアリ

質堅クレテ未ツ塗レリ



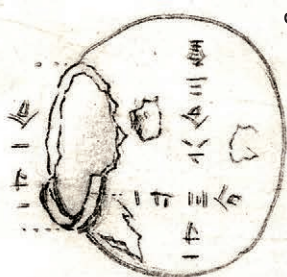


谷口氏藏

廿年六月十日

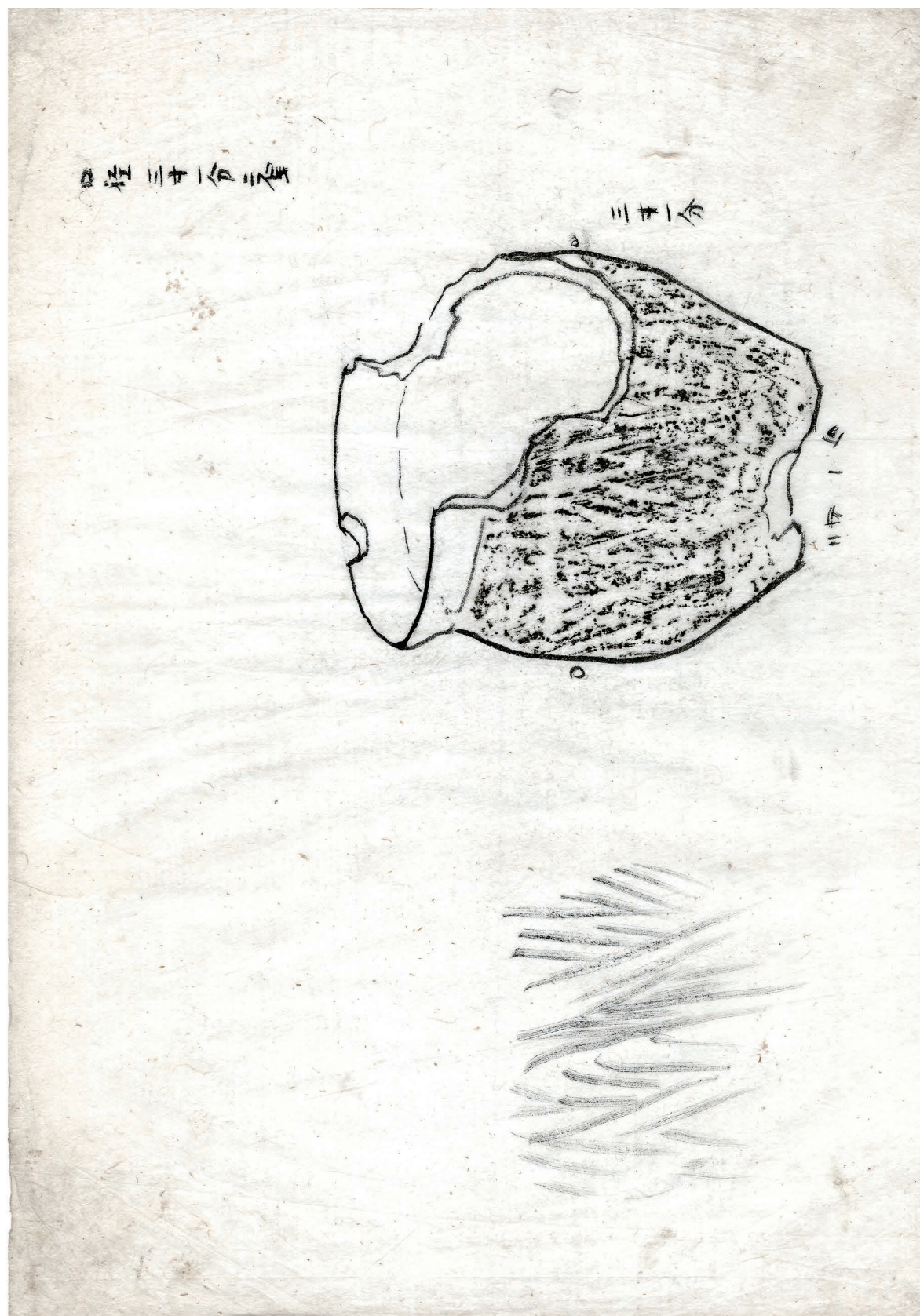
黒色光澤

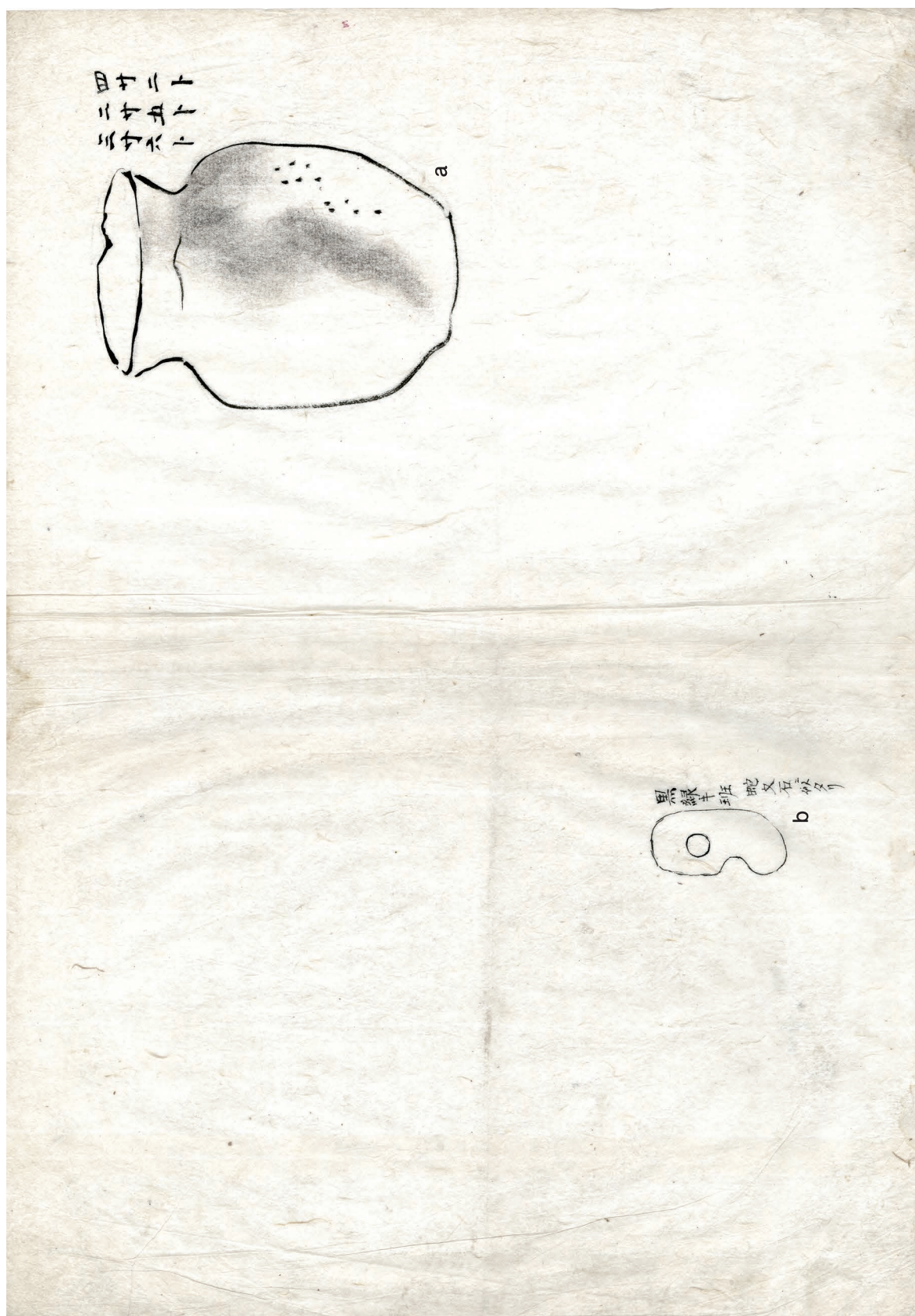
ア



座五命旦西リ

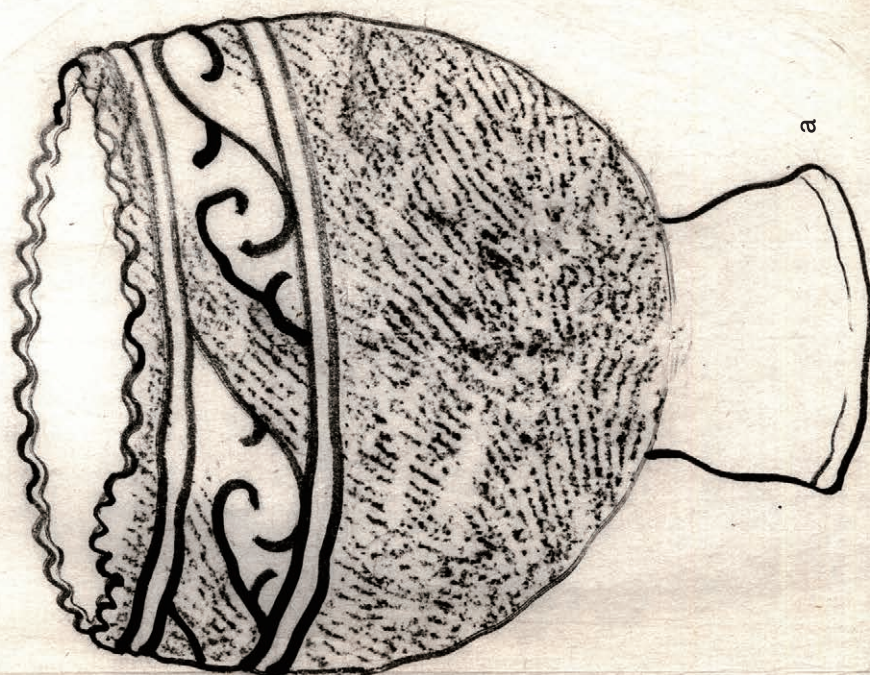






西津郡 龍南村
佐藤太七氏藏

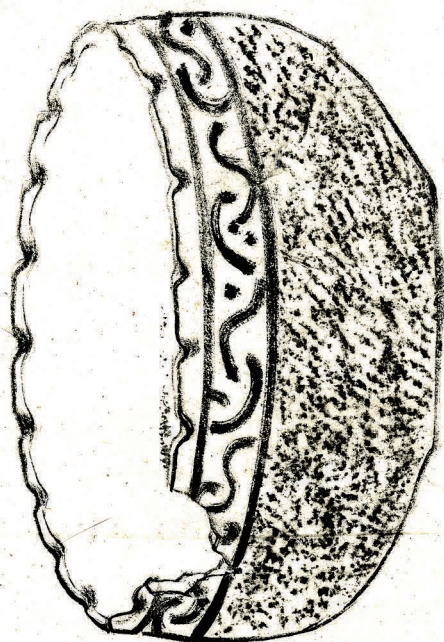
薄褐色 土器



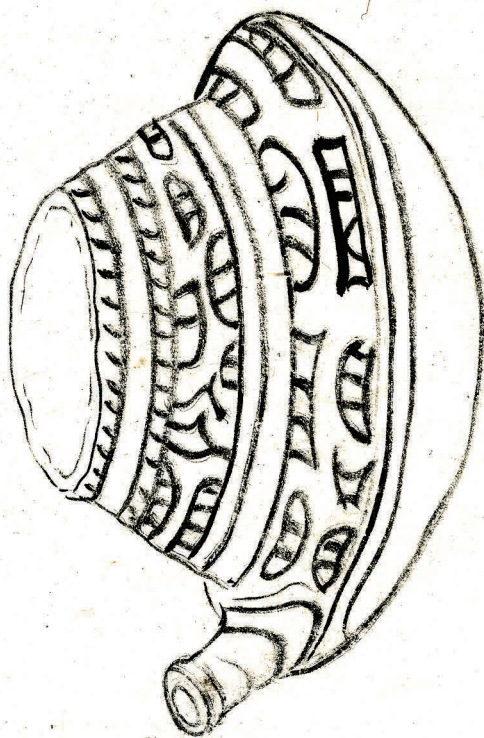
茶褐色 土器



三十三卷

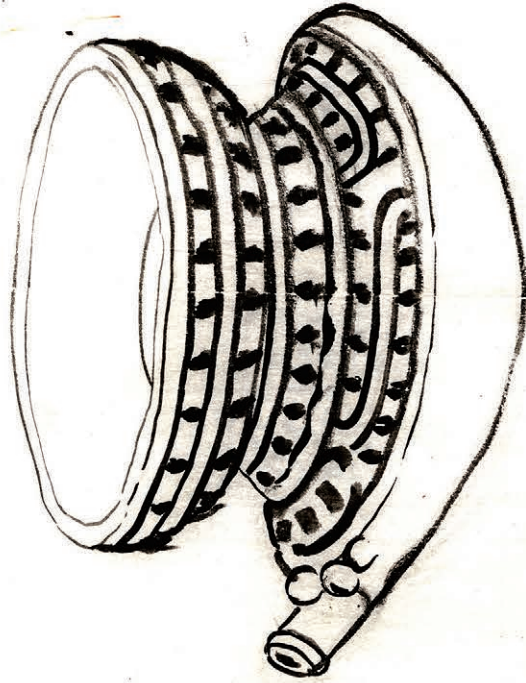


a

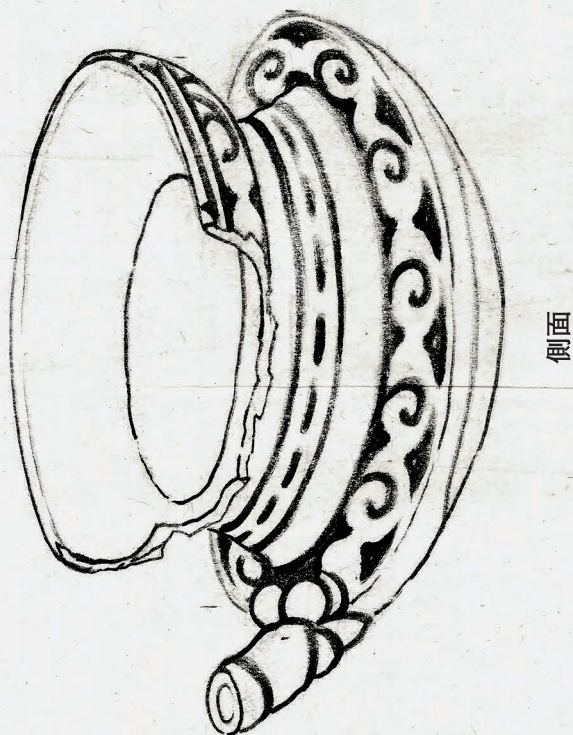
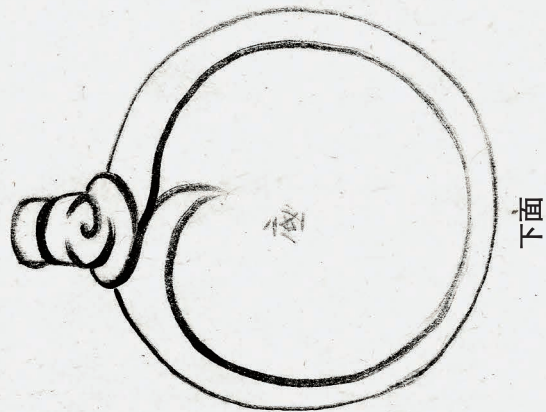


b

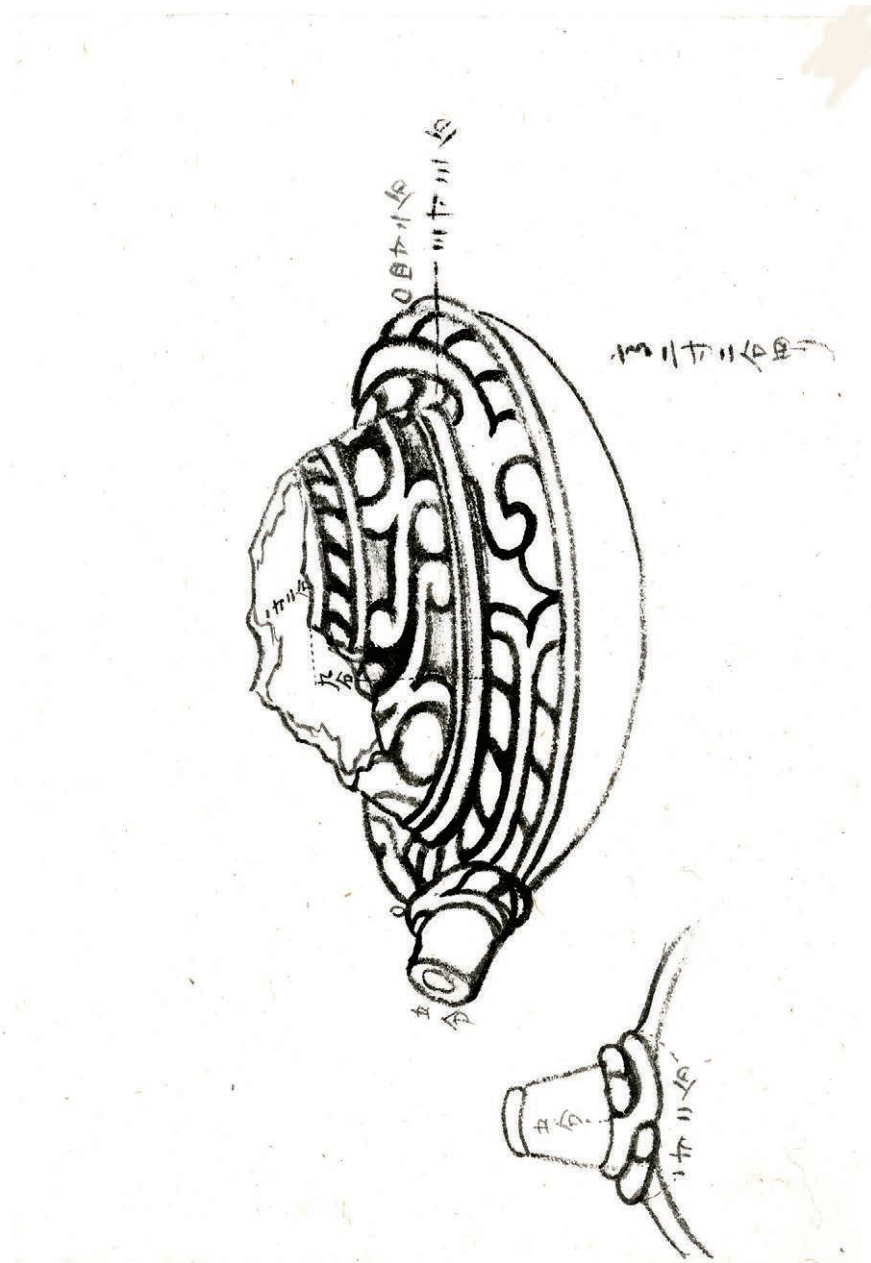
高十八寸



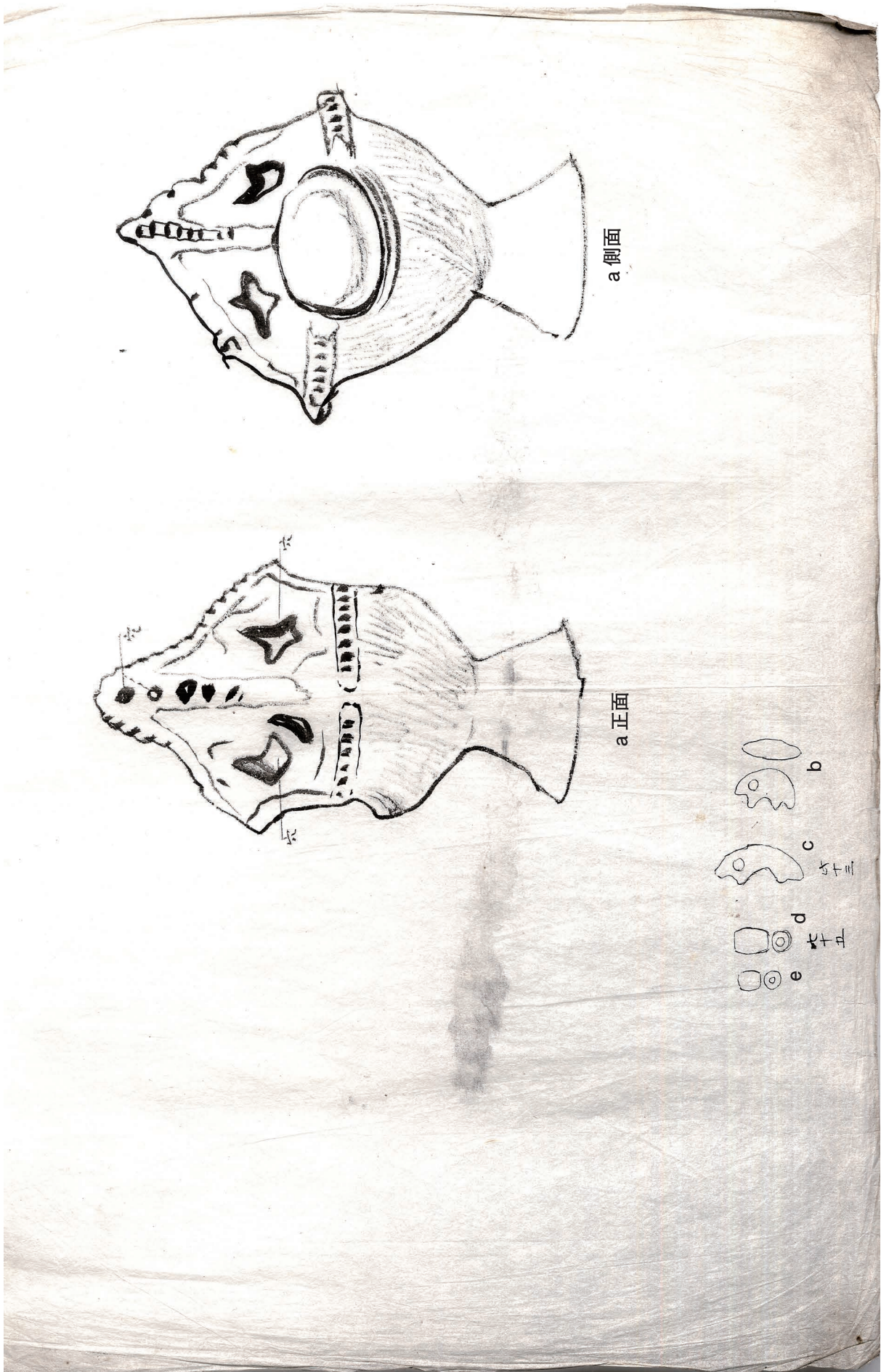
高四寸三分
口徑三寸六分二釐
圓內二寸二分二釐







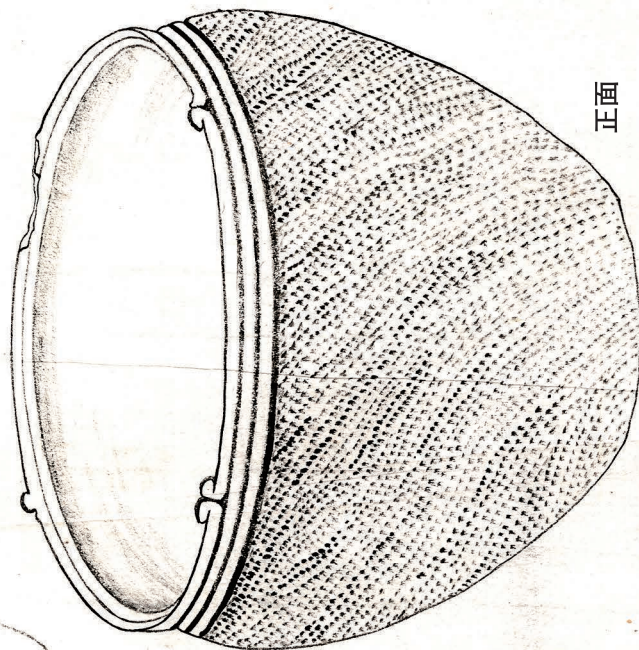
118



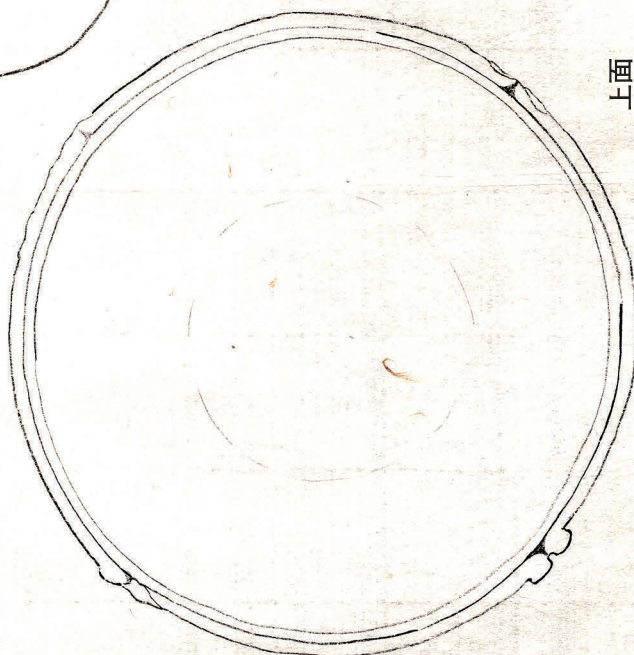
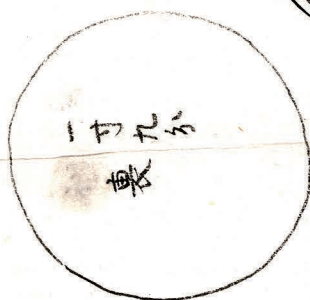
高サ四寸七分
口径三寸八分



口徑四寸五分
 竹白漆の
 裏



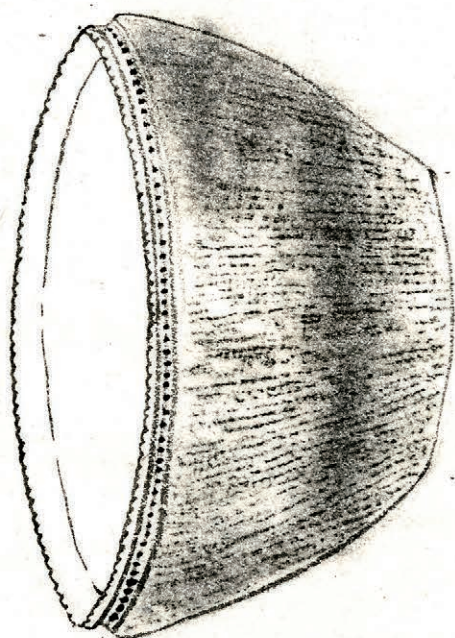
正面



上面

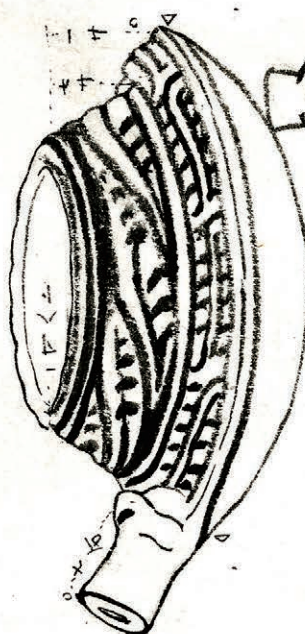
西津輕郡鳴沢大字建石

明治三十七年
一月十七日寫

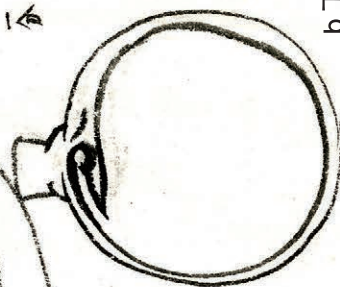


a

口四寸三分 高三寸七分
高四寸二分



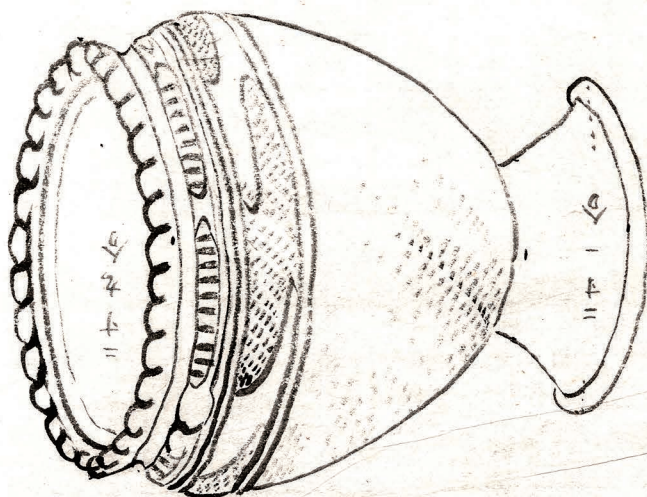
b 左側面



b 下面

弘前
柏谷氏藏
同前

高_サ三寸三分

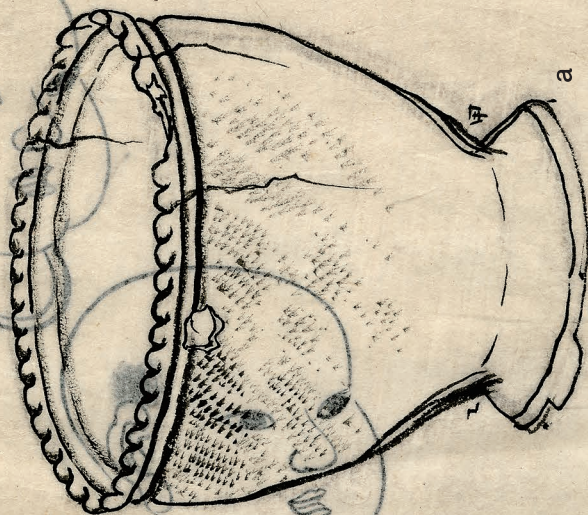


薄茶褐色ヲ帶フ

弘前
今氏藏



高サ二寸八分
 口径三寸三分
 甲乙二寸七分
 底二寸二分
 深サ二寸三分五厘
 竹貫半腹黒シ
 少シ光澤ナリ



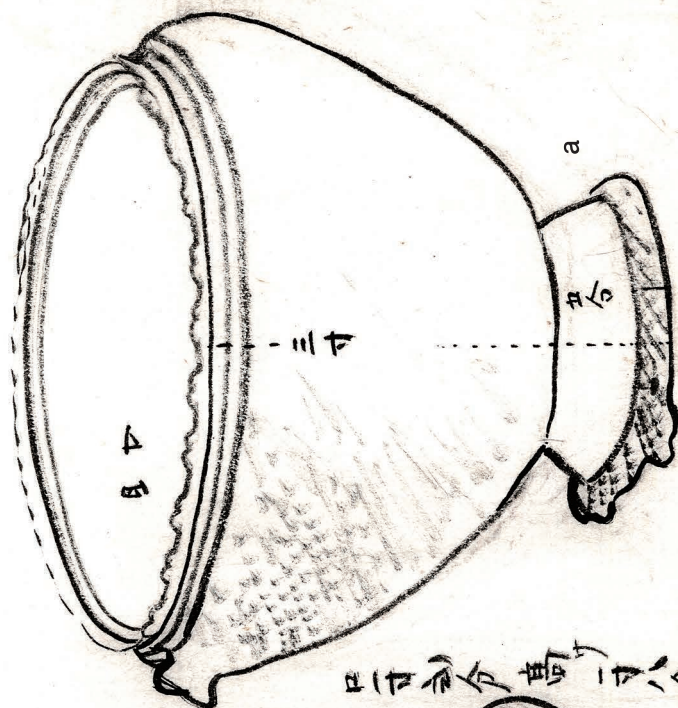
高サ三寸五分
 口径二寸二分
 腹径三寸五分
 底径二寸二分
 淡白ニシテ
 光澤ナシ

甲乙二寸三分



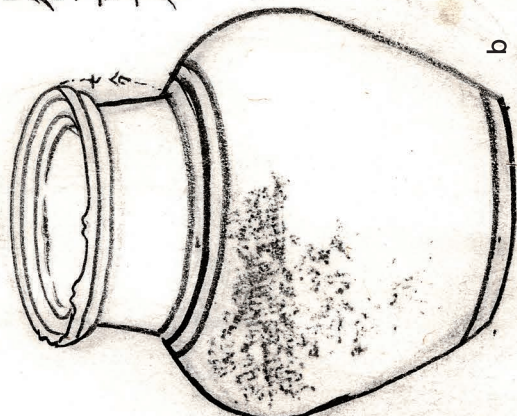


14a 背面

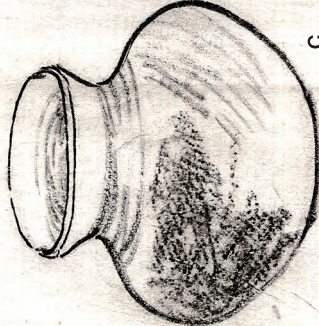


口徑一寸七分 高一寸八分

高一寸七分
口徑一寸七分



高一寸五分

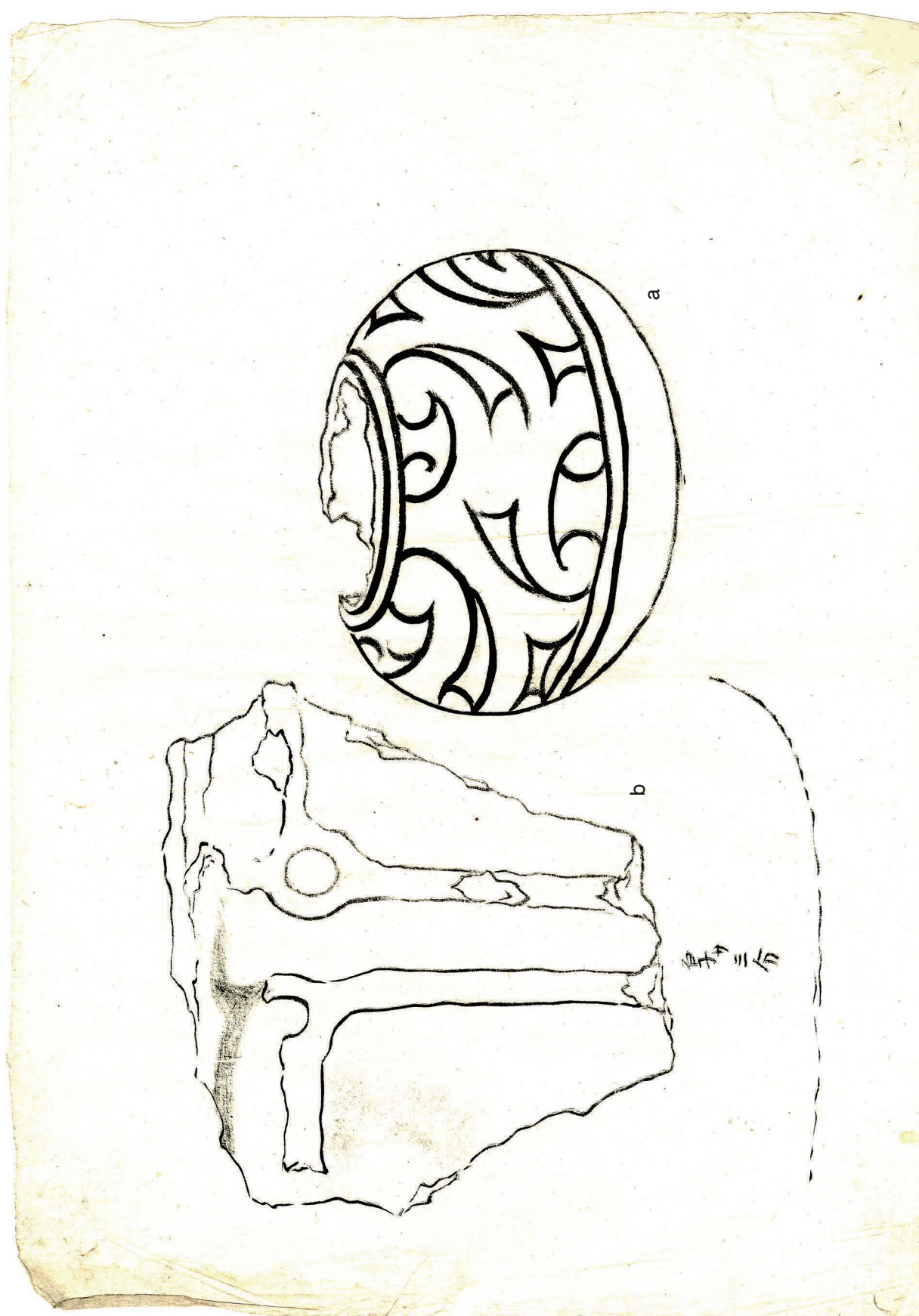


高一寸二分

明治十八年乙酉

西曆一千九百零一年

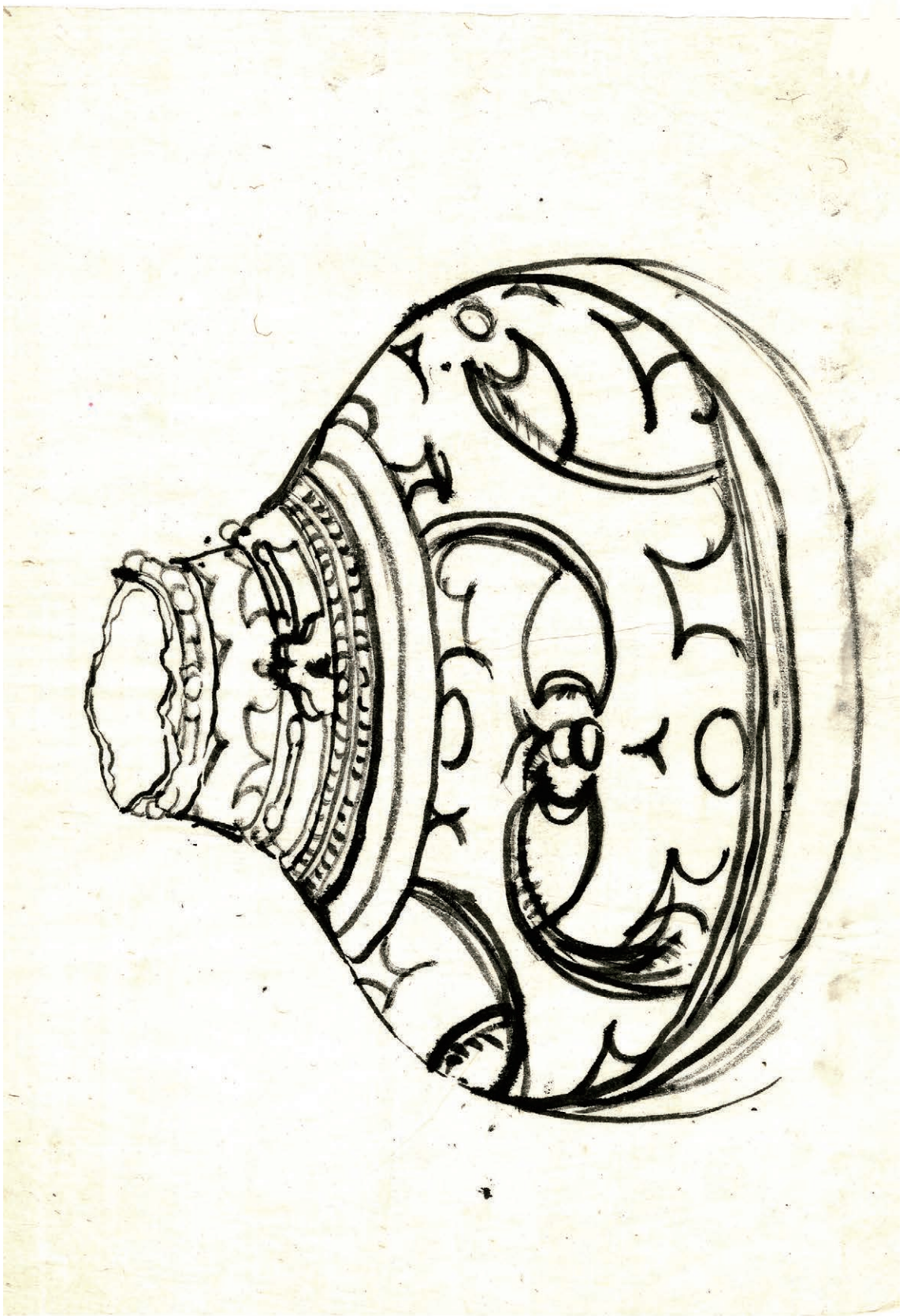




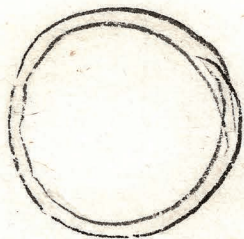
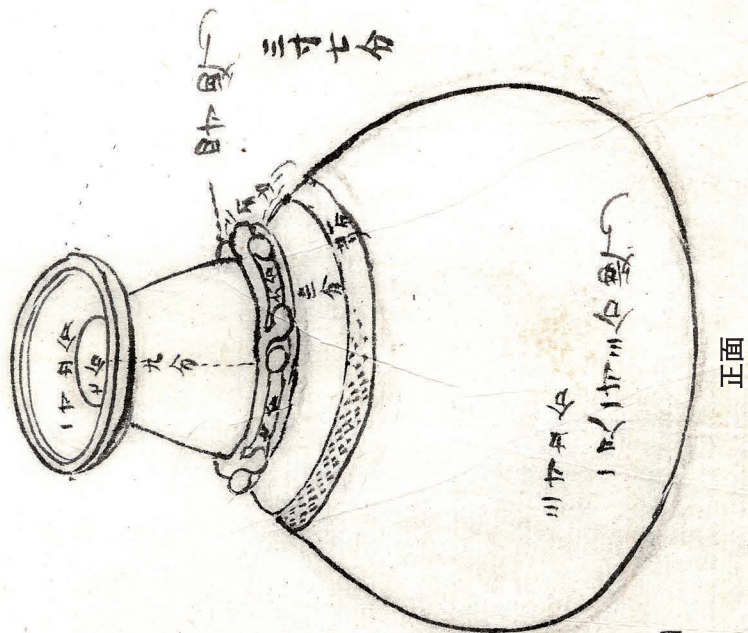
a

b

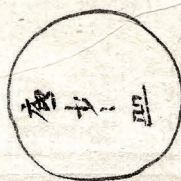
身三令



弘明
今氏之癭



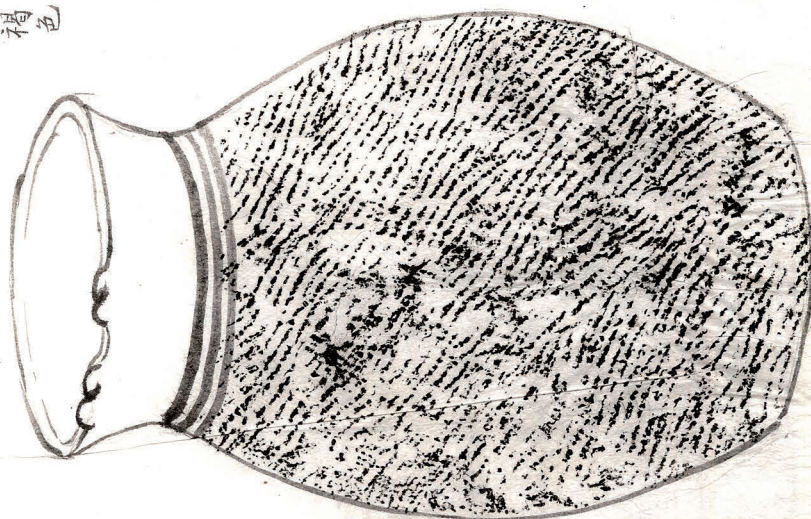
口縁部上面

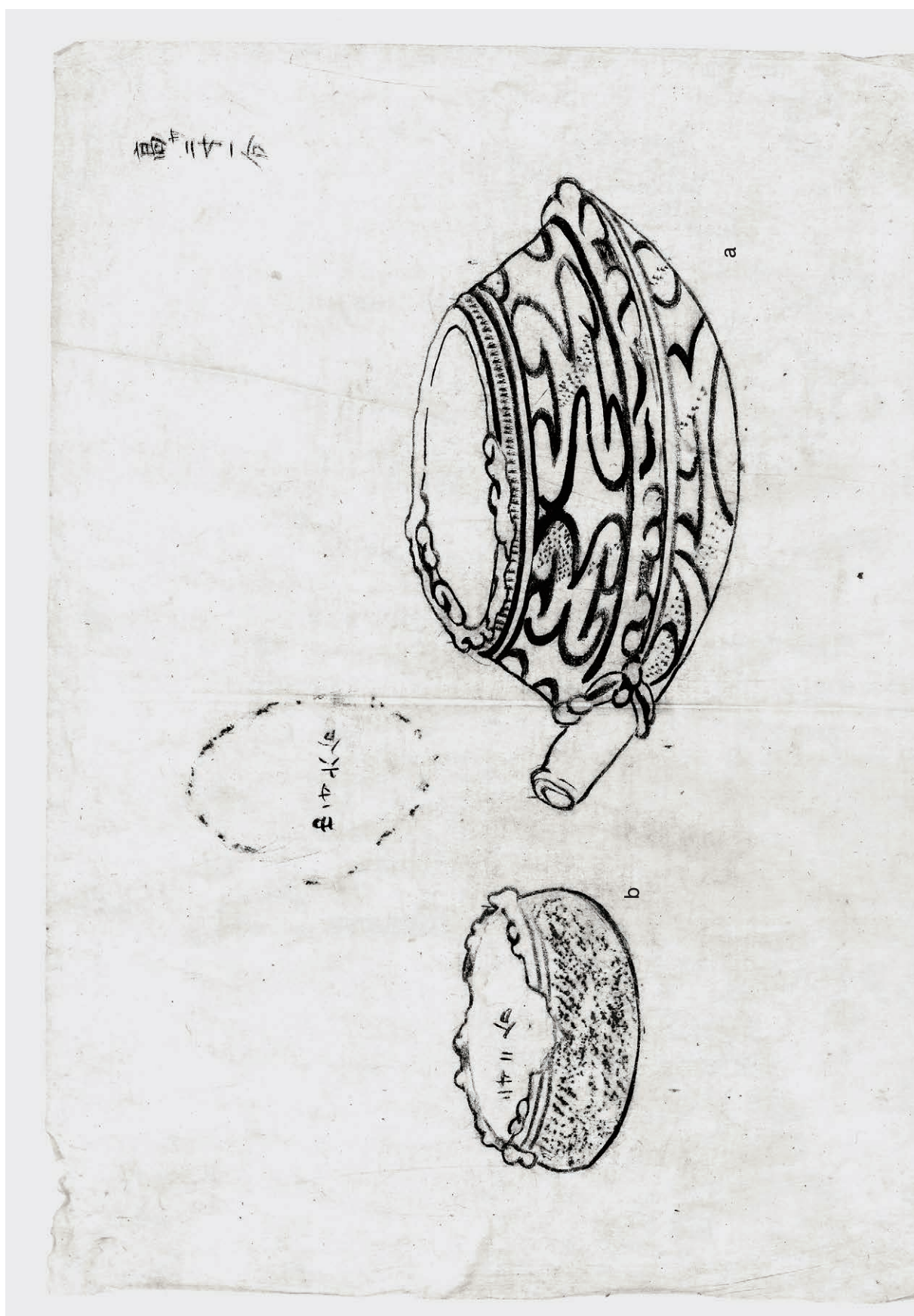


申
九月十日



相 沢
雪田氏藏
色 桑 褐色

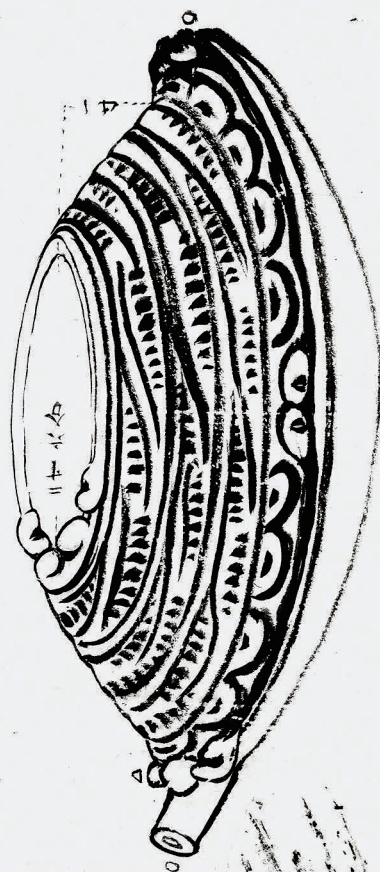




中津輕郡裾野村
大字千腰内字大字
高サ三寸三分
〇△四寸五分
耳三分中

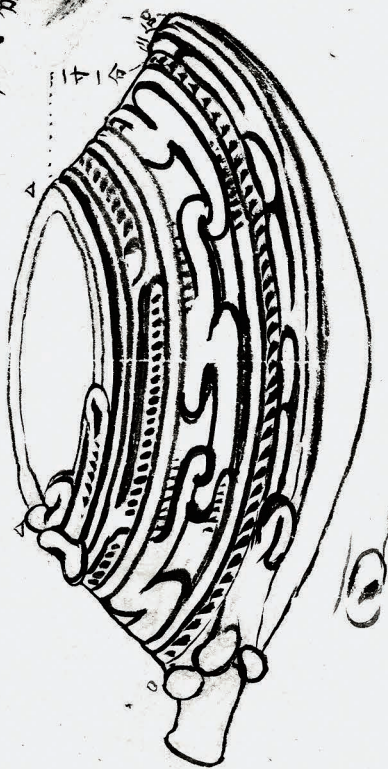


a 拓本



a

高サ
〇四寸五分
△二寸九分



b

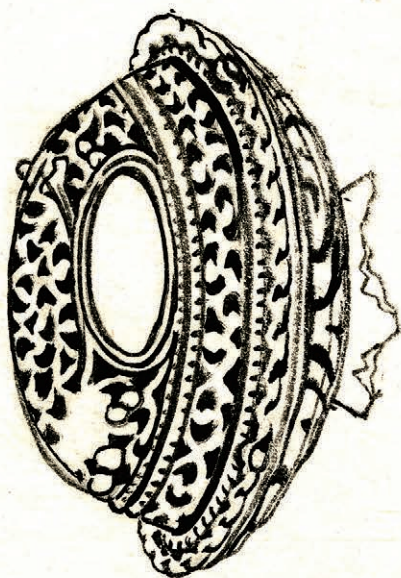


b 拓本

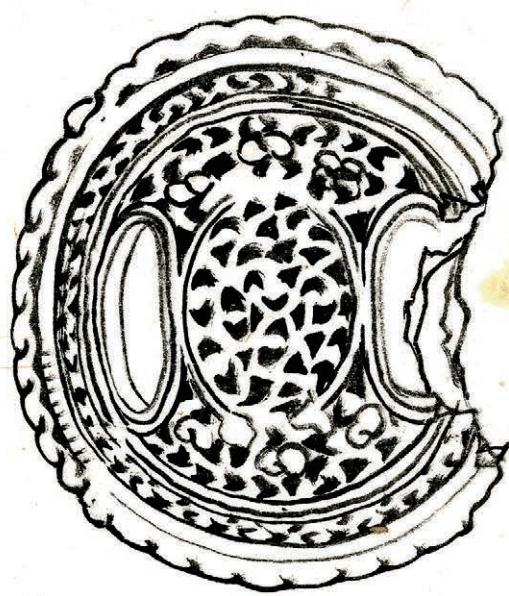
青森市

今泉清氏藏

龍ヶ岡より出土



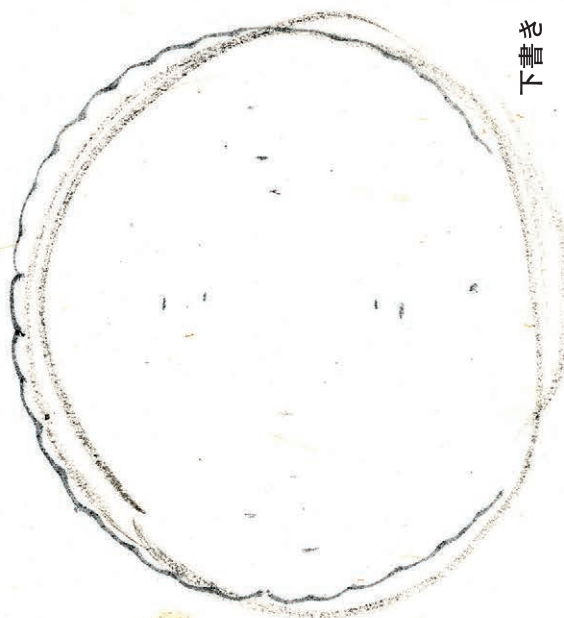
135A



上面



拓本



下書き

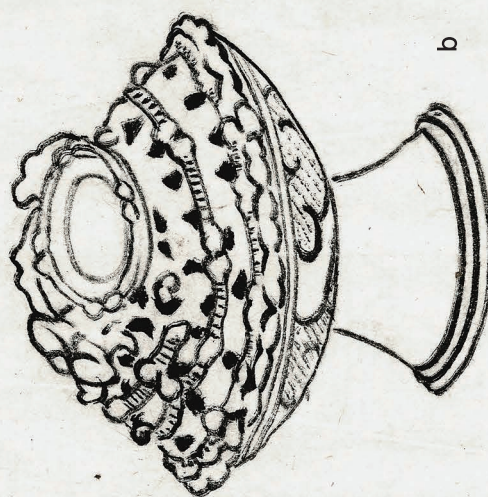
135B

西澤輕部不造利

高屋氏所藏

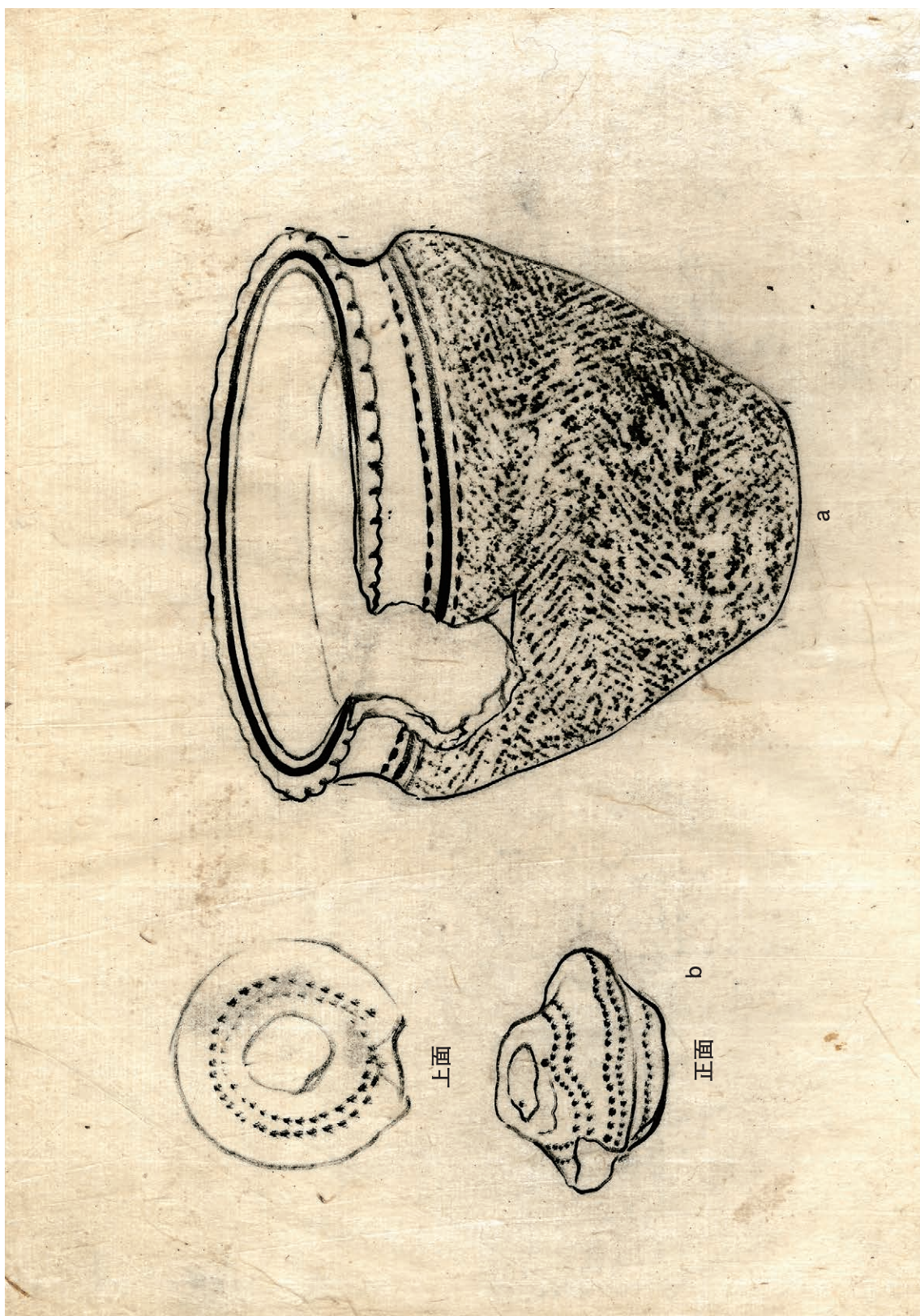


a



b

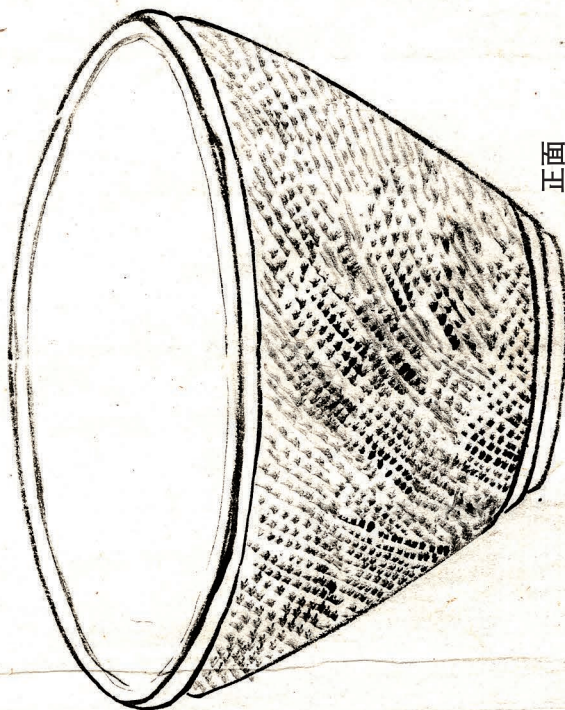
薄里色ノ部ナ



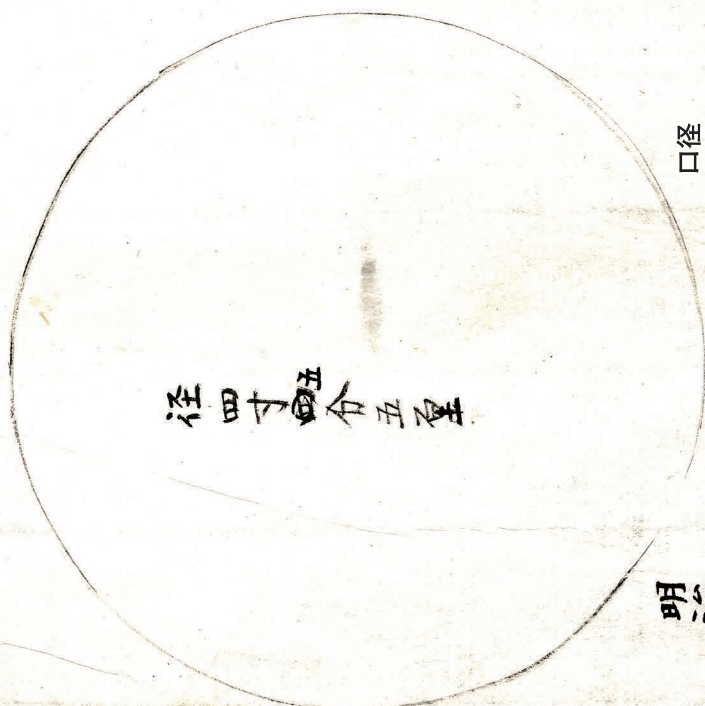
137

黒石
増田氏之藏

高廿二分
厚一分五厘

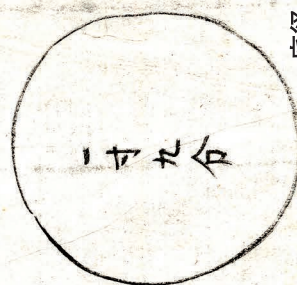


正面



口径

径四寸五分五厘

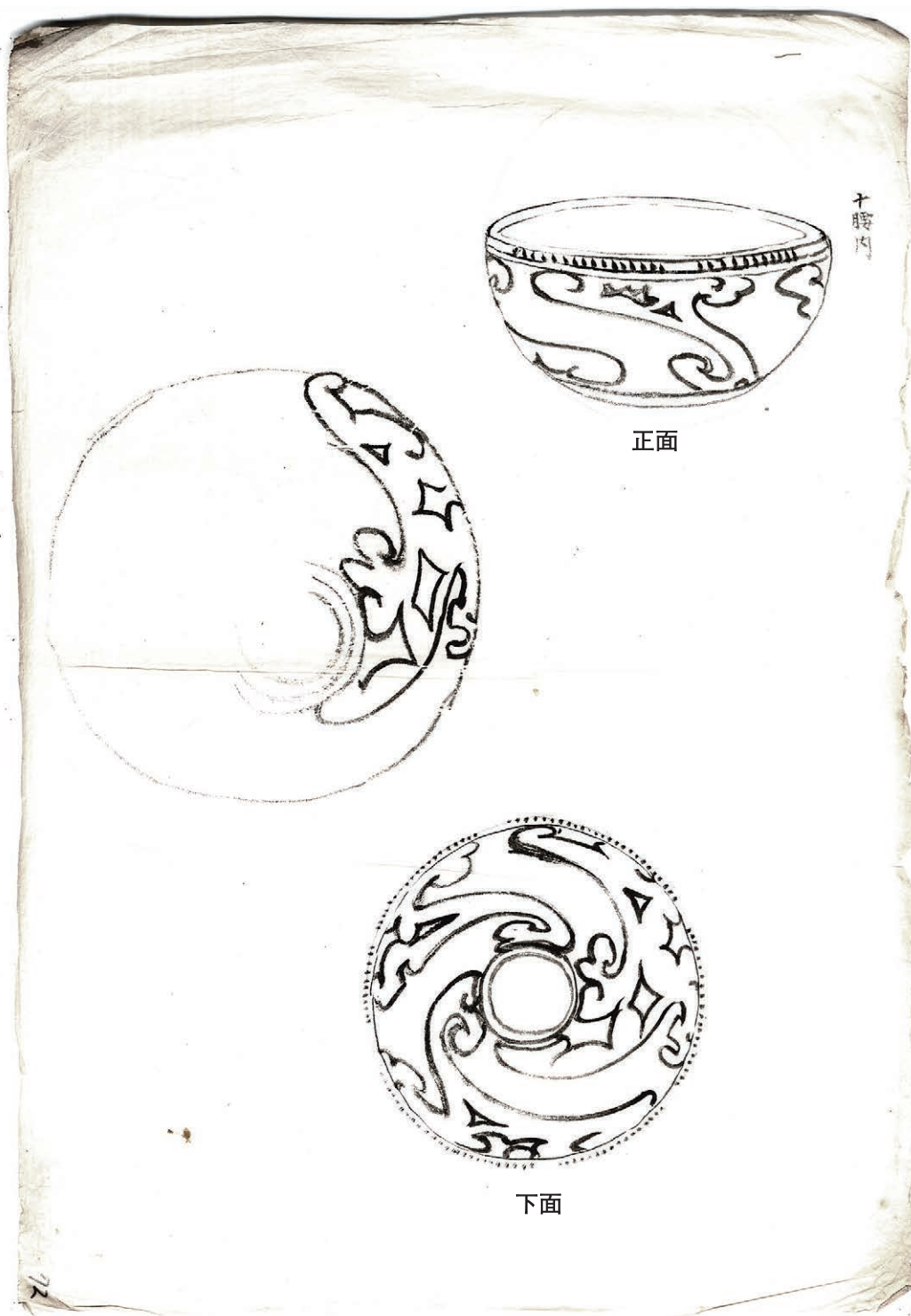


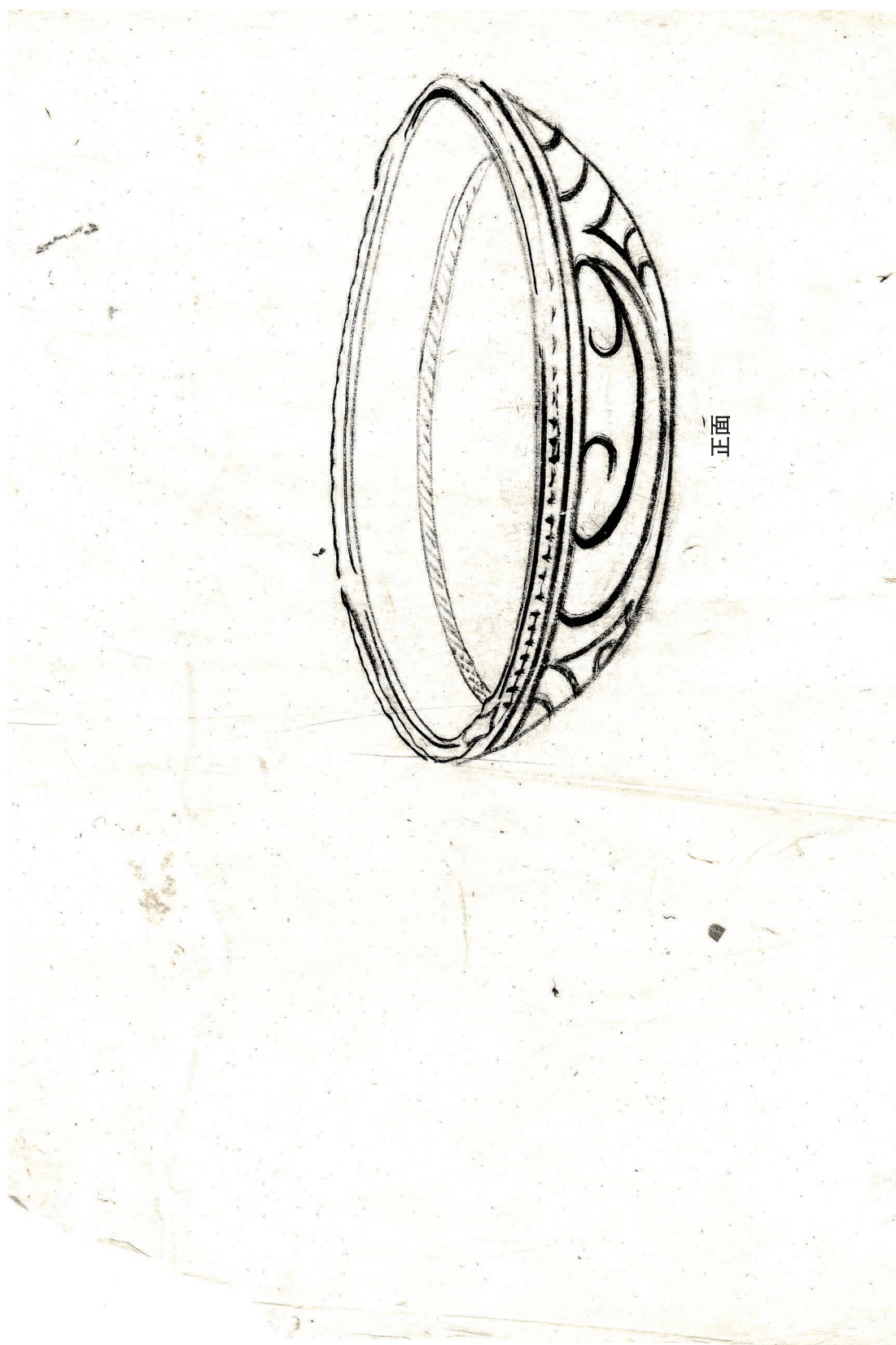
底径

一寸九分

明治十七年

旧二月廿六号





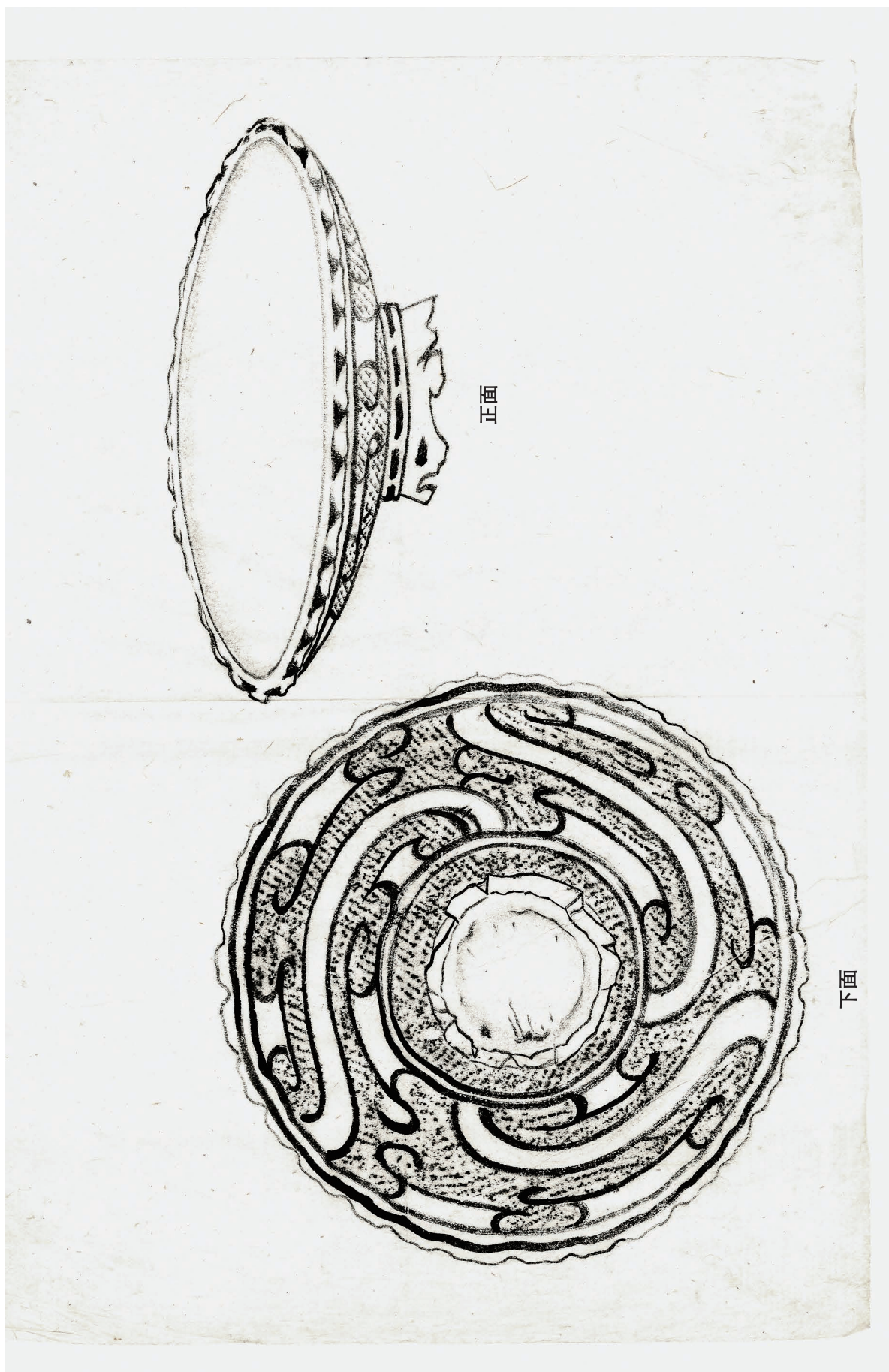
正面

140A



下面

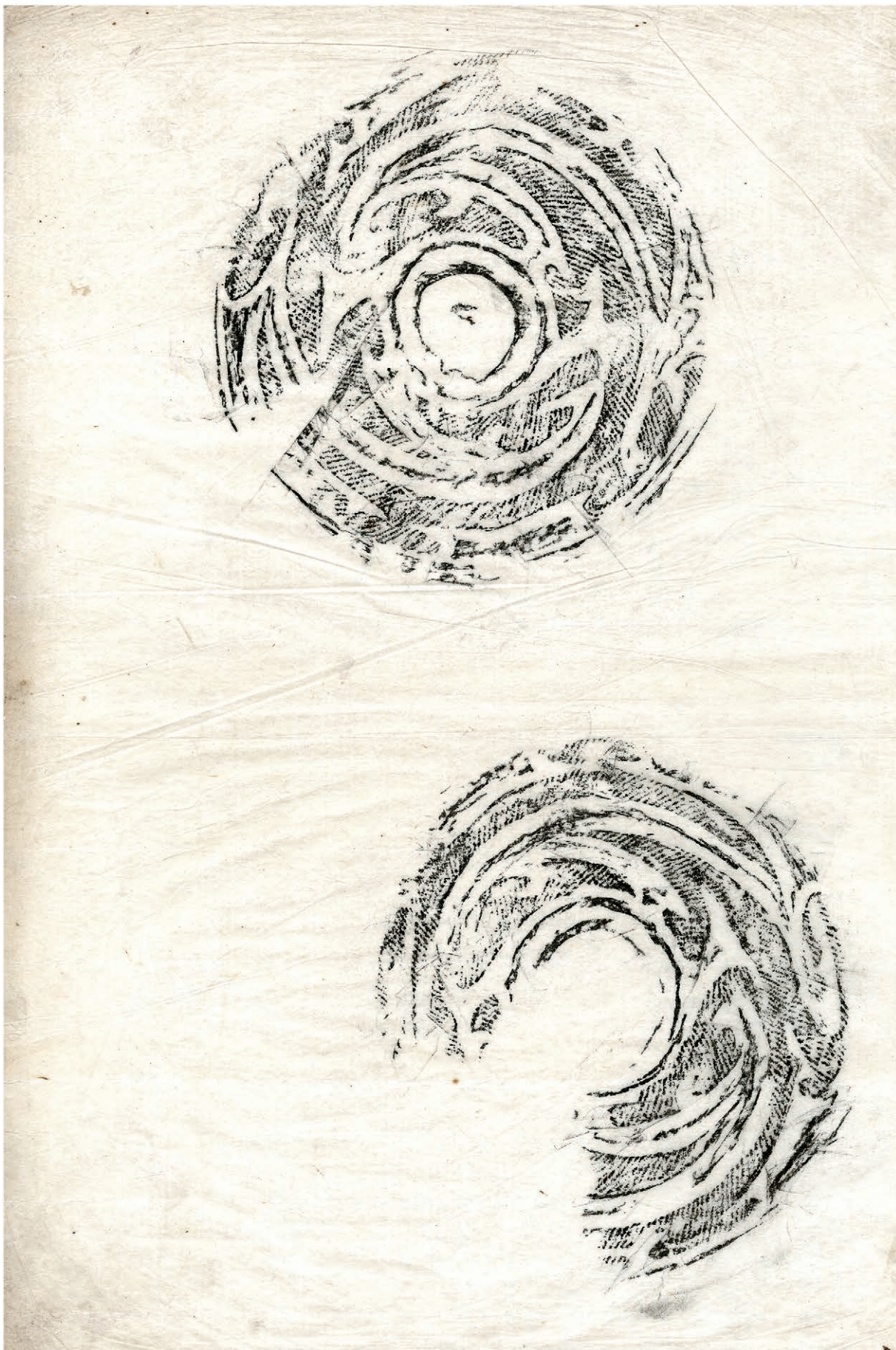
140B



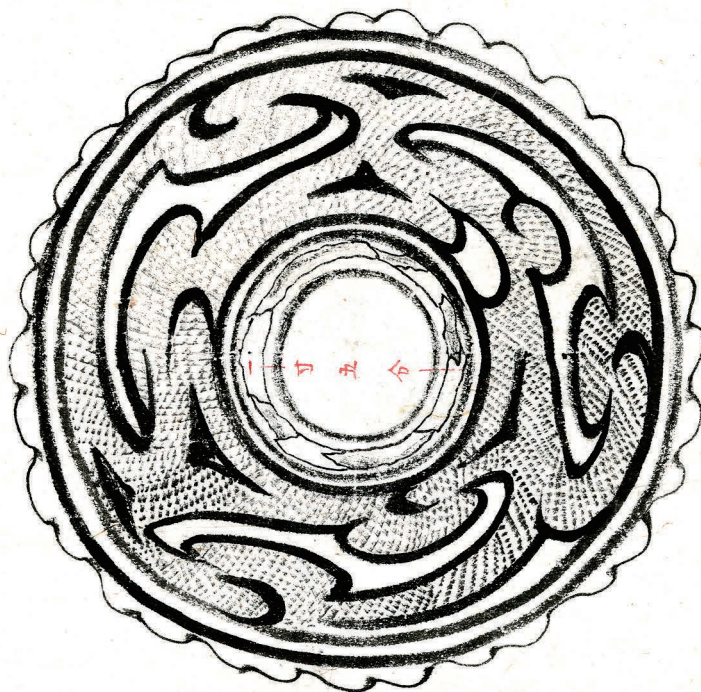
141A



141B



其二



下面

高⁺三寸三分

徑四寸五分

古錢圖
也

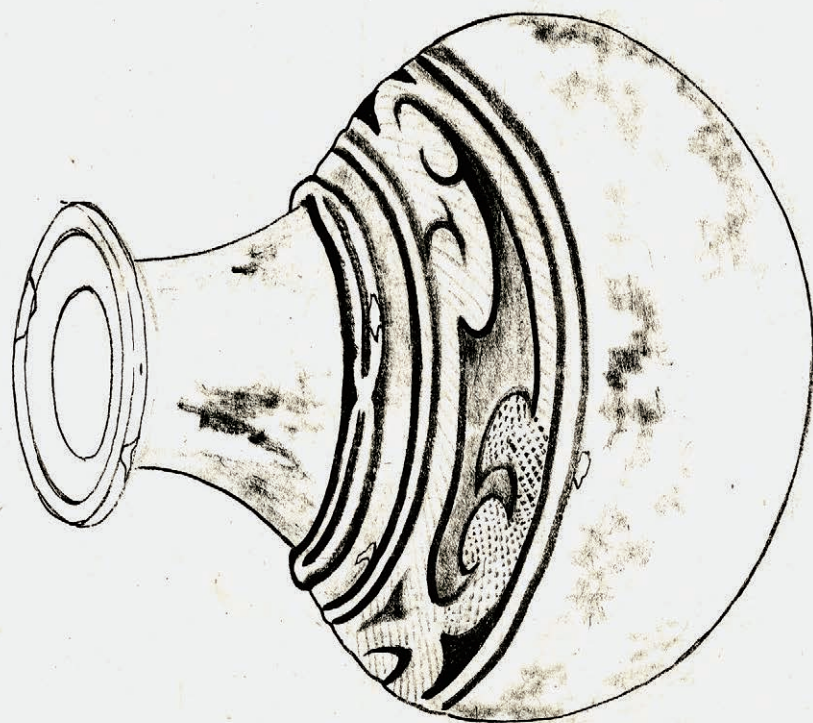
明治十六年乙酉

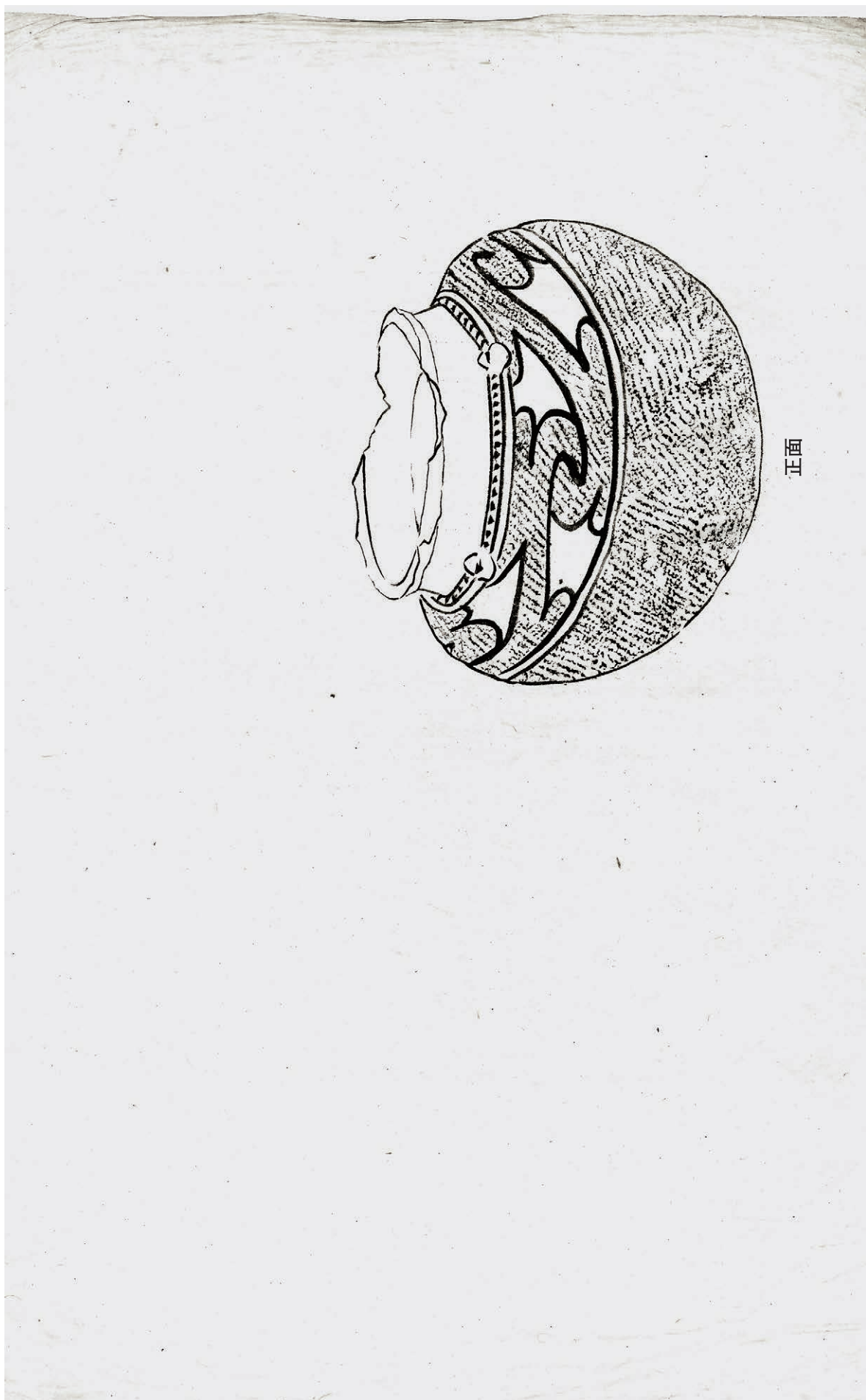
旧七月廿日寄



144

高サ四寸四分
腹径四寸六分
口径二寸一分
座一寸三分五厘
少ク四





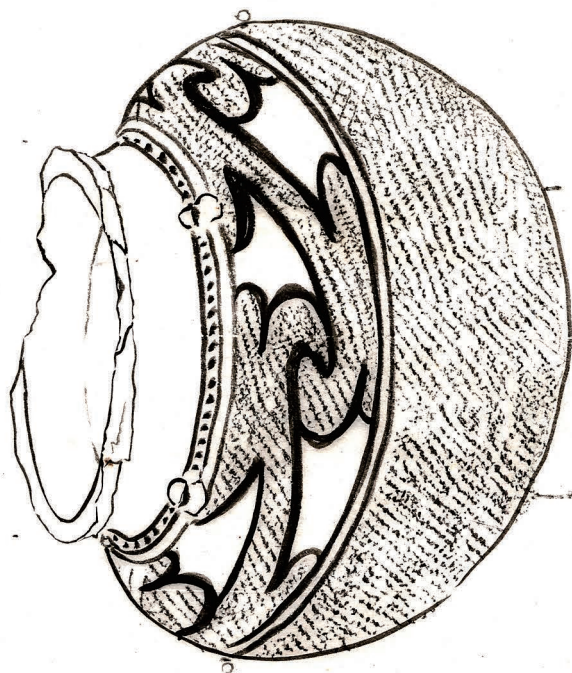
正面

147A

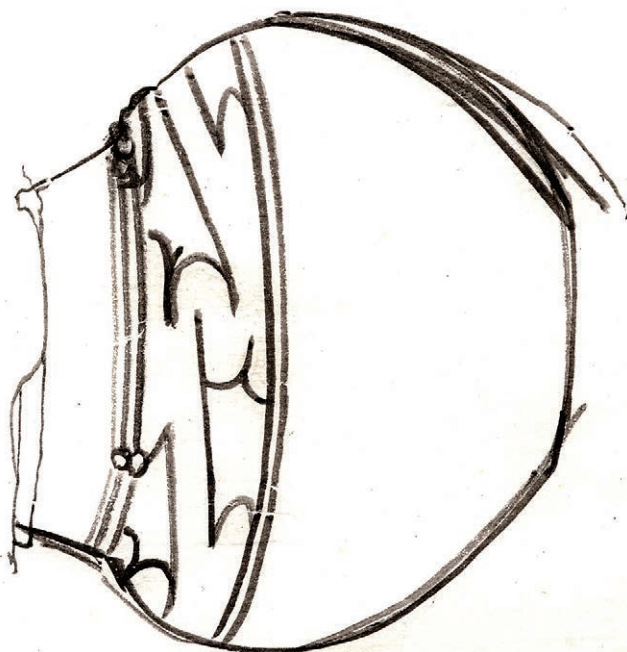
北津輕郡

板柳村産

高サ三寸七分
口徑内二寸二分
底徑二寸
〇四寸二分

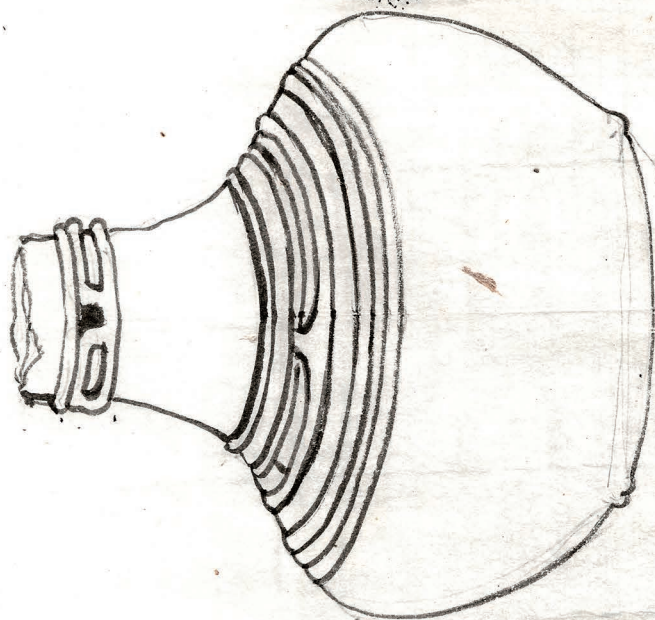


正面

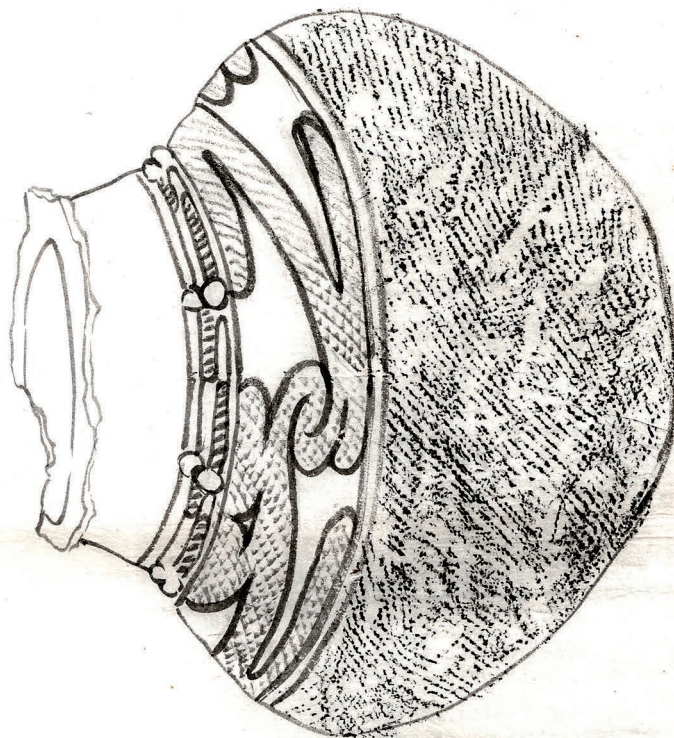


下書き

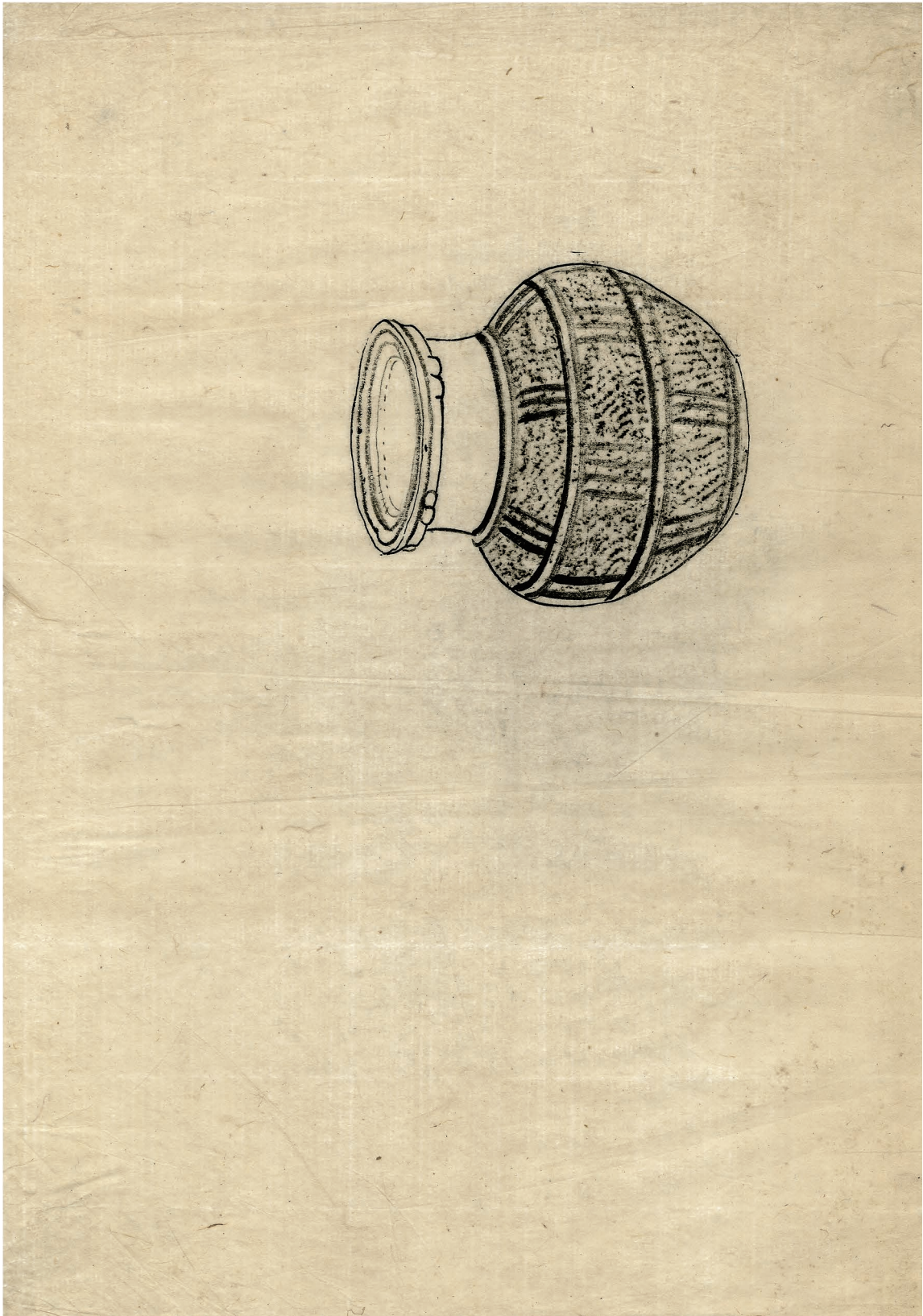
相澤

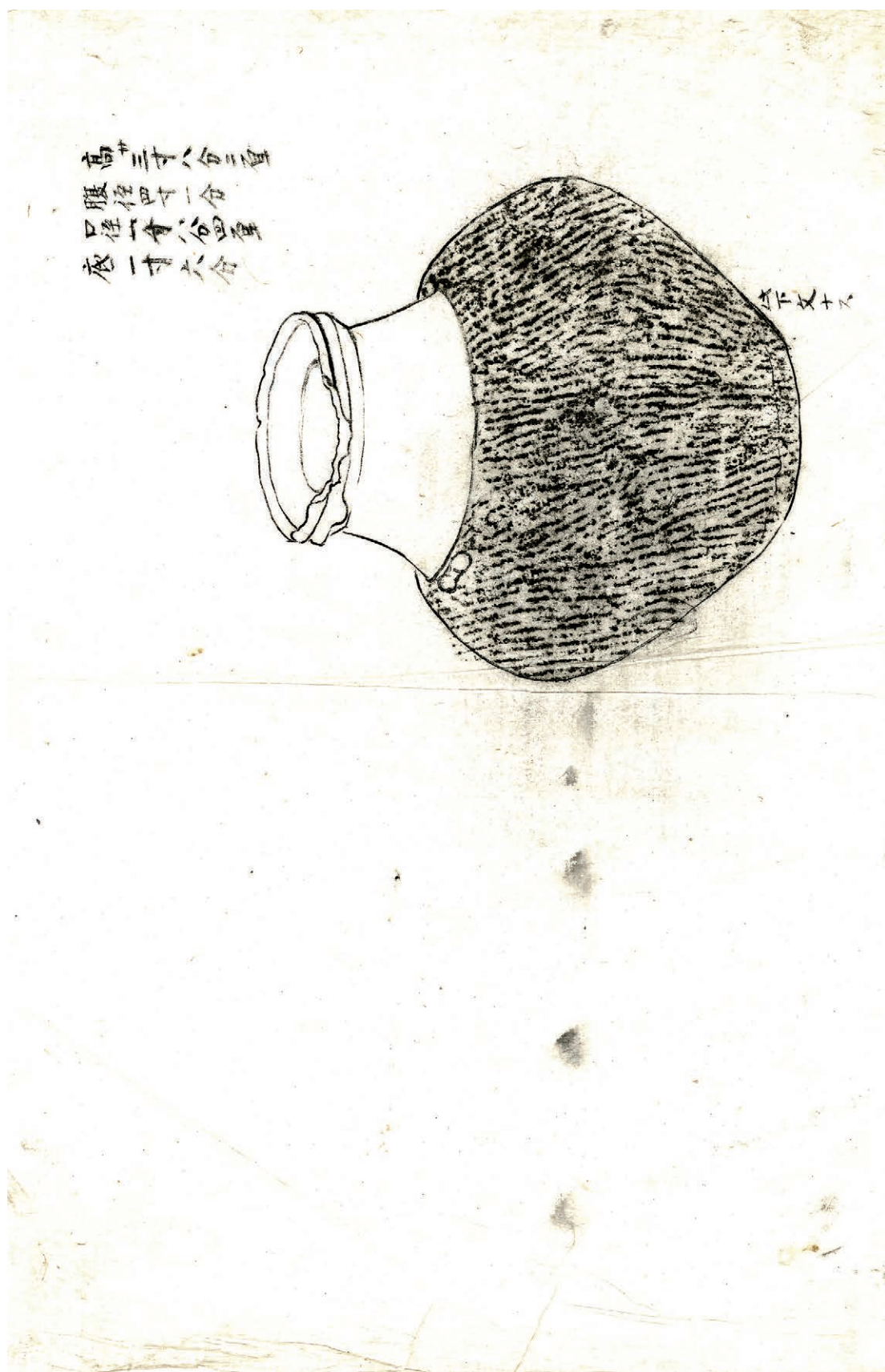


a



b (69e と同一)





谷口氏藏

明治廿年六月十日

高サ四寸一分

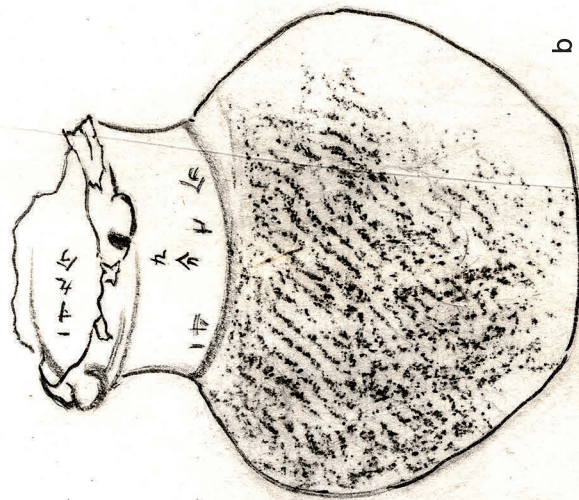
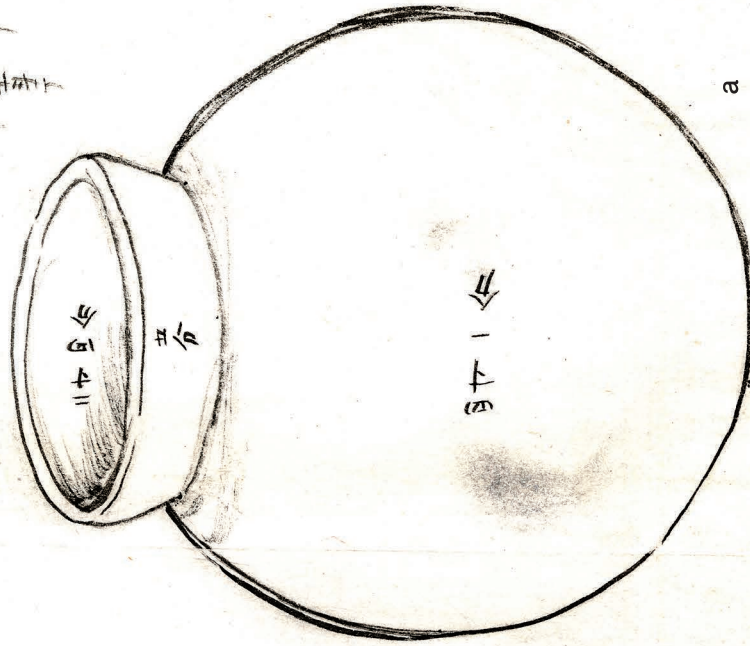
底一寸五分

口々四ツリ

色ハ淡白青

所々光澤

アリ

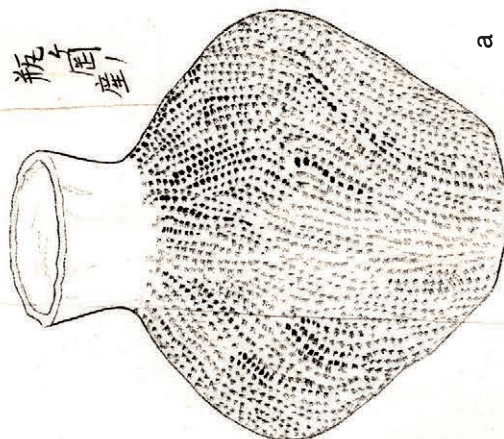


高サ三寸二分

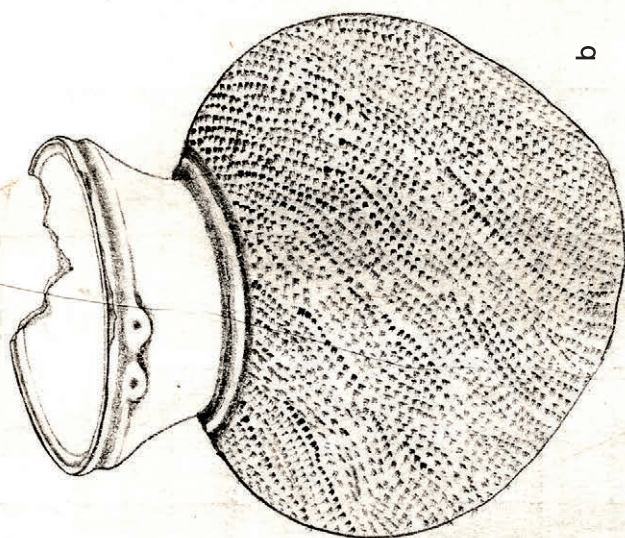
口三寸二分

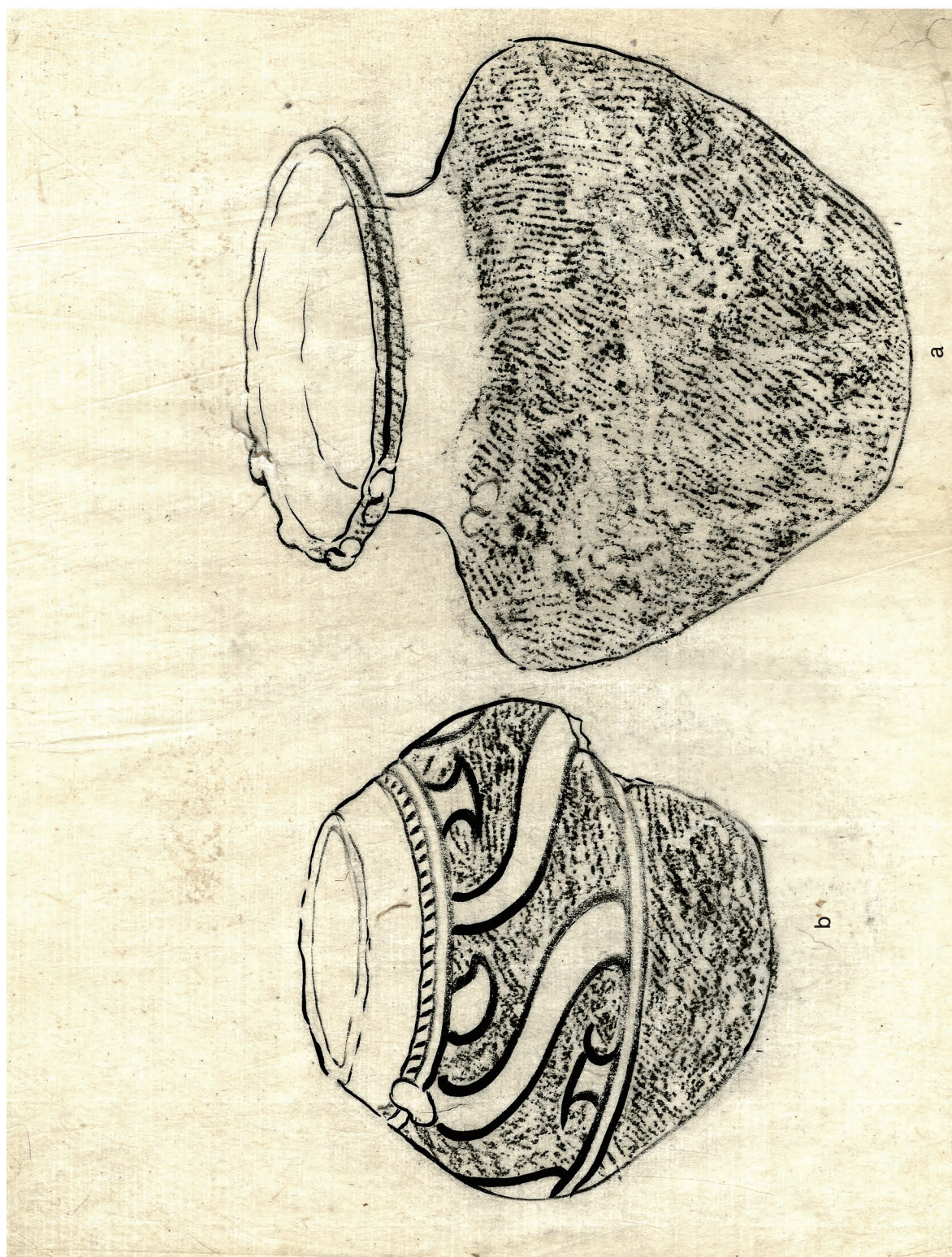
底一寸六分

高^サ三寸六分 口径二寸三分
 腹三寸六分 三^ノ色^ハ淡^ク白^シ 瓶^ノ国^ノ産^ノ

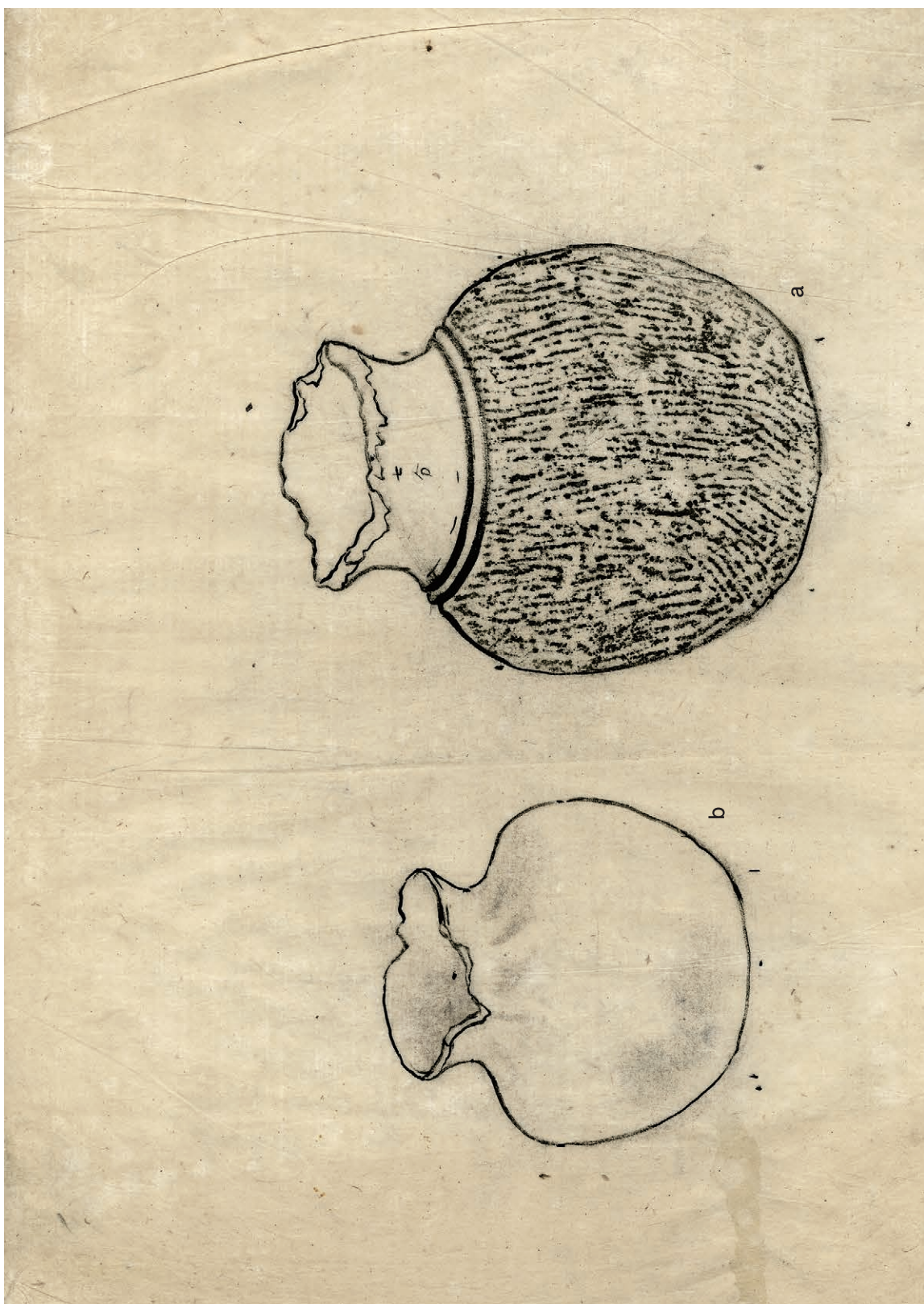


高^サ三寸四分
 口径二寸三分
 腹三寸五分
 底二寸三分
 色^ハ薄^ク紫^シ

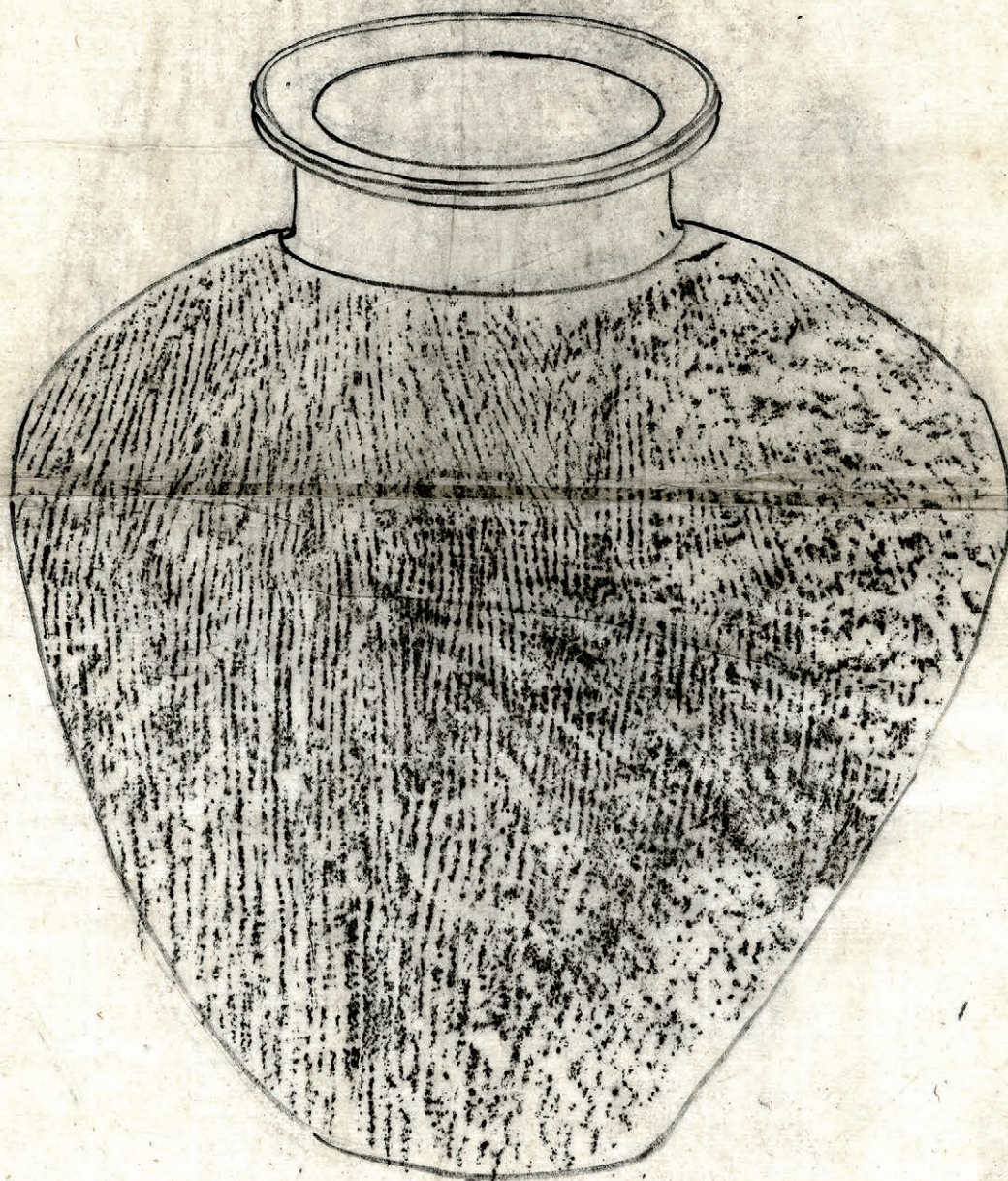


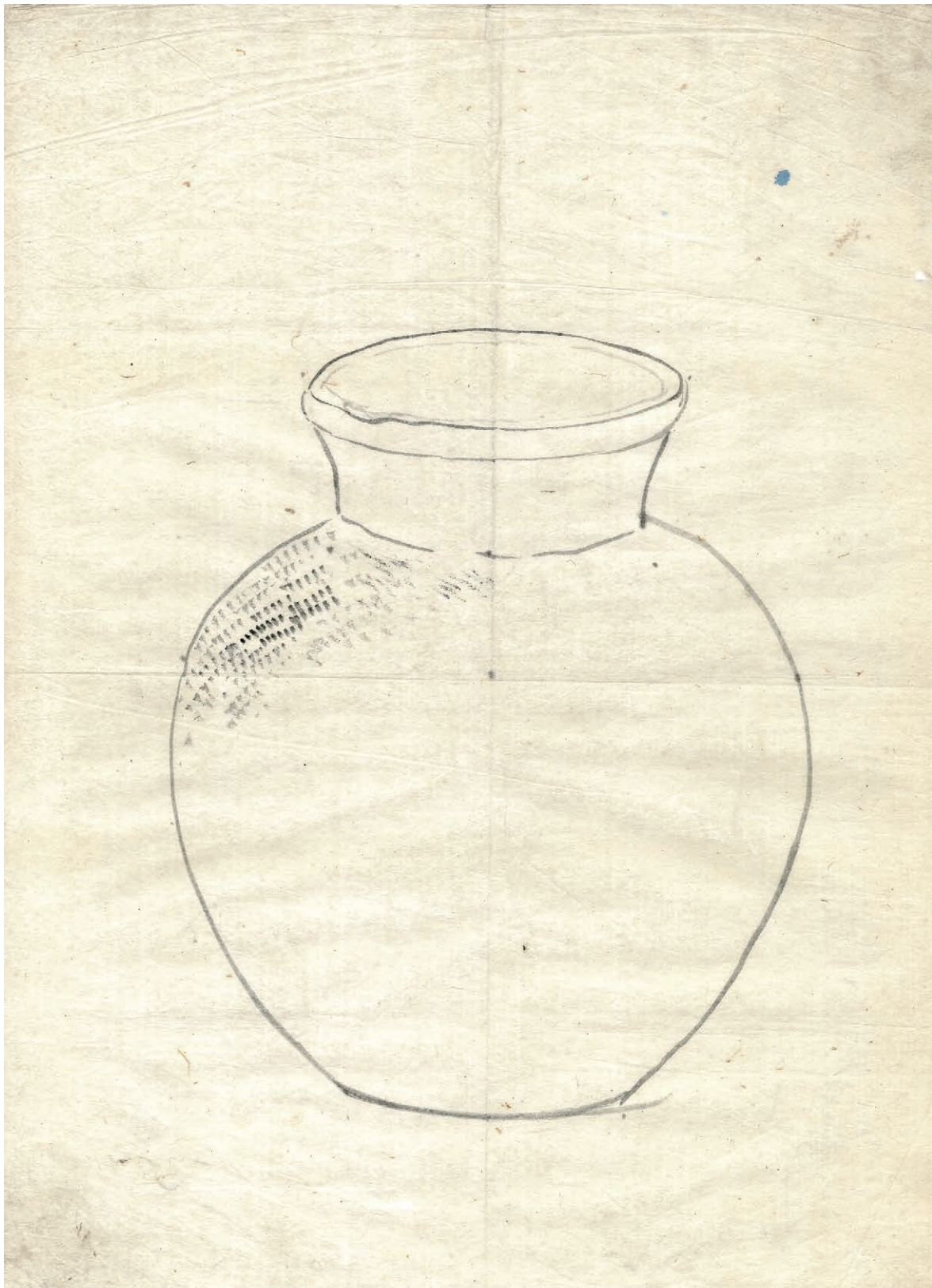


153



口徑四寸五分三釐
底三寸一分

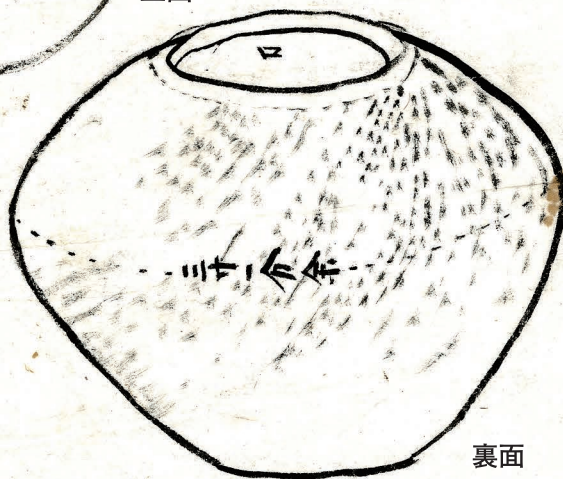
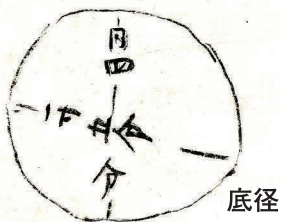
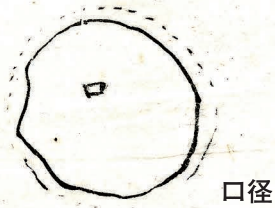
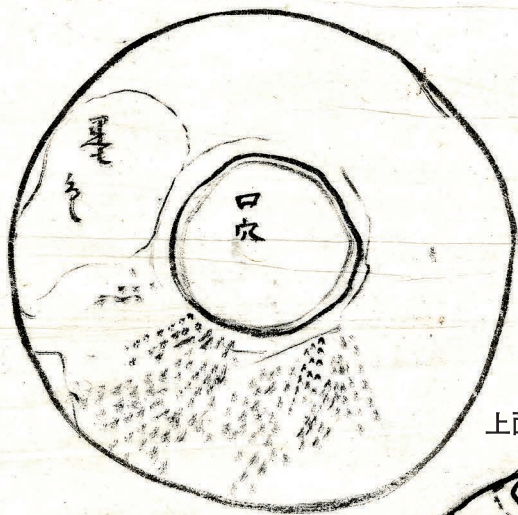
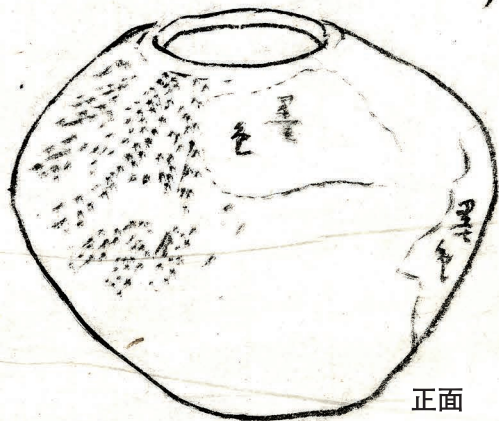




156

亀_ノ固_ノ屋

口径二寸二分
 大三寸三分
 厚一分斗リ
 腰廻リ一尺
 二分斗リ
 包肉色
 深九分

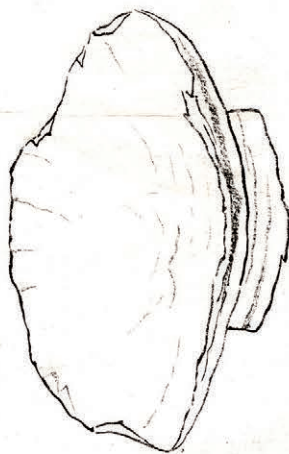


宮田氏ノ藏ナリ
 辰ノ
 丑月七日
 写

○浪岡村源常林御廟館ヨリ掘得る器物ナリ

廣峯神社ニ納ム

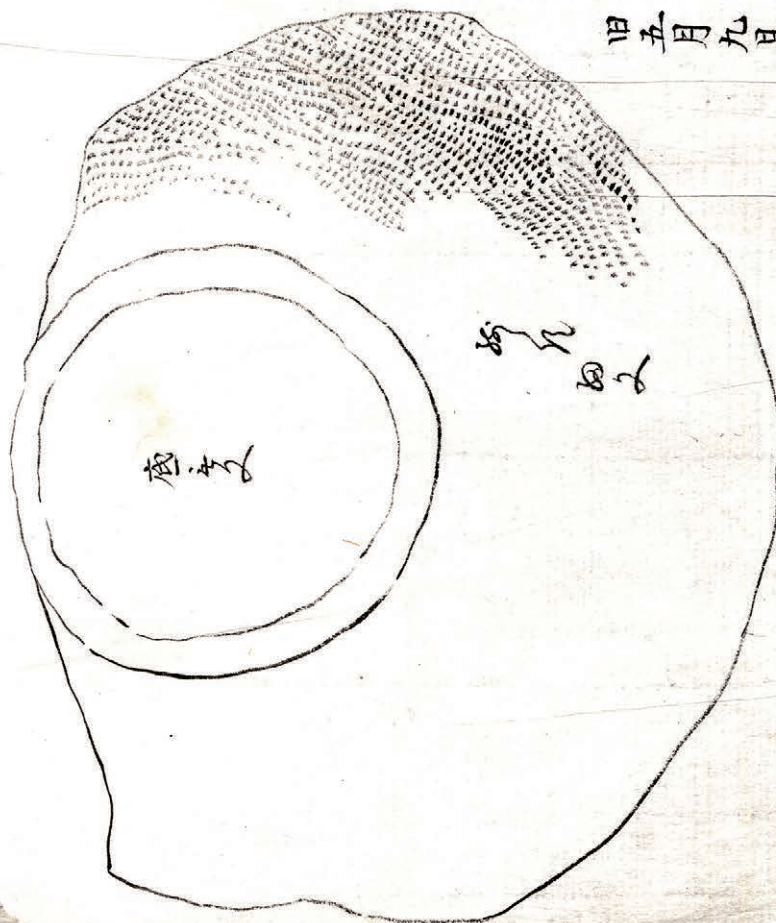
土粘おもろく白
がしく光はあり



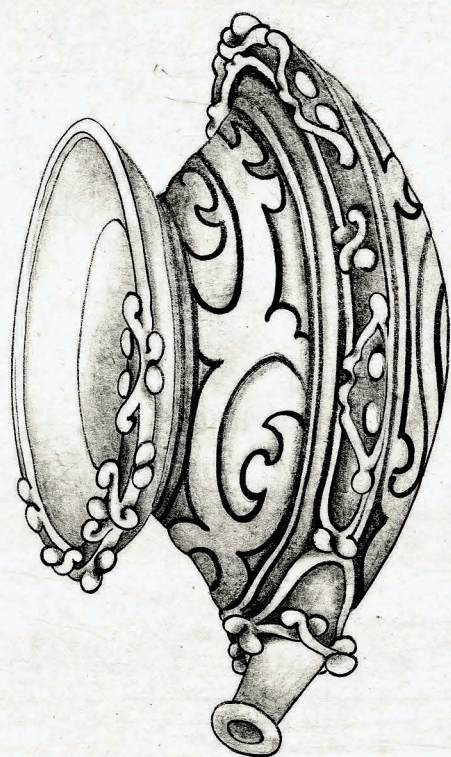
正面

辰

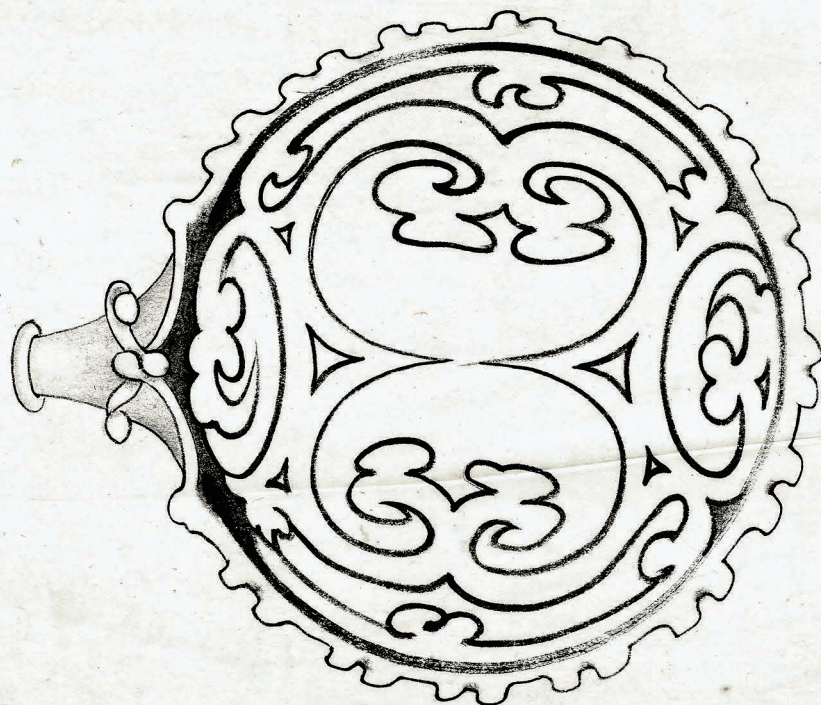
旧五月九日宇



下面



側面



下面

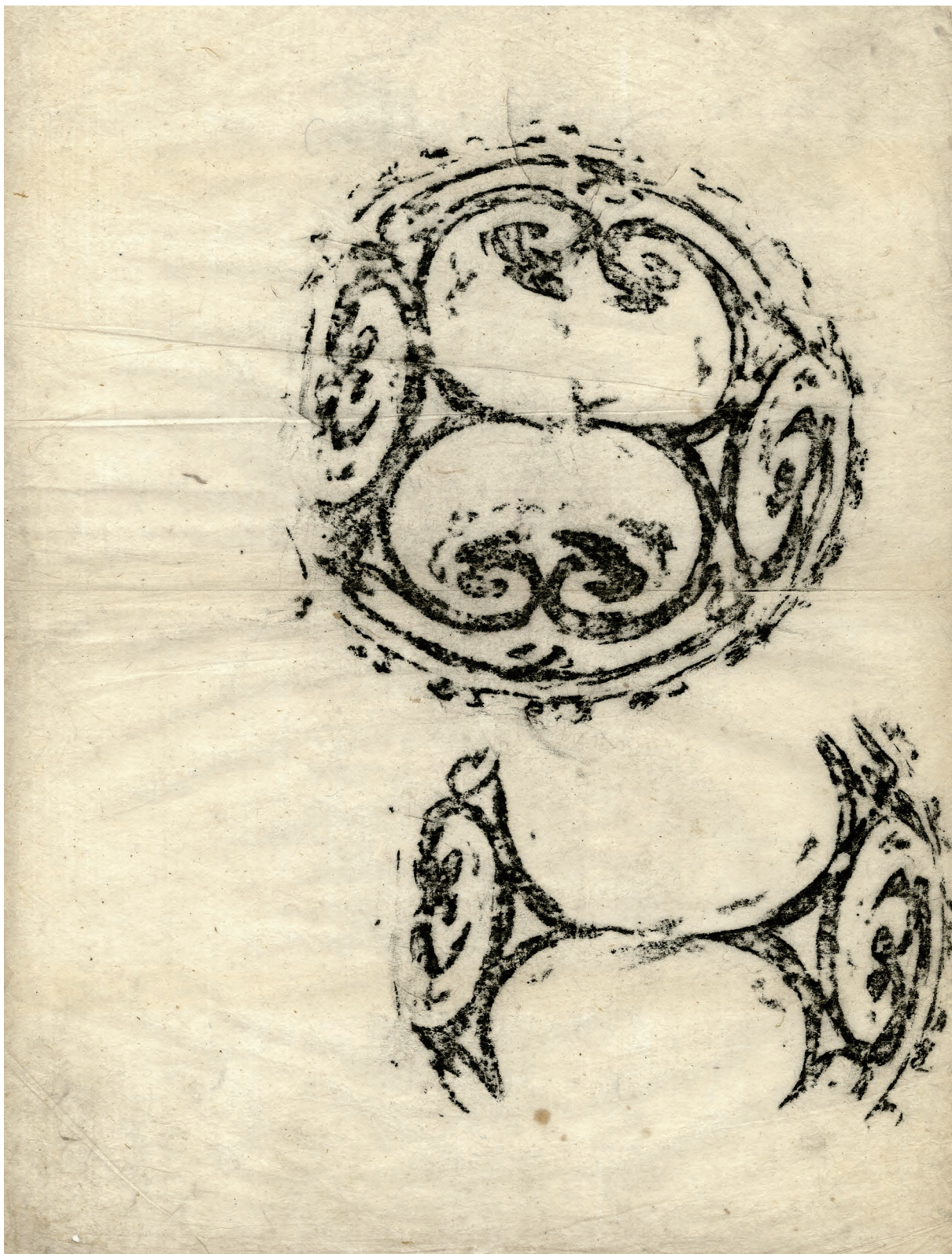
159A



下面

拓本

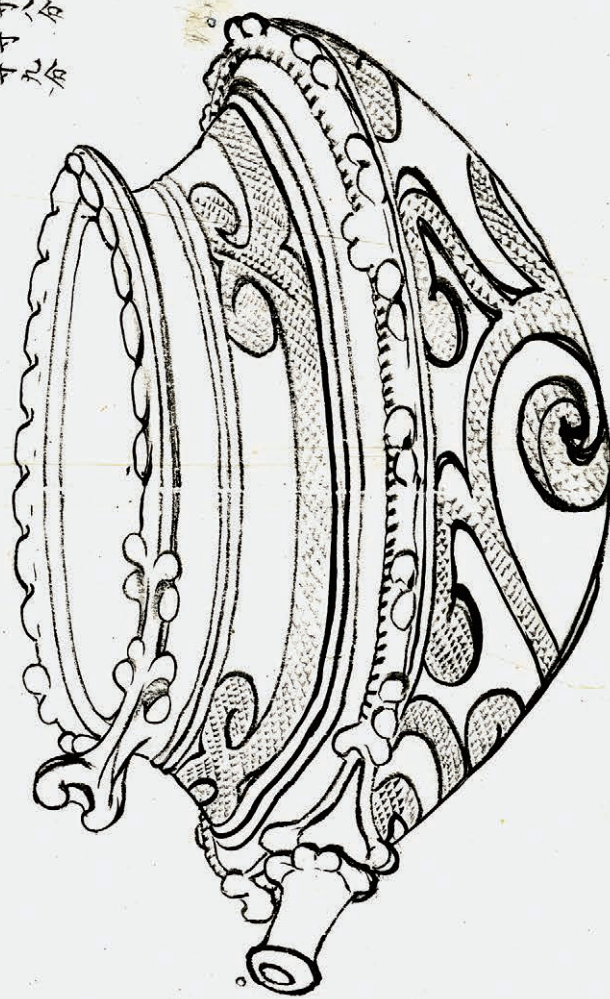
159B



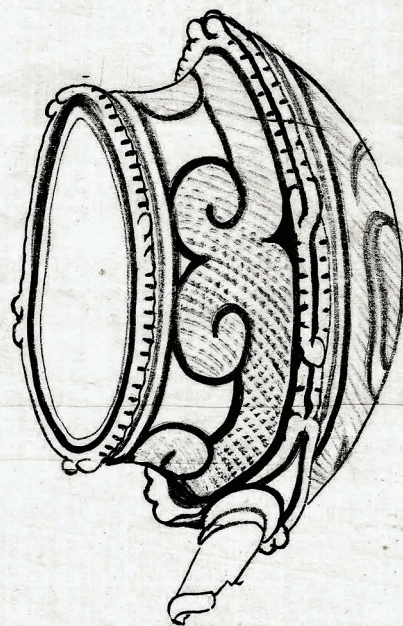
159C

中津輕郡裾野村大字十腰肉字太平出土
 是六鳳真二ノ寶大圖ナリ
 寛全
 馬真二二三ノ天下ノ一品也
 三香爐中四ノ

高ナ 四寸五分
 口径 五寸八分
 胴 八寸
 底 八寸九分



高^サ二寸二分
口徑二寸六分
腹三寸四分



側面



下面

同前

質良、堅固、黒色、暗方

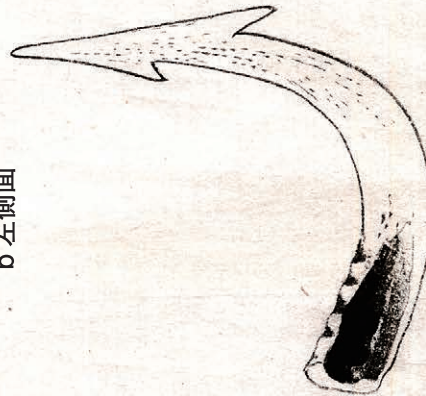


a

土人之、梅、針、上、方、
然、根、本、望、守、以、見、
ハ、針、ヲ、俗、語、刺、針、
ハ、以、以、針、捕、獲、用、
モ、上、想、ハ、而、其、針、
本、針、ハ、針、骨、針、
ハ、針、能、ハ、



b 左側面

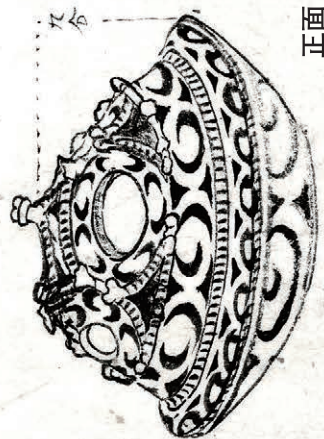


b 右側面

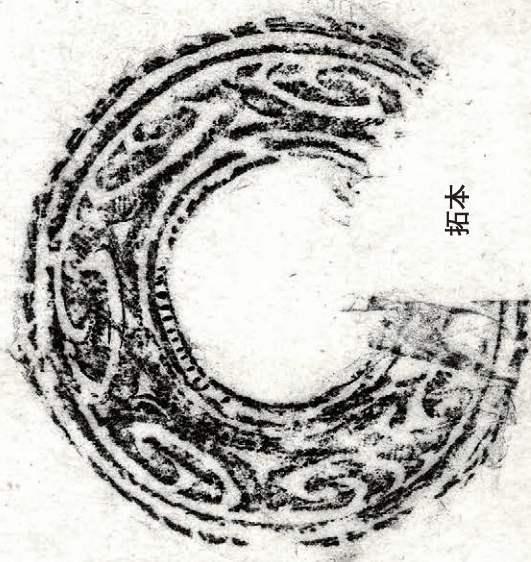
此、四、家、三、子、存、不、見、即、
ヲ、付、ハ、見、上、想、ハ、



柏谷氏之藏

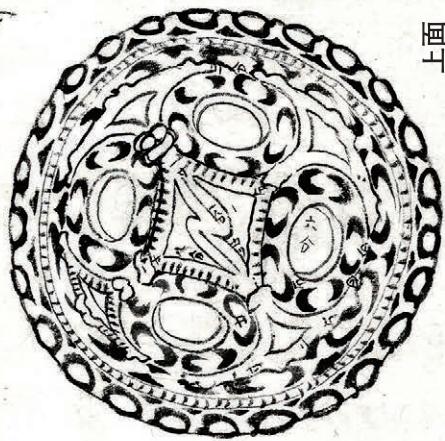


正面



拓本

径二寸八分
物高一寸
九分



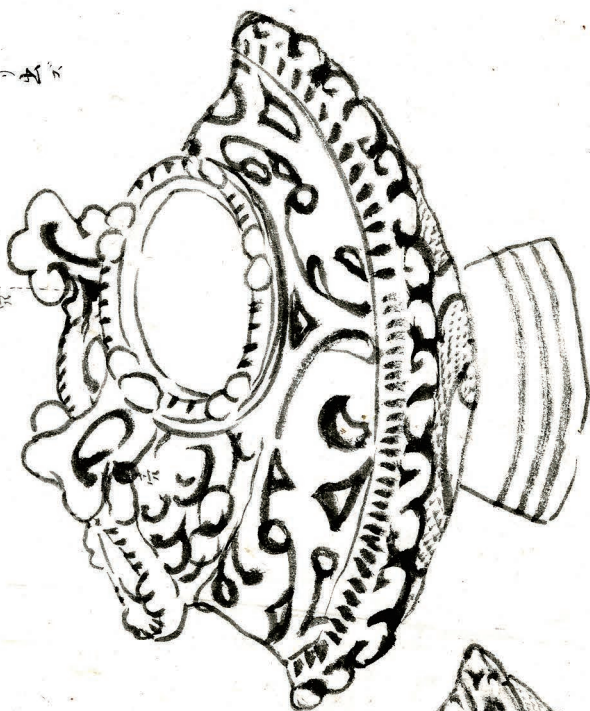
上面

明光十九年
四月廿五日

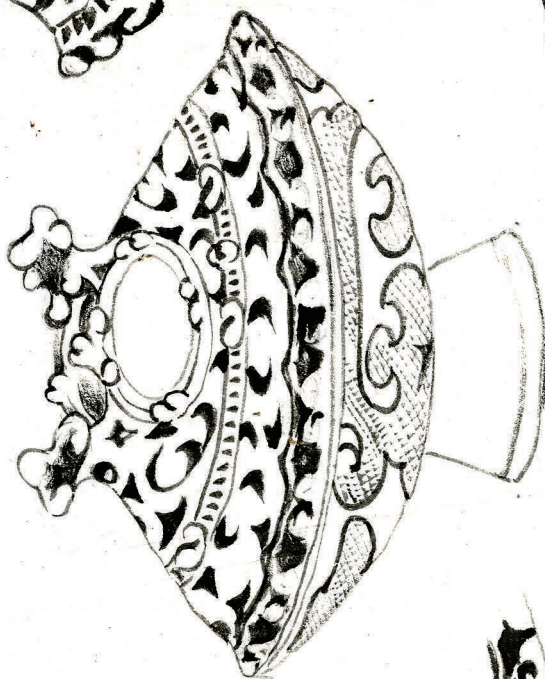
技川

工 藤祐龍氏藏

龍岡ヨリ出云



a



b



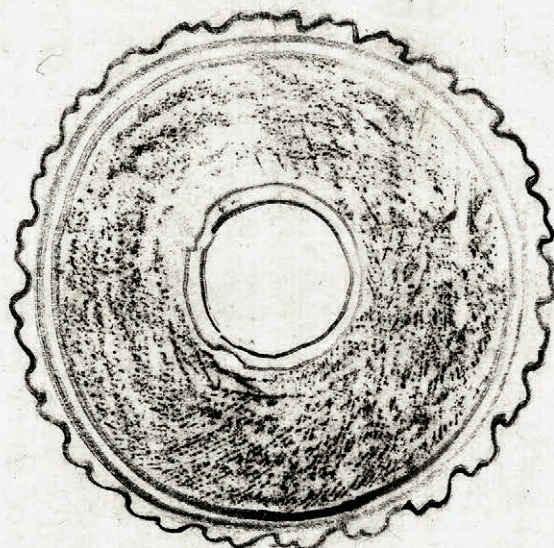
館 密 村

野 呂 氏 藏

飛 密 ヲ リ 出 ス

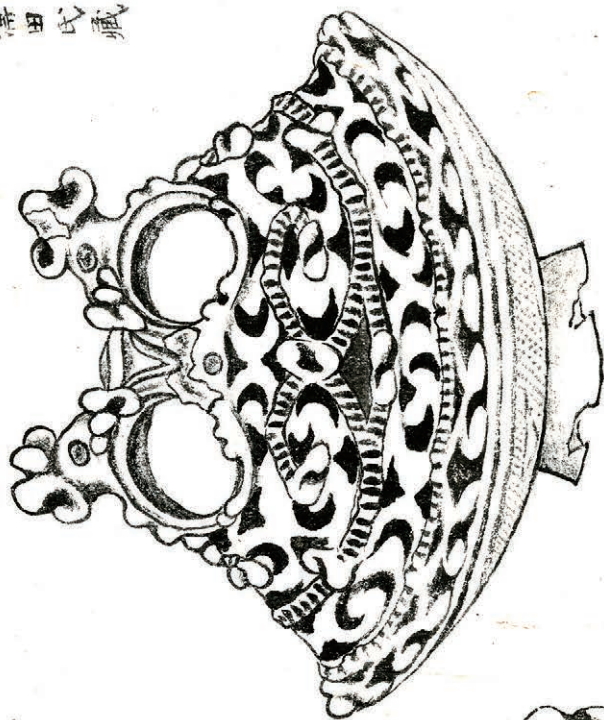


正面



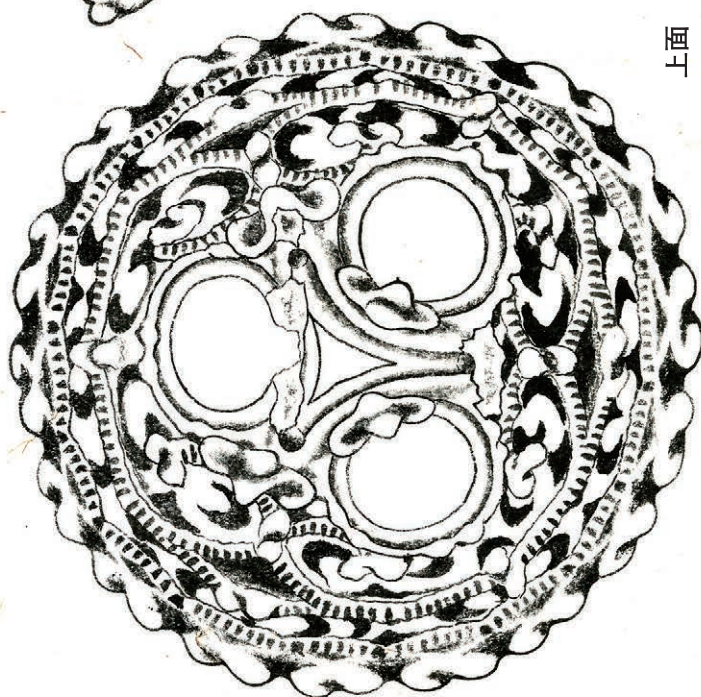
下面

弘前
薄田氏藏

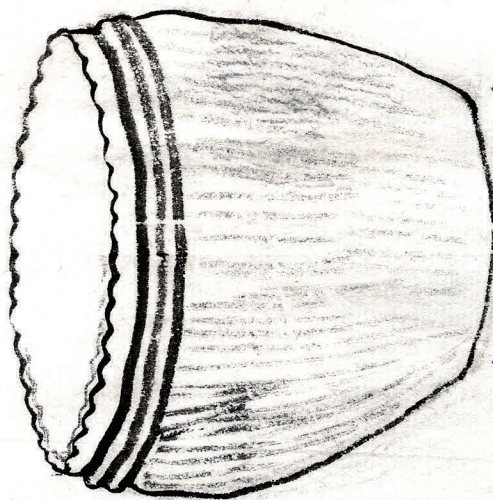


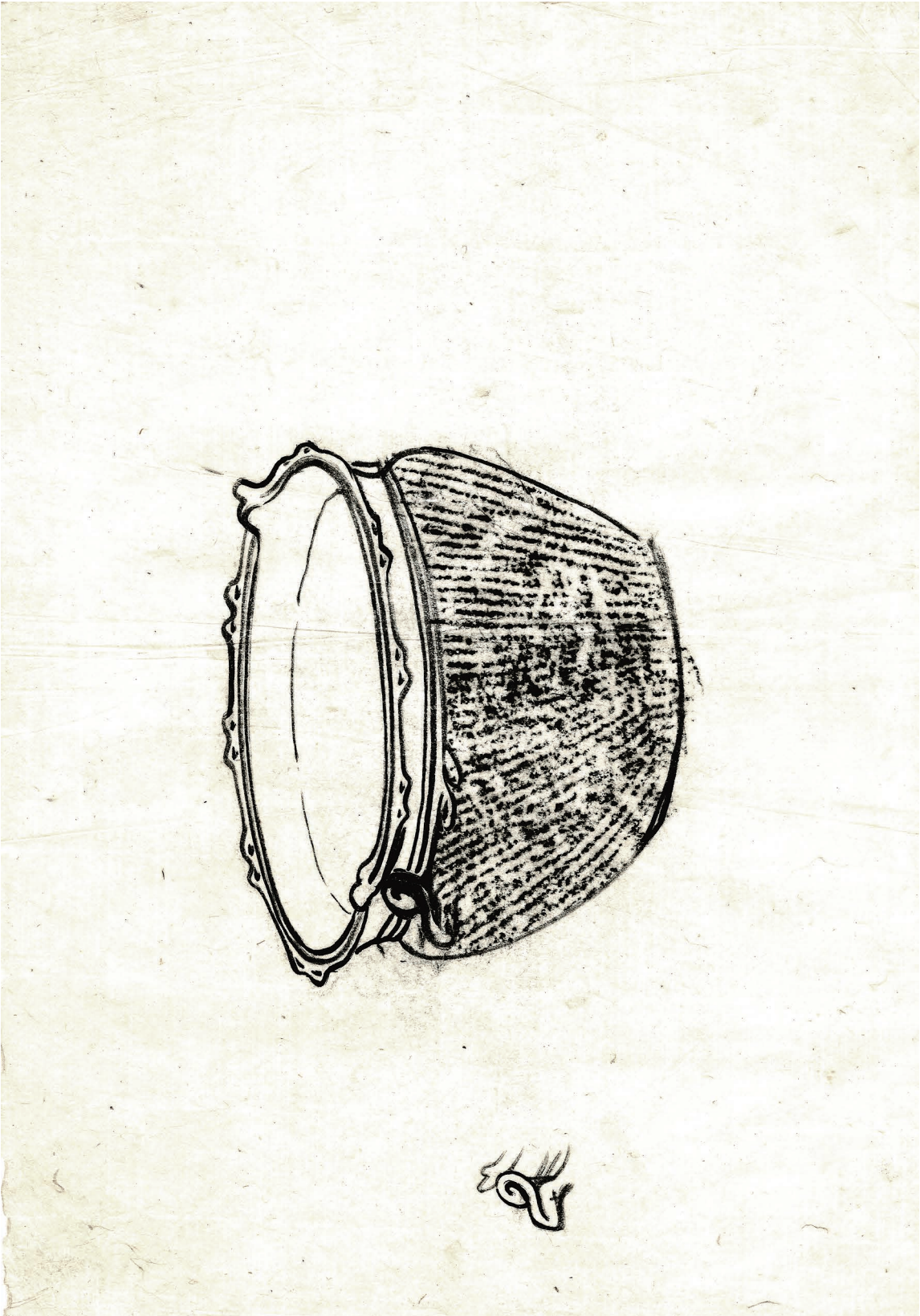
正面

龍
同
より
止
り

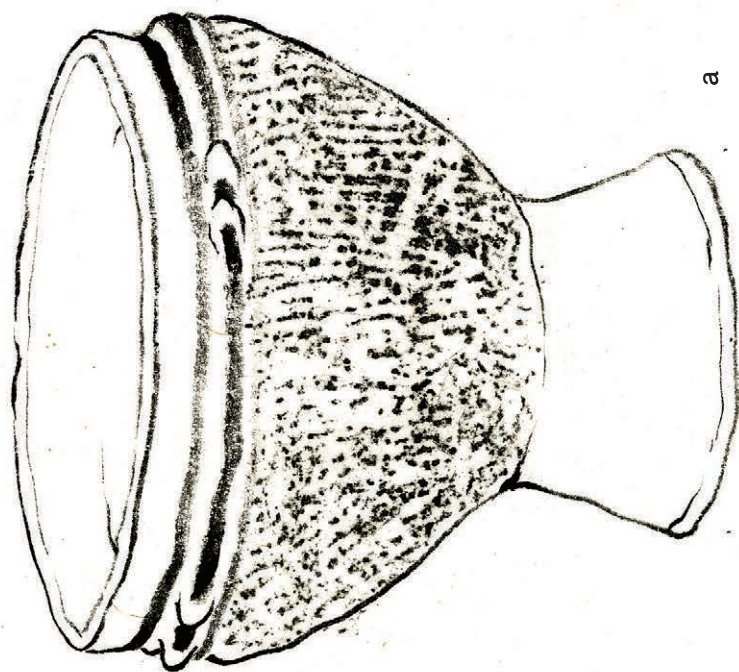


上面





湯口字二下り山
畑ヨリ虫ズ



色大ヤ



○龜ヶ岡古墟之産瓶罍

今野氏之藏ナリ

大四寸五分

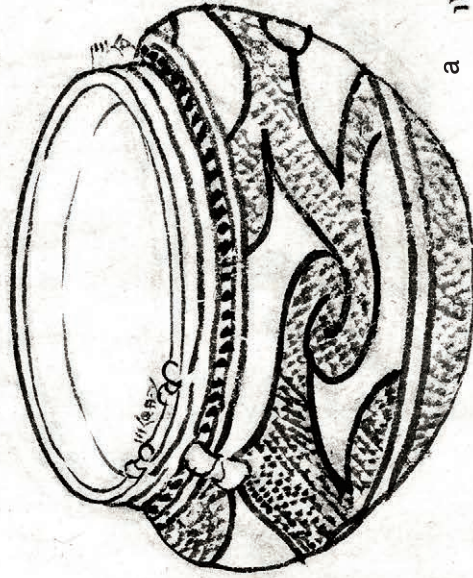
庚辰甲六月廿三日

色淡白ニシテ
光澤アリ
色不勻
ニシテ



西，
旧正月十二日

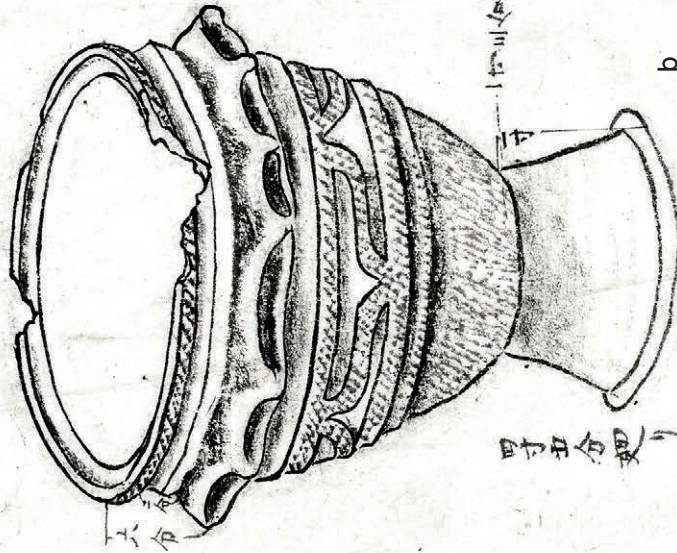
a



高サ一丈八分
口徑三寸
底二寸八分



b



高サ三寸三分
口徑三寸一分
底二寸九分

高サ三寸三分
口徑三寸一分
底二寸九分



四寸五分

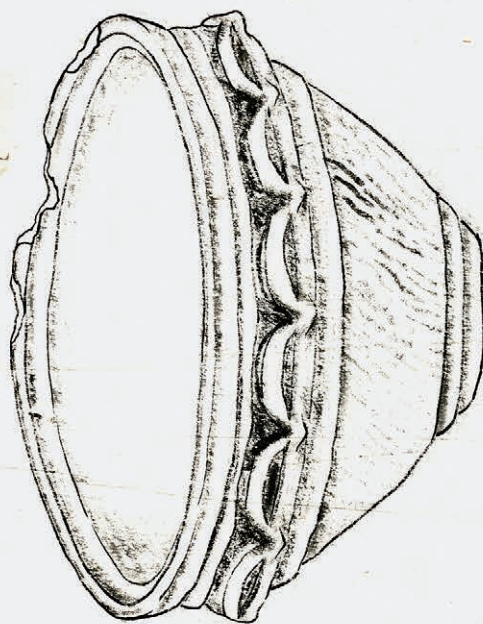
六分

○

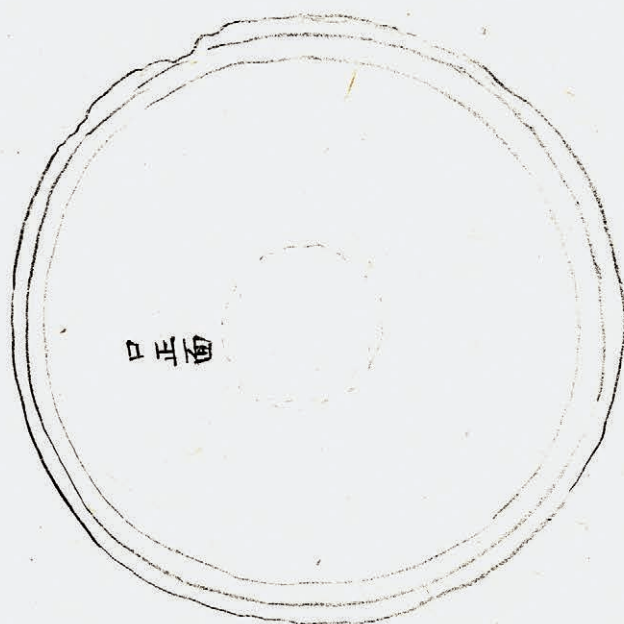
○ 龜ヶ岡古墟之産瓶器数品

寸サ一寸九分 徑四寸

色白 新々黒々
少々光澤あり



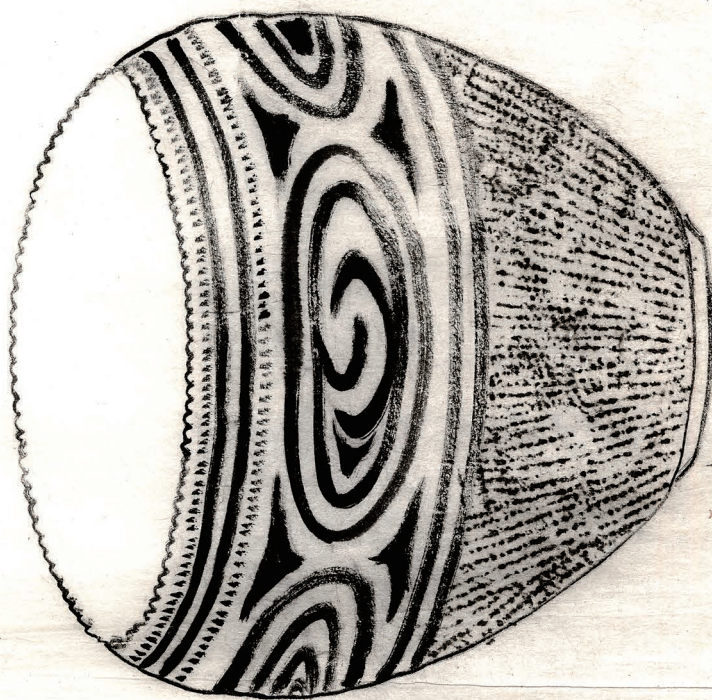
寸四



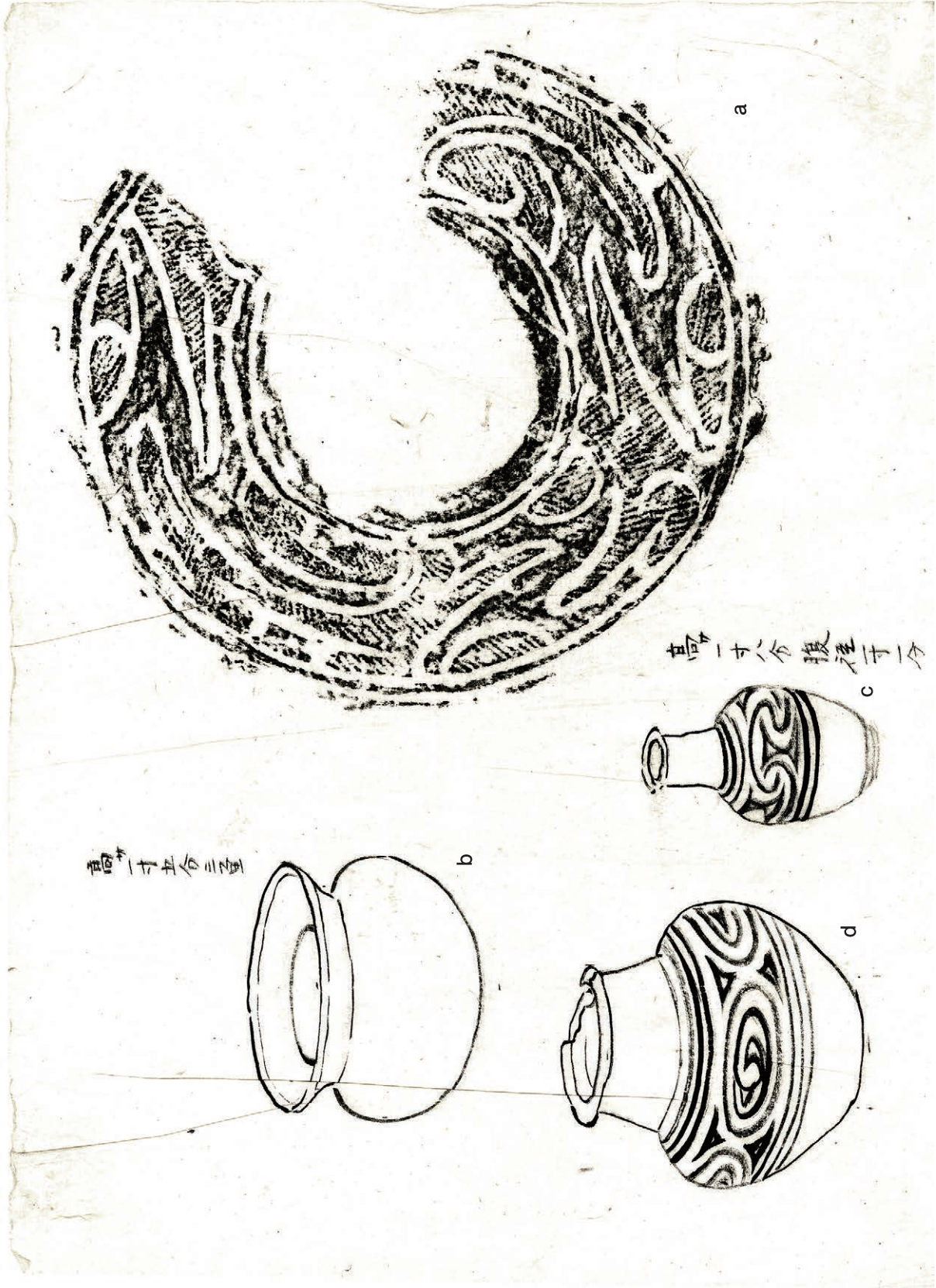
利永喜四郎氏藏

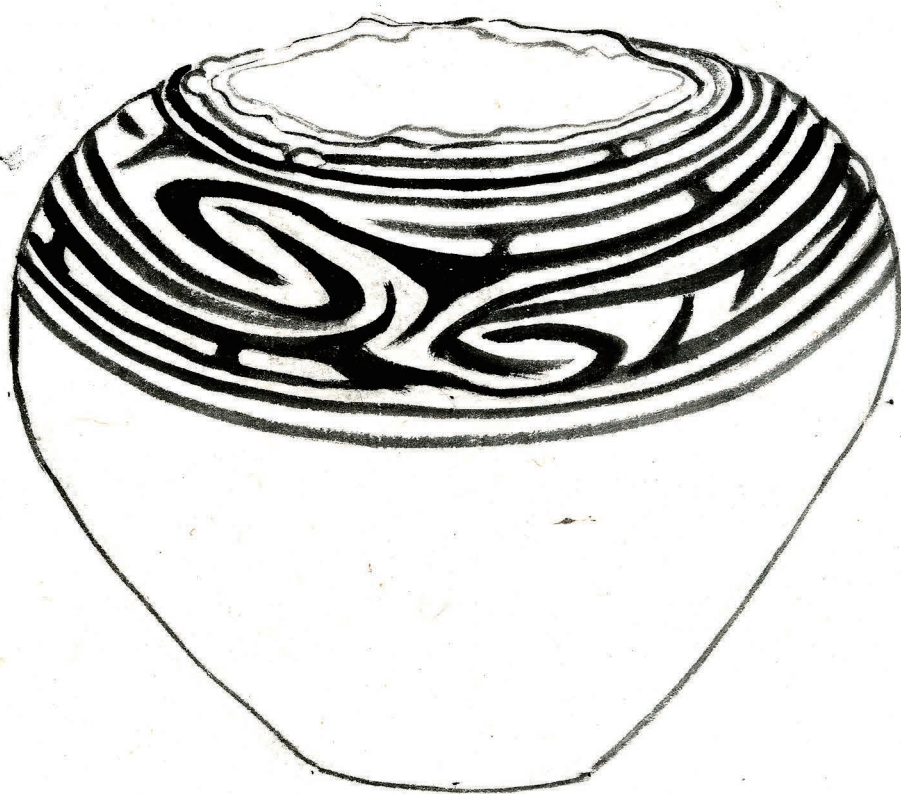
腹径四寸二分

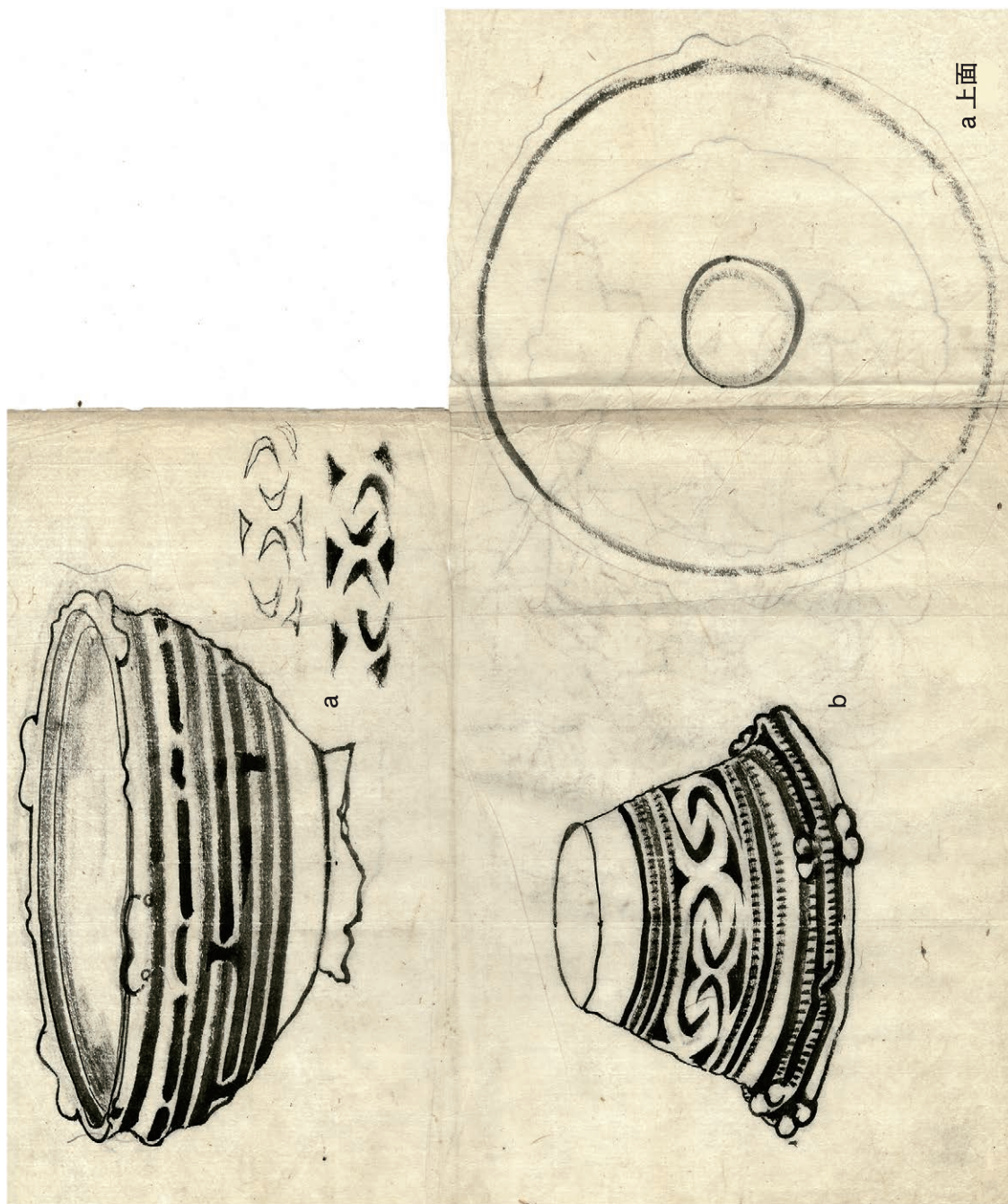
龍岡出土
黑色

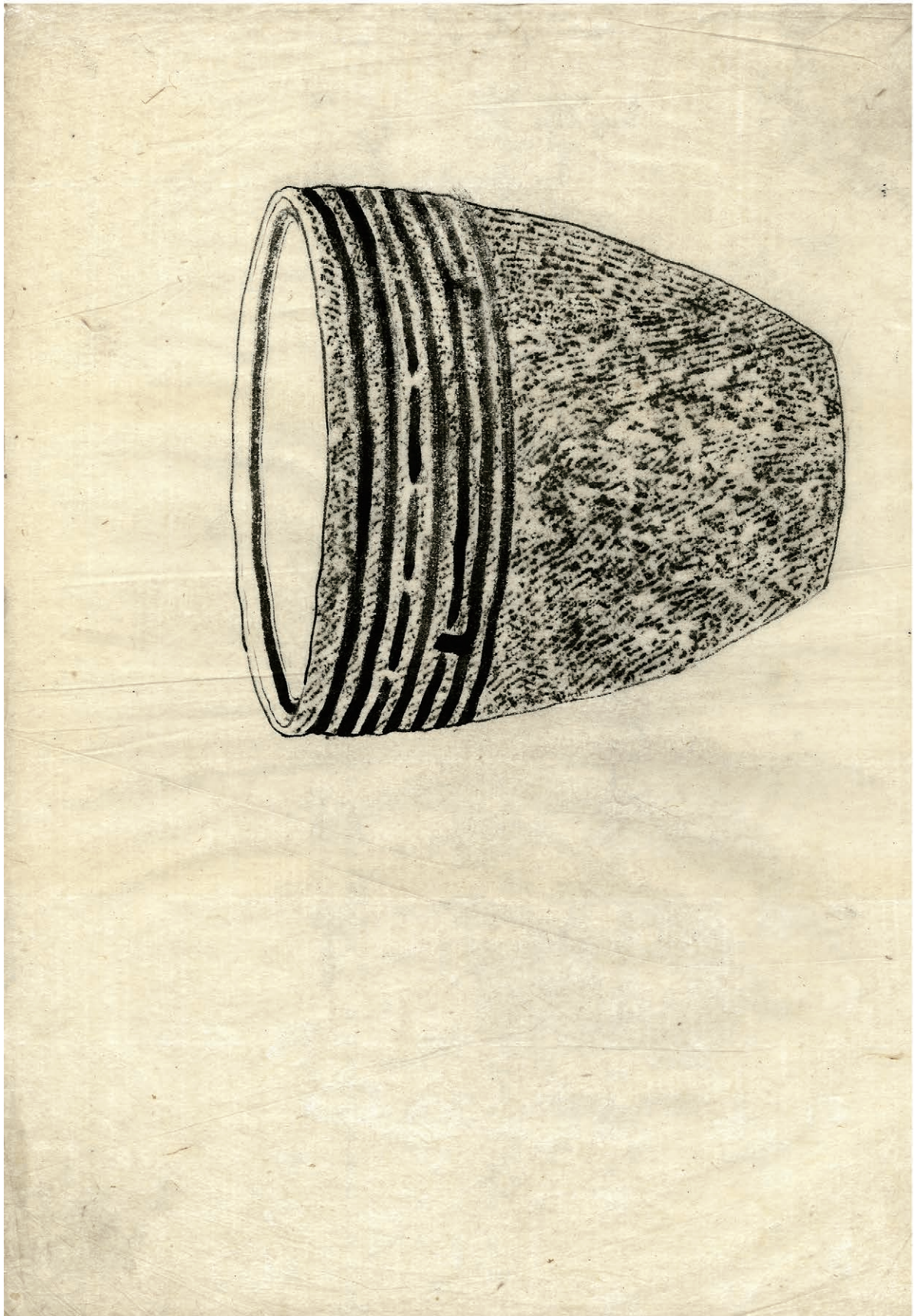




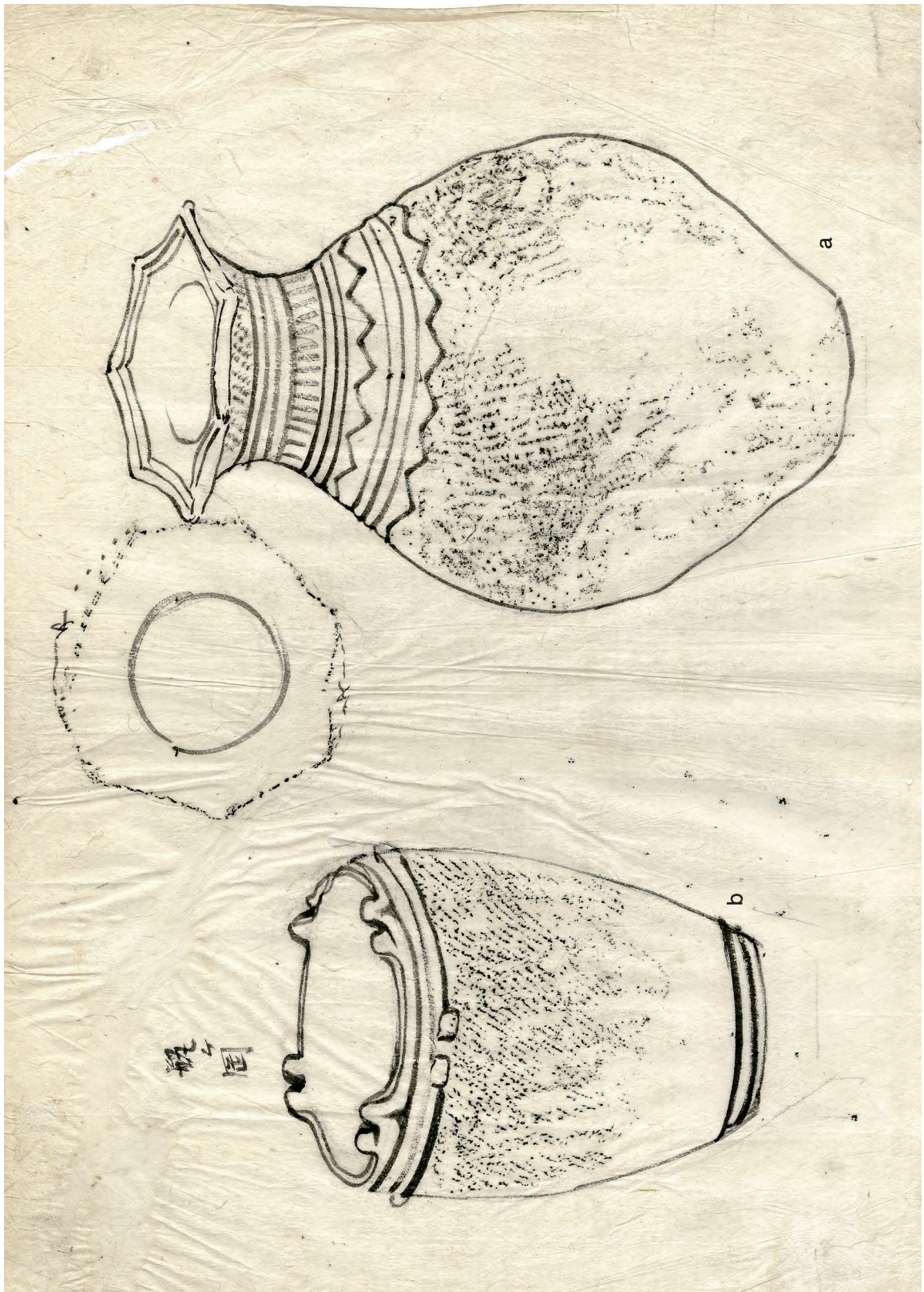


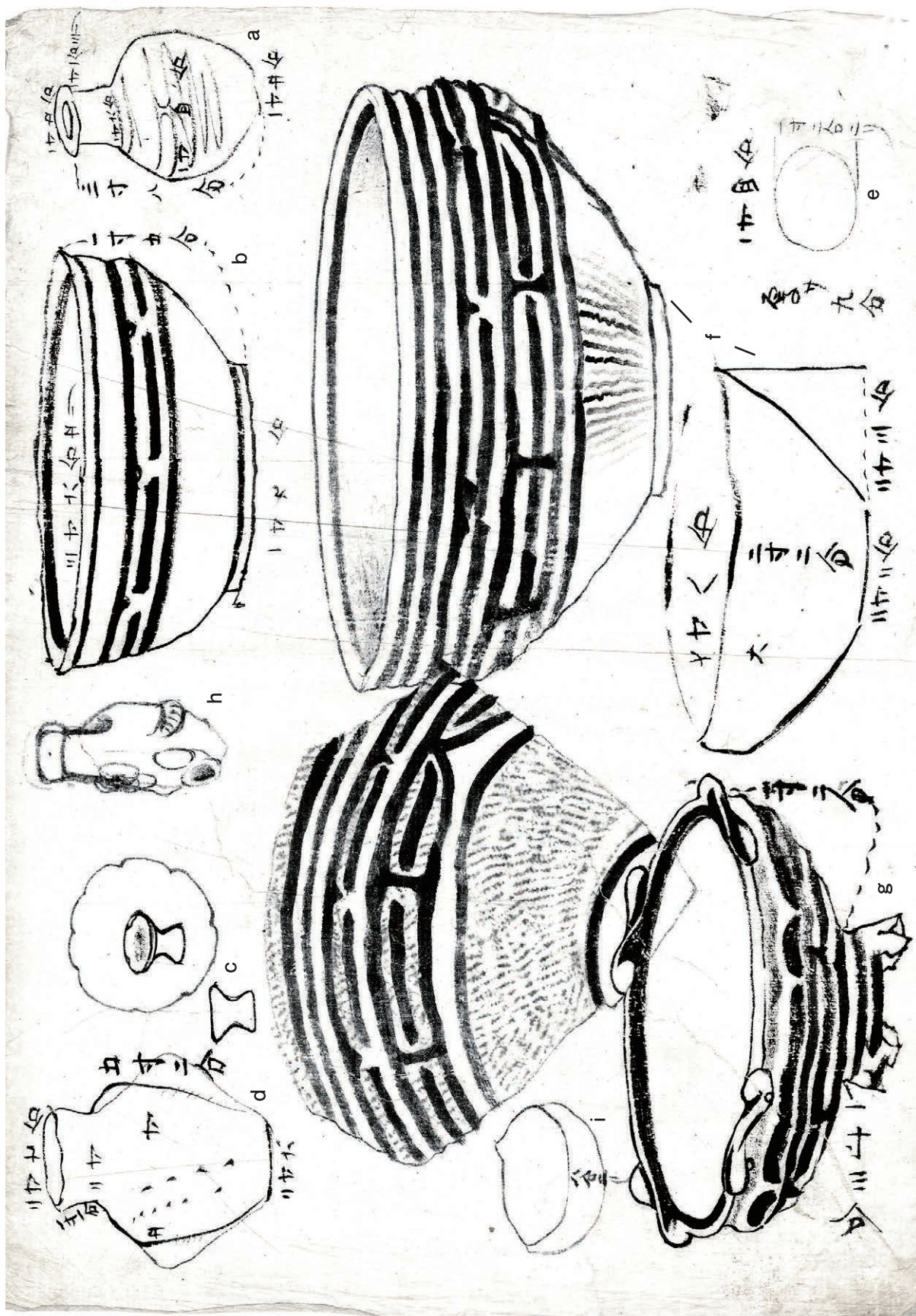




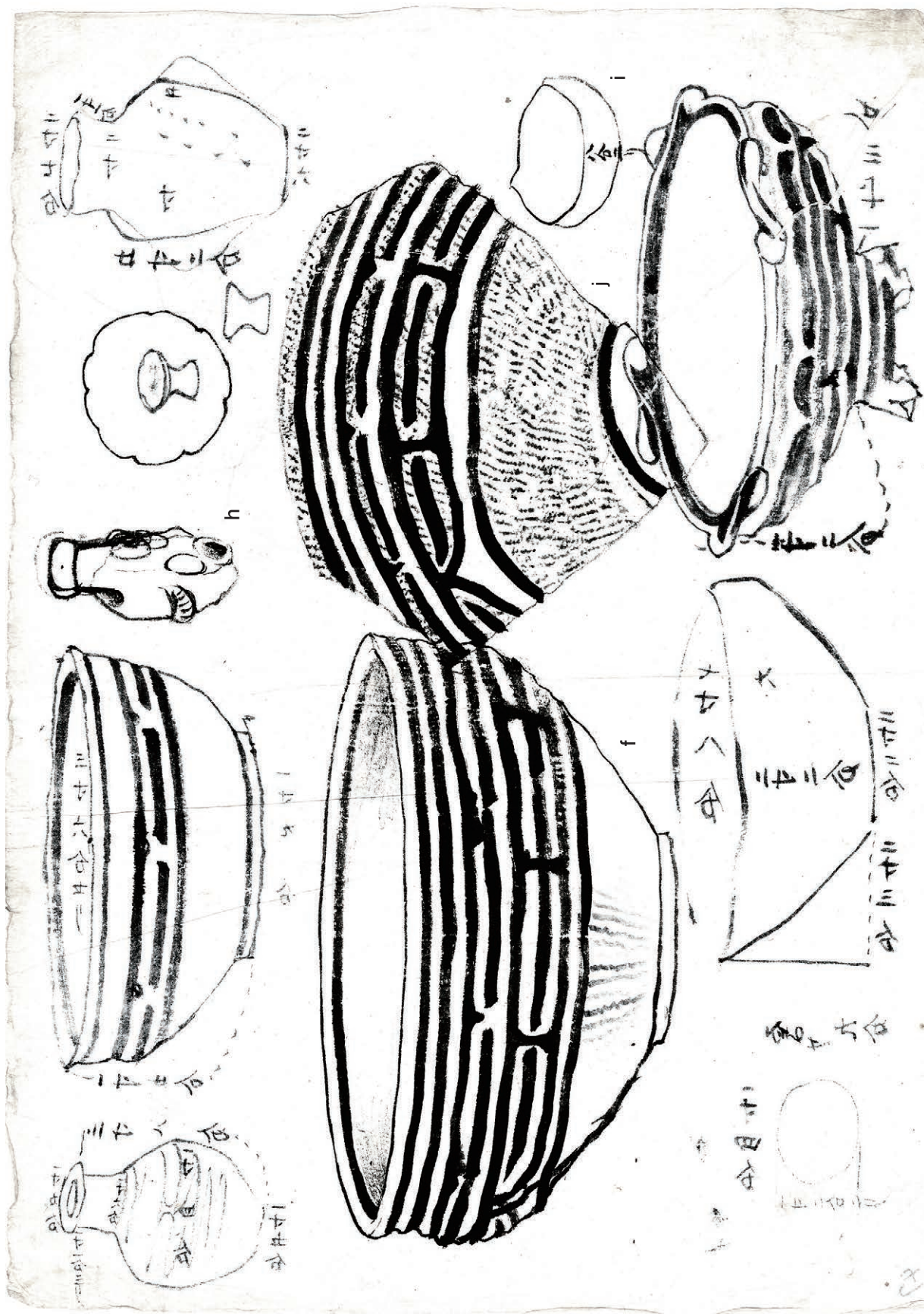


179

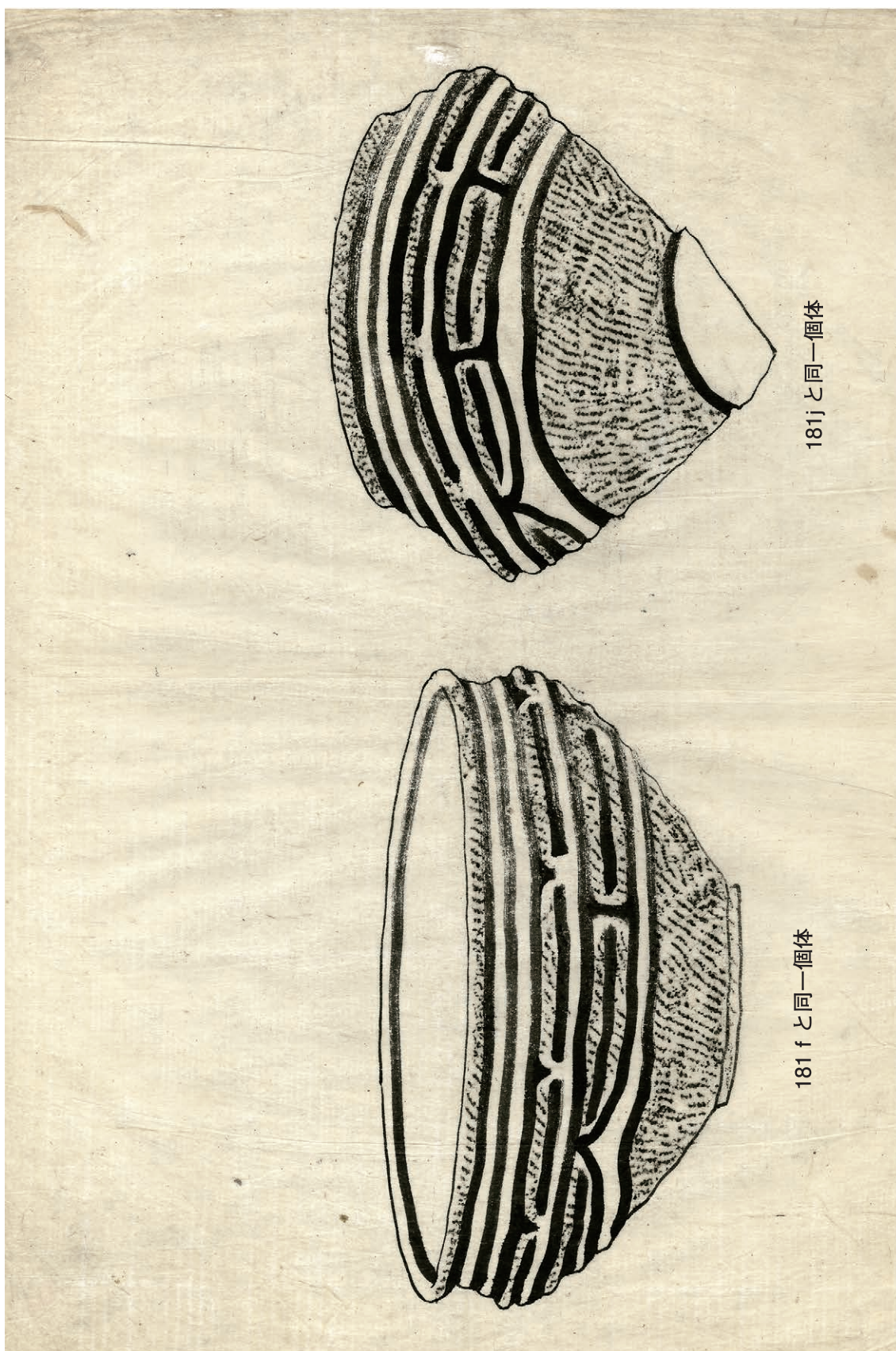




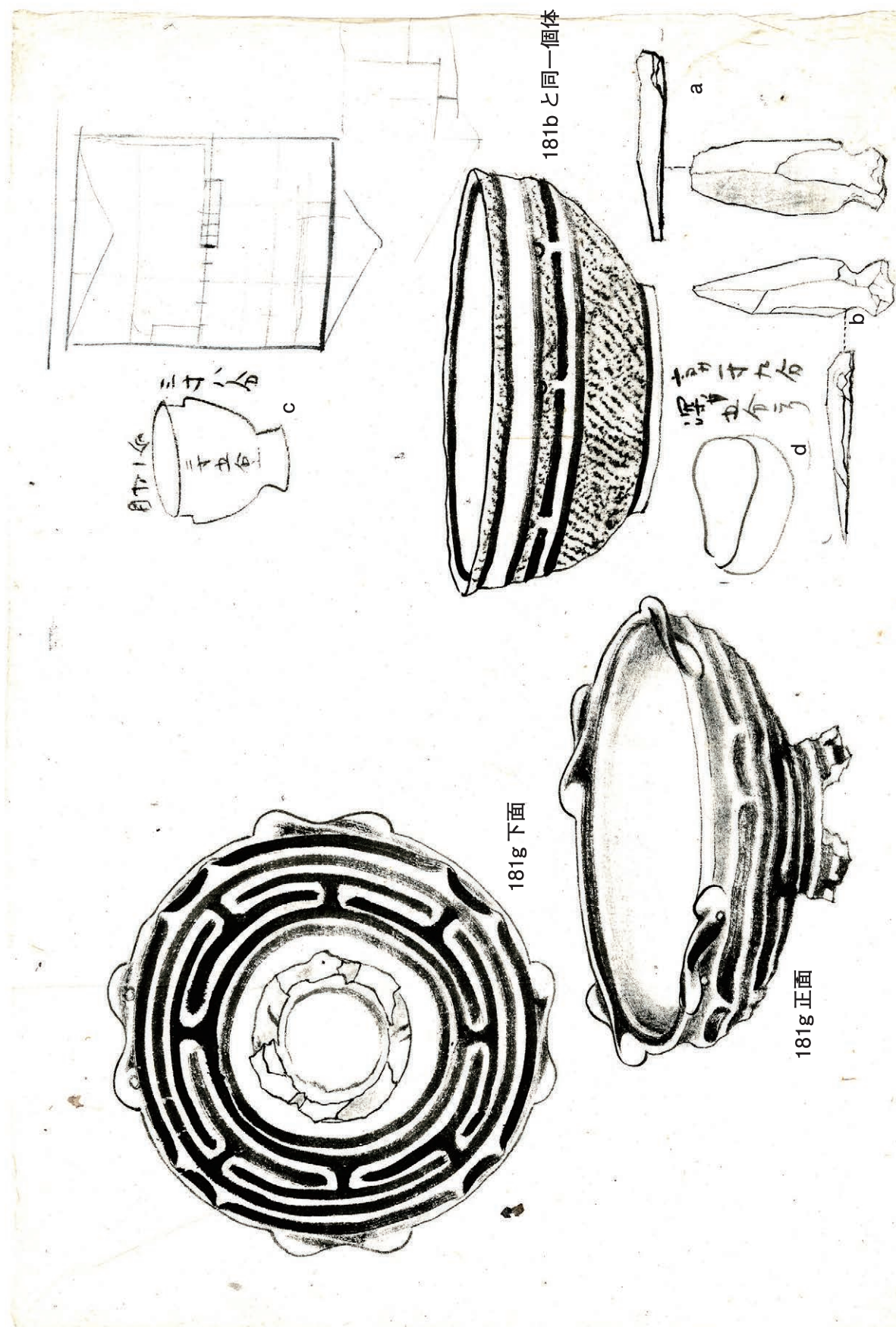
181A

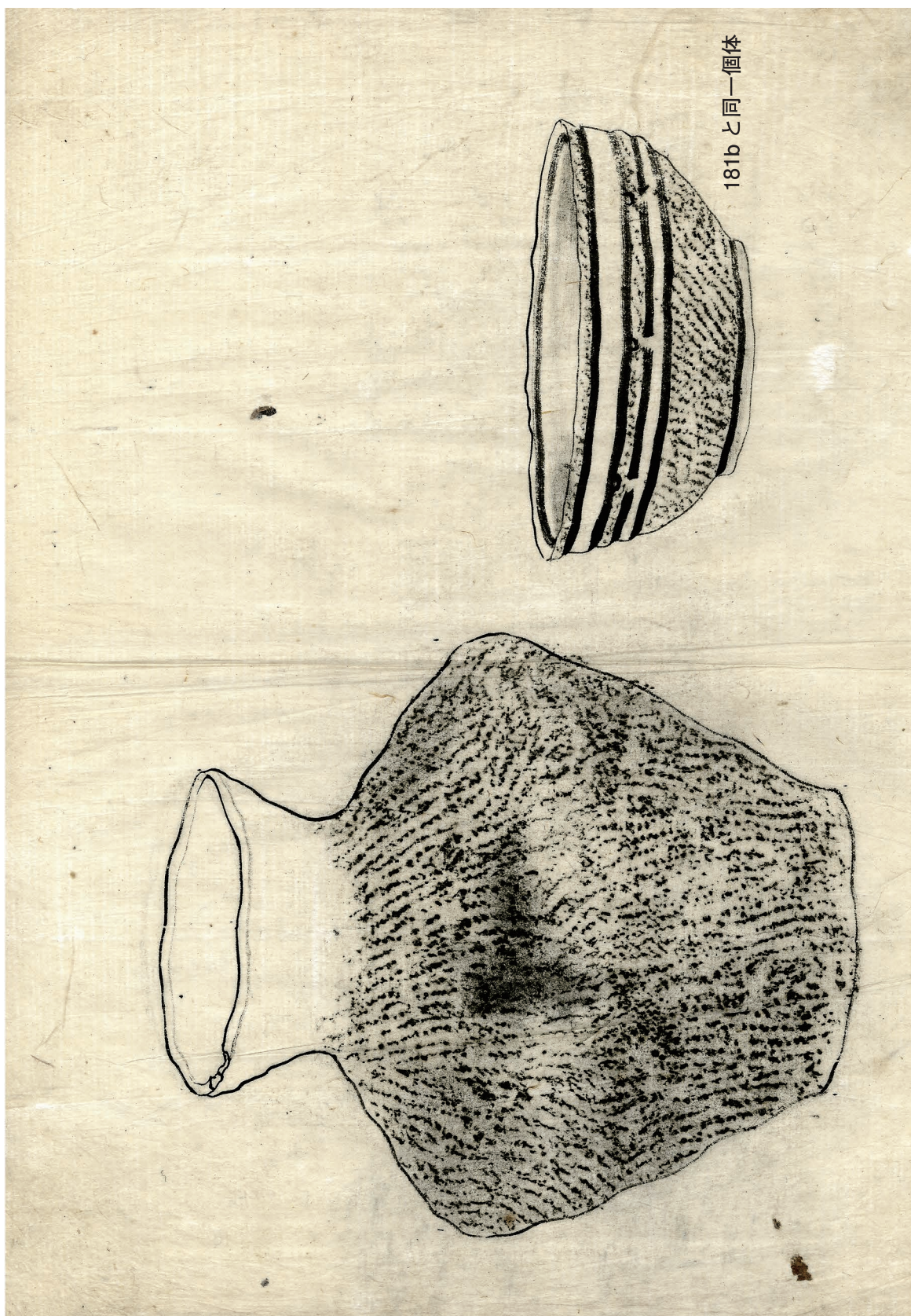


181B

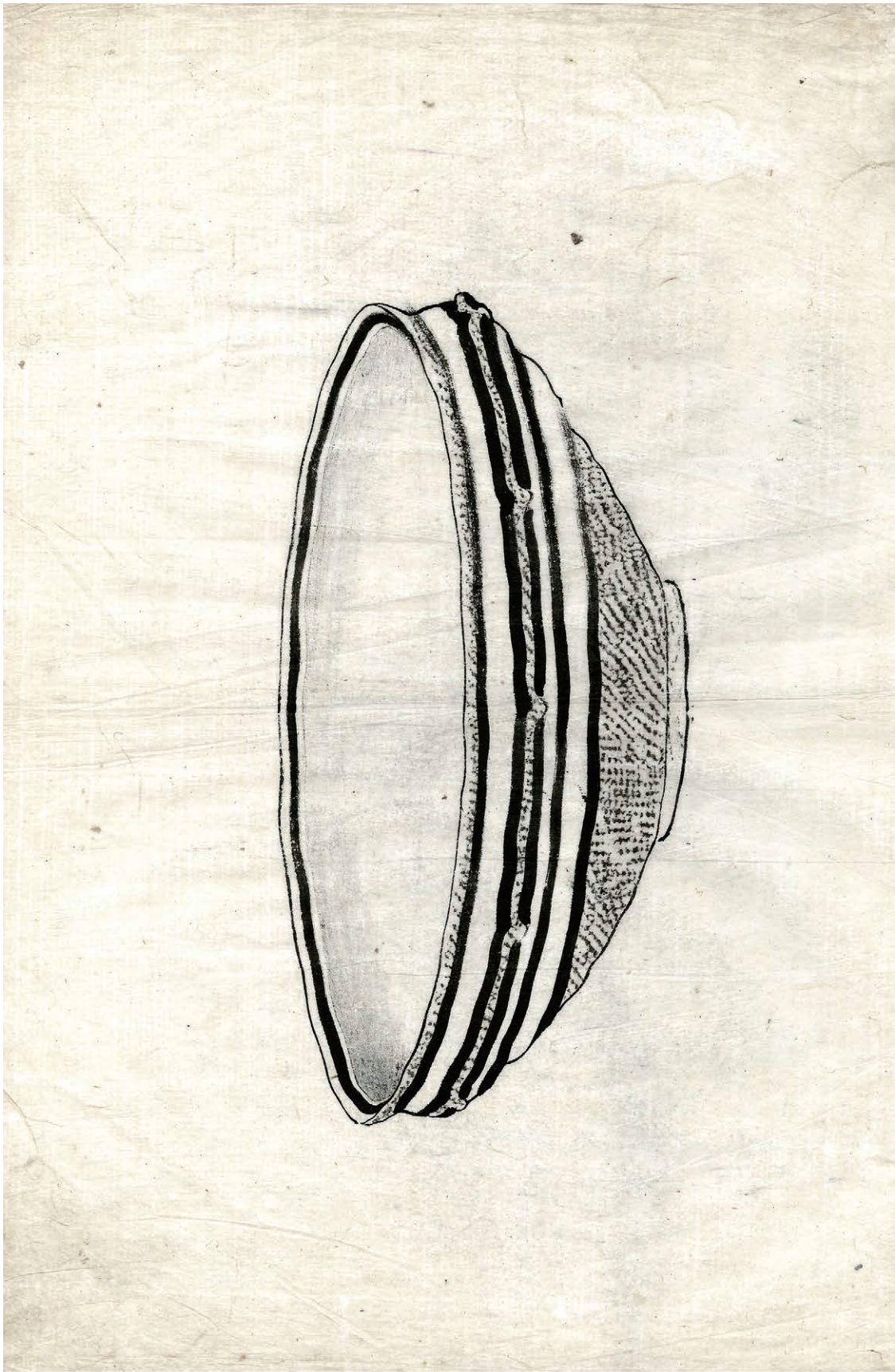


181C





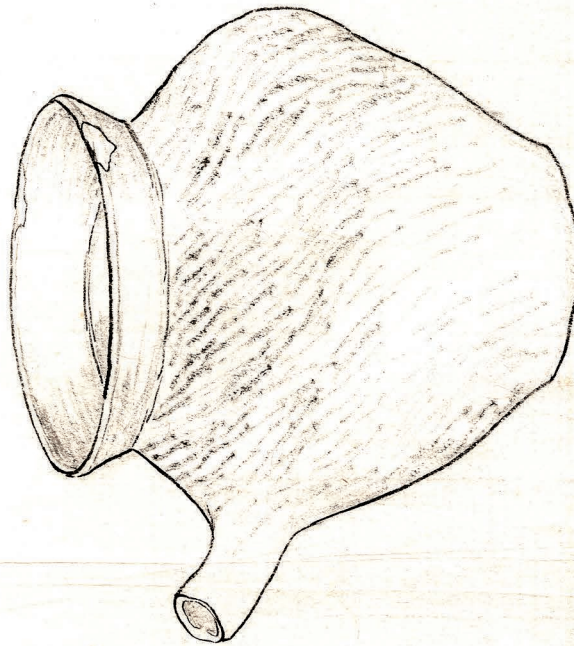
183



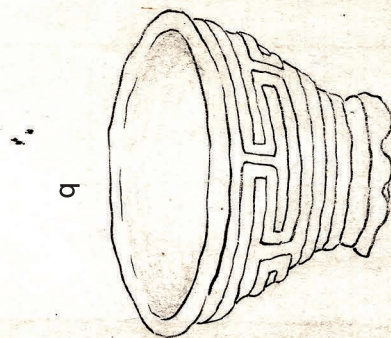
184

○廣船村合戰澤之産瓶罎

口径二寸六分
一又五寸廻り
高さ二寸九分
山口六分
色白
裏のく
あきり

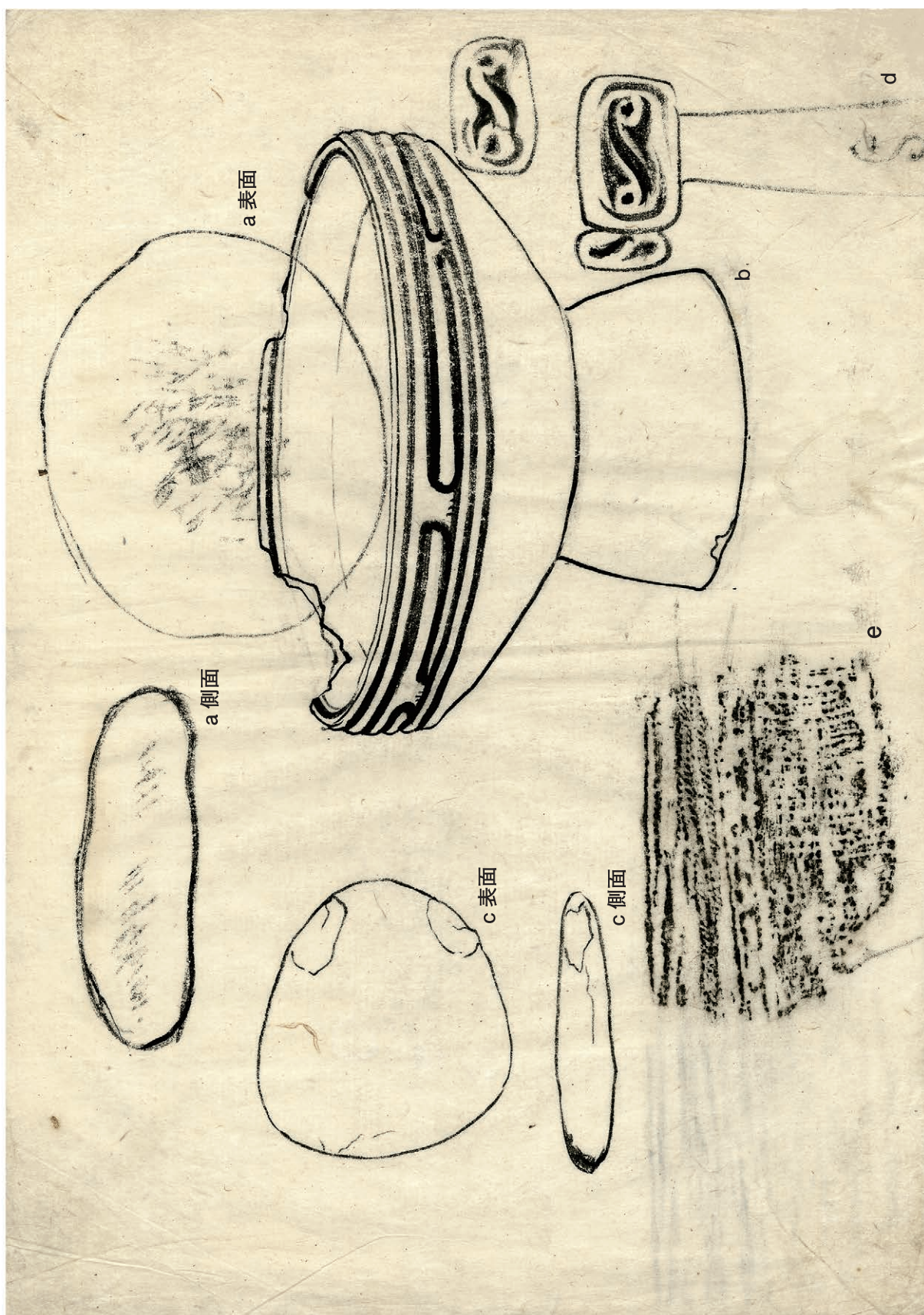


口径二寸三分
高さ二寸三分
全体色白所
あきり
文の四ノ字あり
あきり

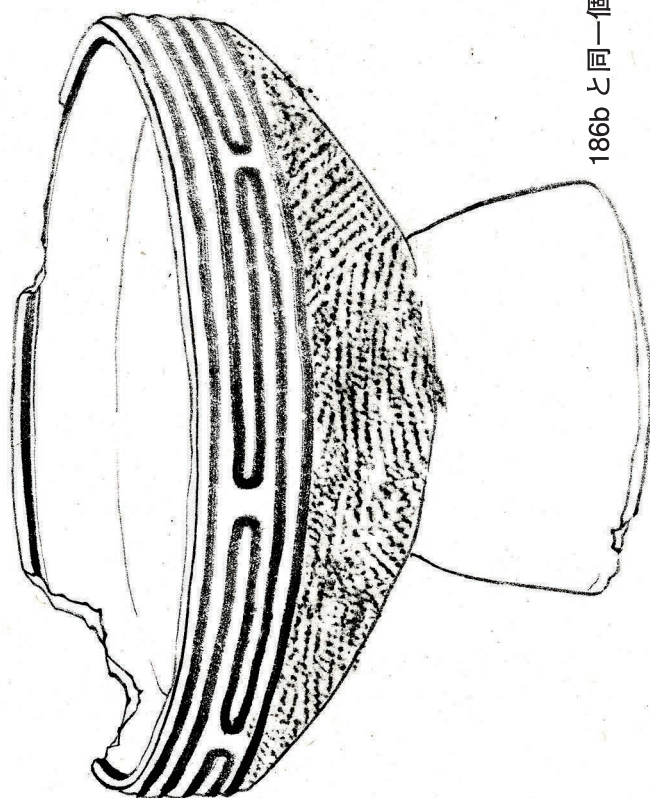


如三品同村外川氏
迄

辰、
旧五月七日申

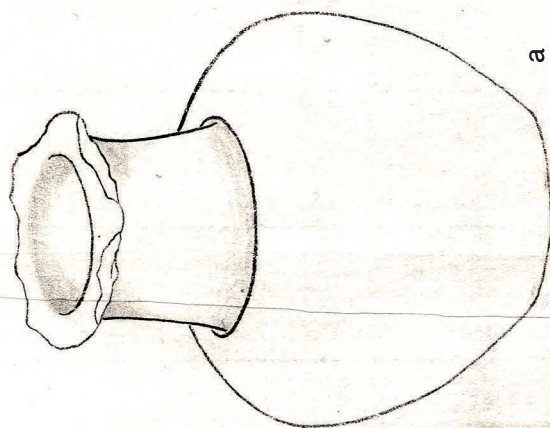


186A

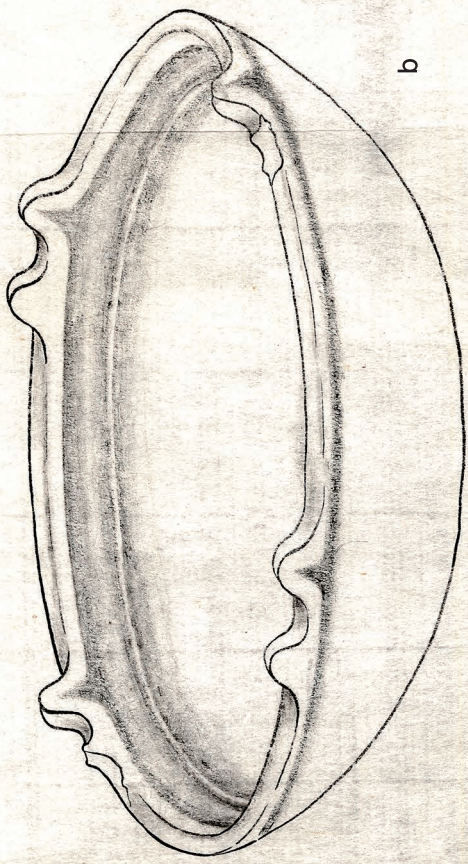


186b と同一個体

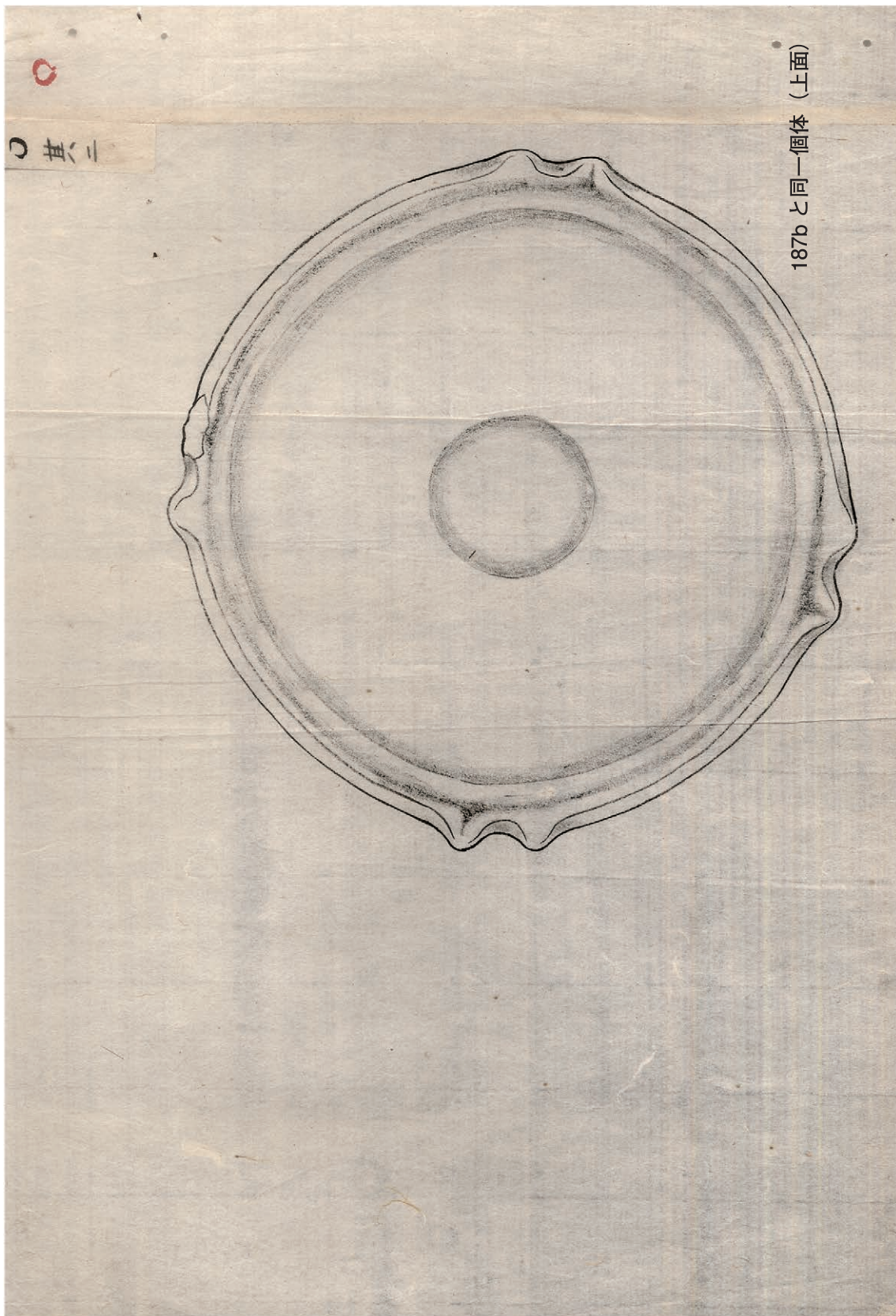
186B



高サ三寸九寸
 口径一寸六分
 腹三寸八分
 底一寸三分



口径一寸六分
 口径九寸四分
 底一寸六分
 色淡白



187B

湯口打字八森落し
ヨリ嘔出ス

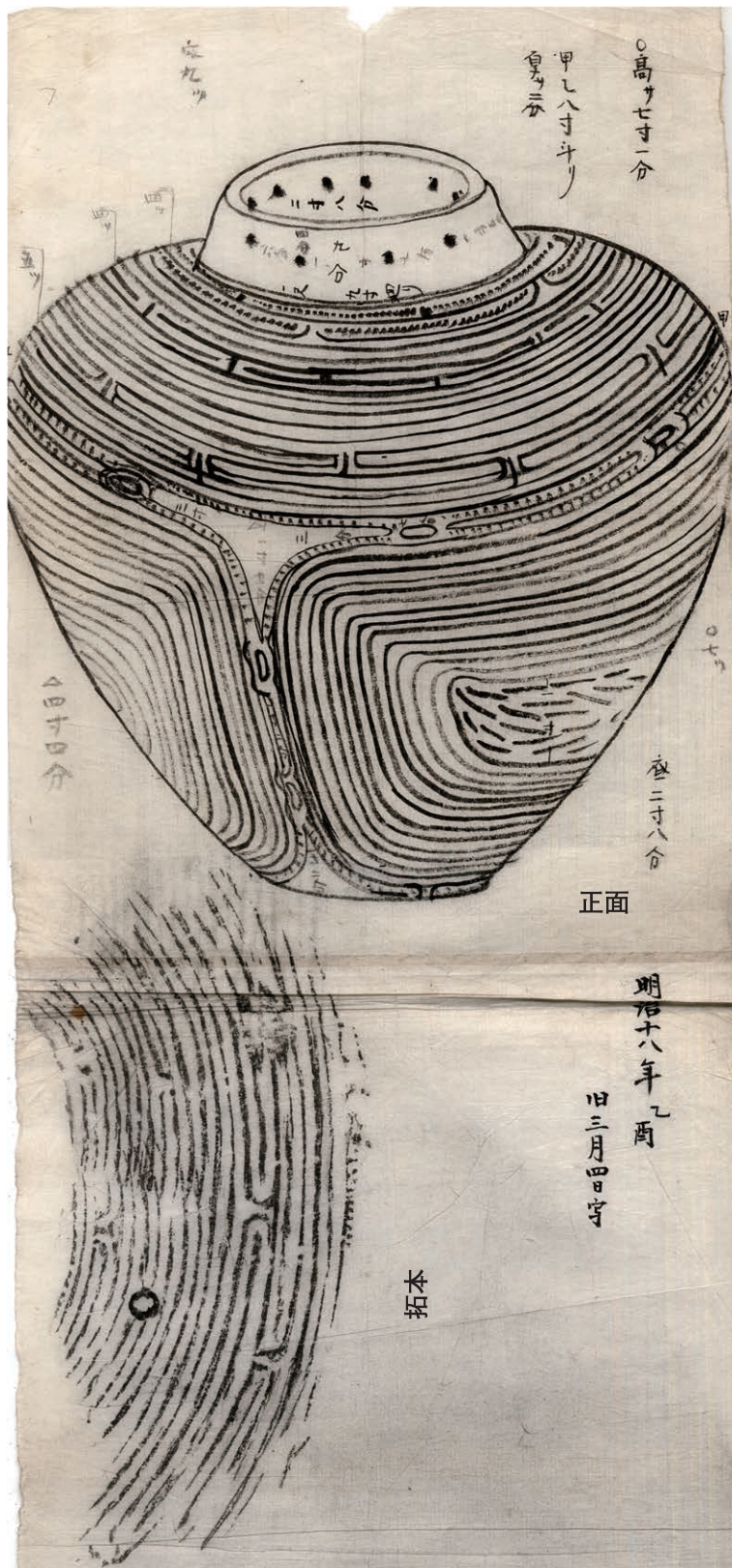
色淡白



188A



188B

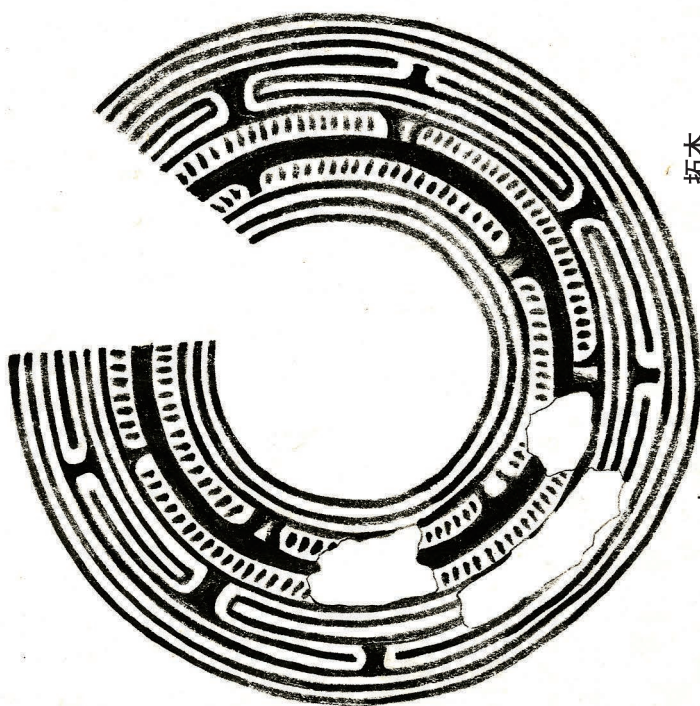
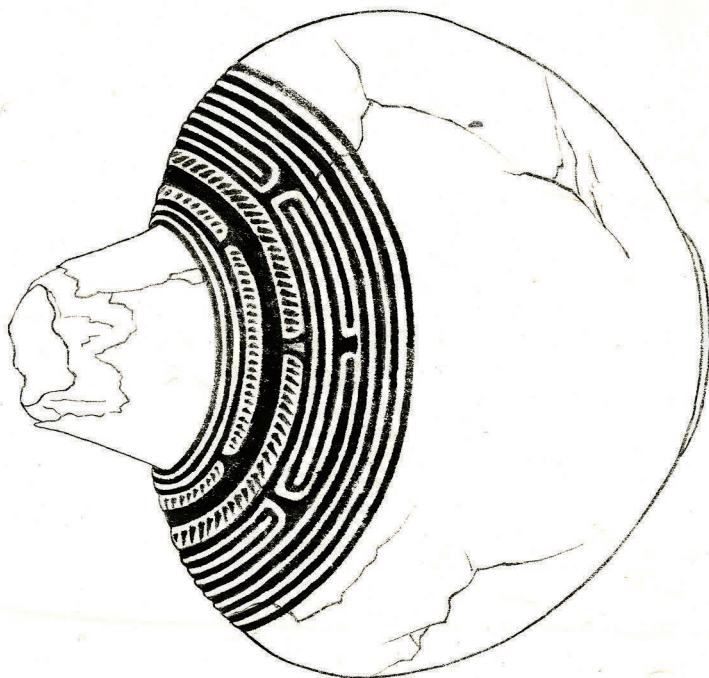


189

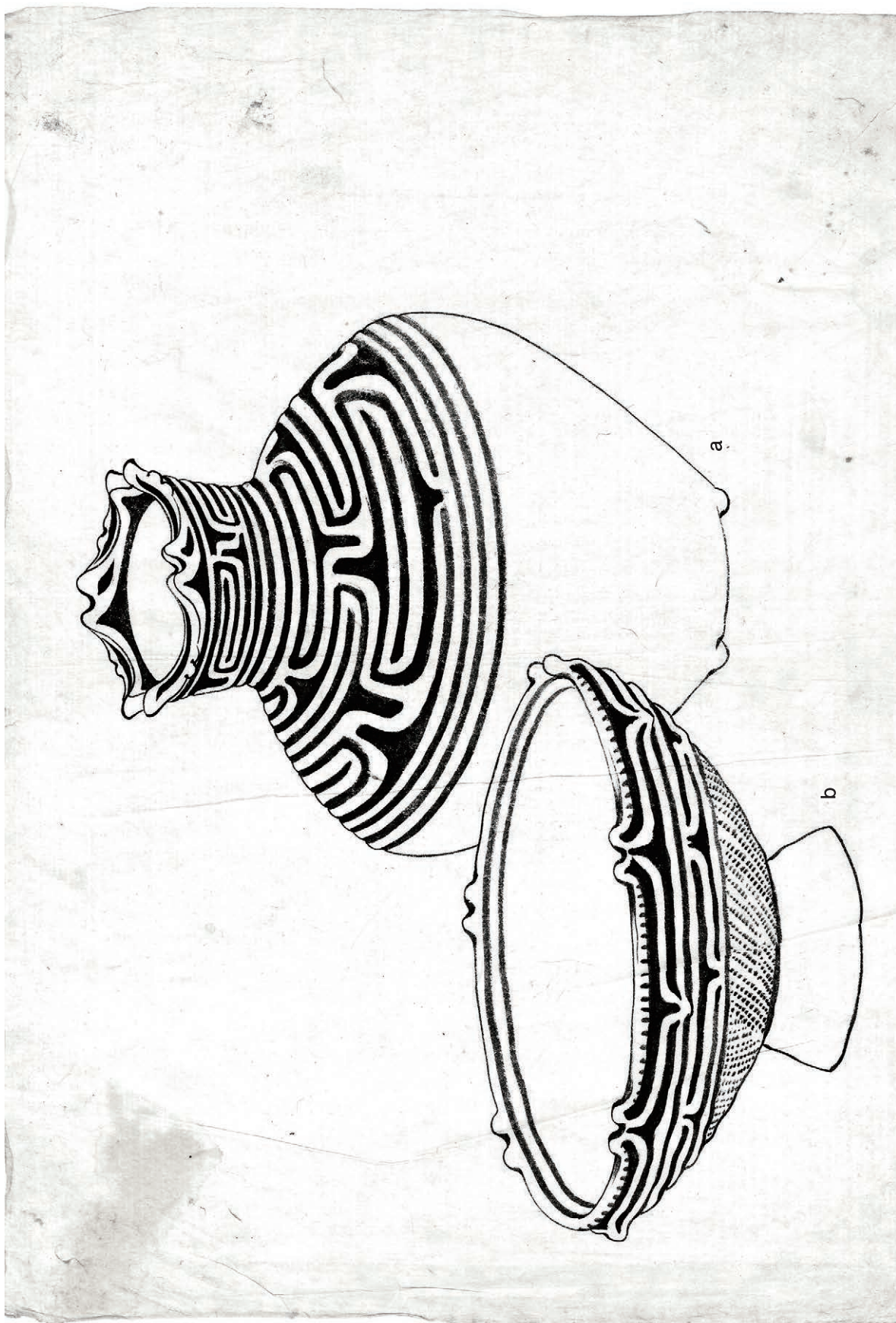
0 10cm



05
 拓本
 丁巳
 丁巳



拓本



192A

高^カ 四寸五分
口径 二寸二分



一 廿七 金

192a と同一個体

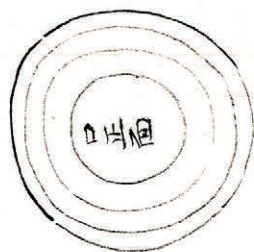
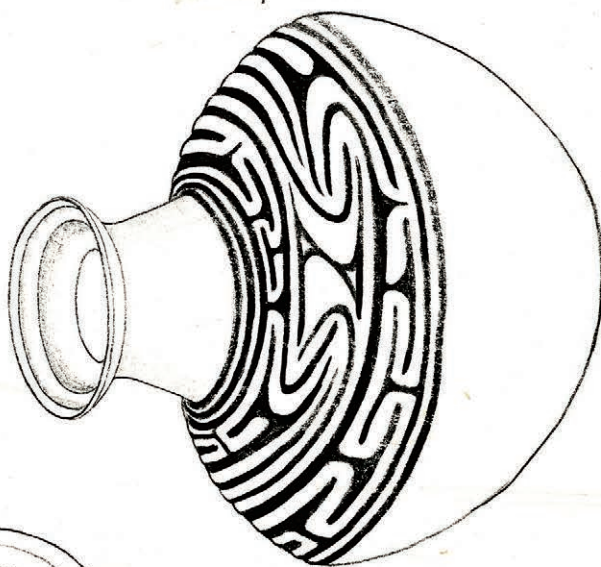
192B

○ 亀ヶ岡産瓶器之圖

高さ三寸五分
一尺二寸七分
廻り口径一寸
六分有一寸
底一寸四分

以下

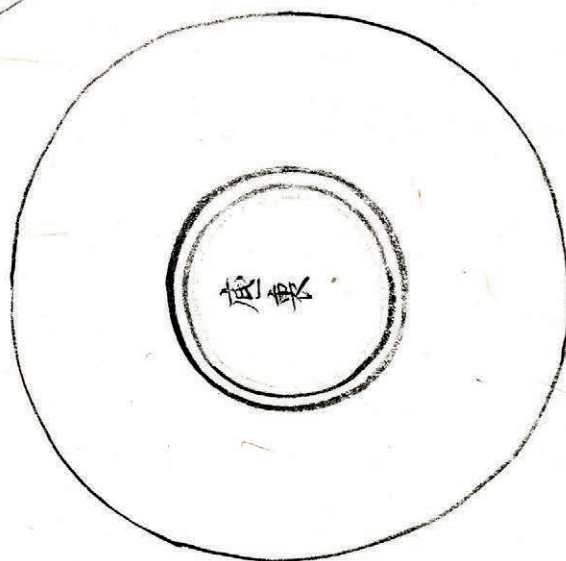
収蔵主之記載
ナキハ皆予カ収蔵
ニナル

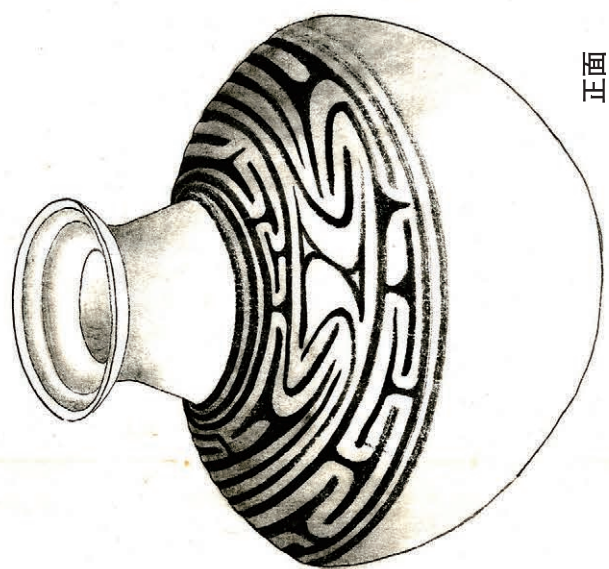


明治三十三年
辰

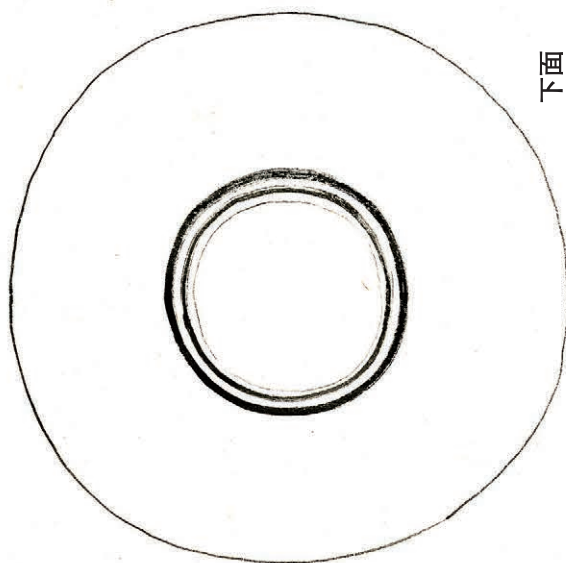
旧五月五日号

古物部より
凡そ古物部
先はあり古物部
古物部より
先はあり古物部
古物部より

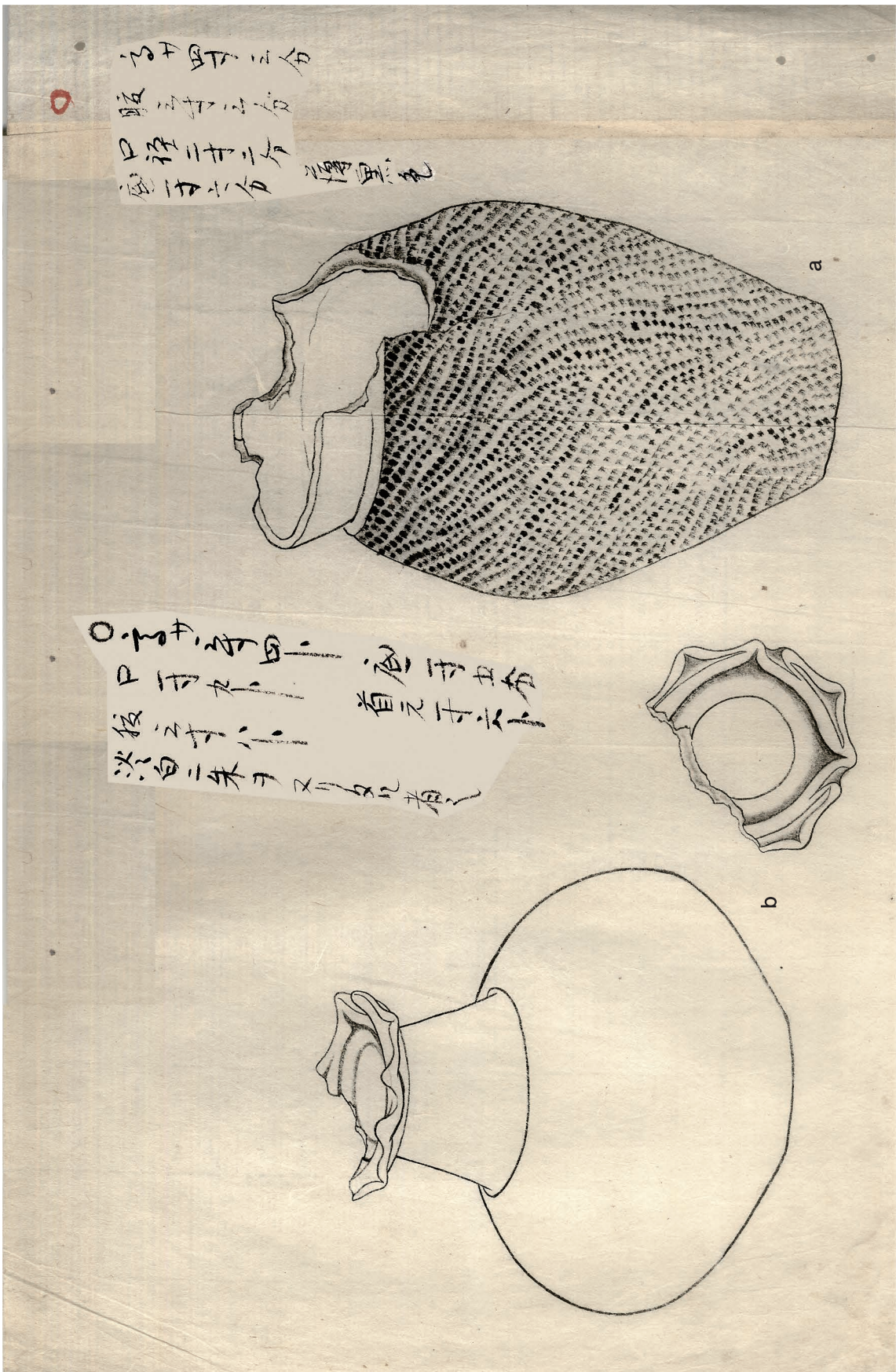




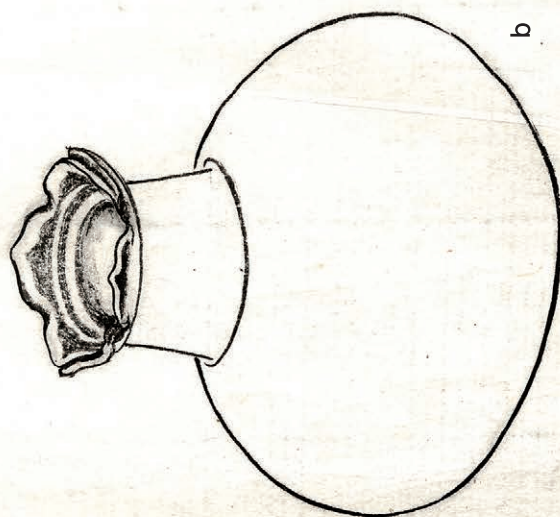
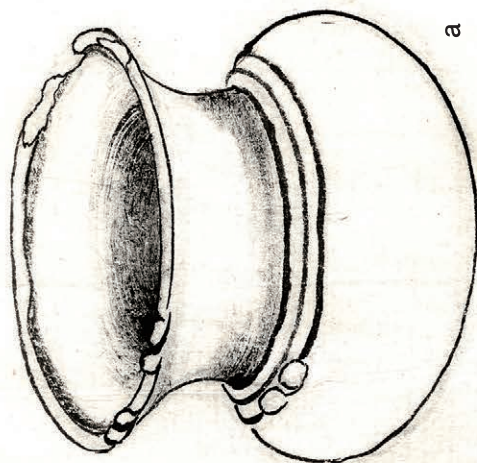
正面



下面

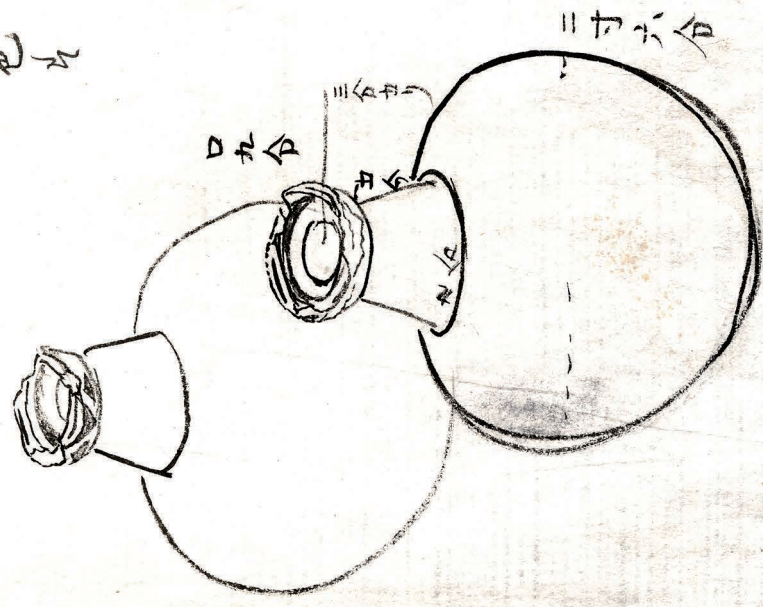


○ 〇 〇 〇



弘前
安田氏之藏

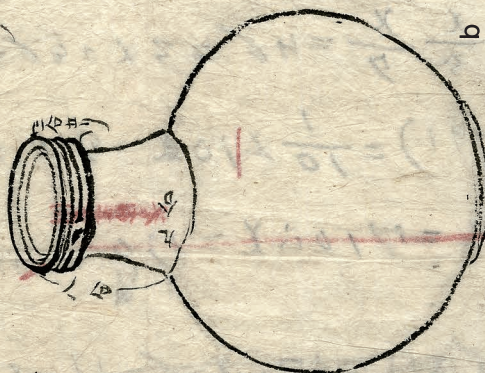
座丸一色水
淡白之



閏五月五日亭

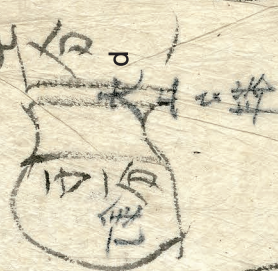
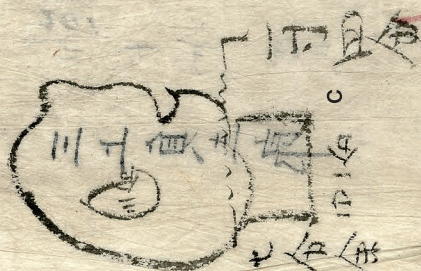
旧正月十三日

腹徑二寸五分



100

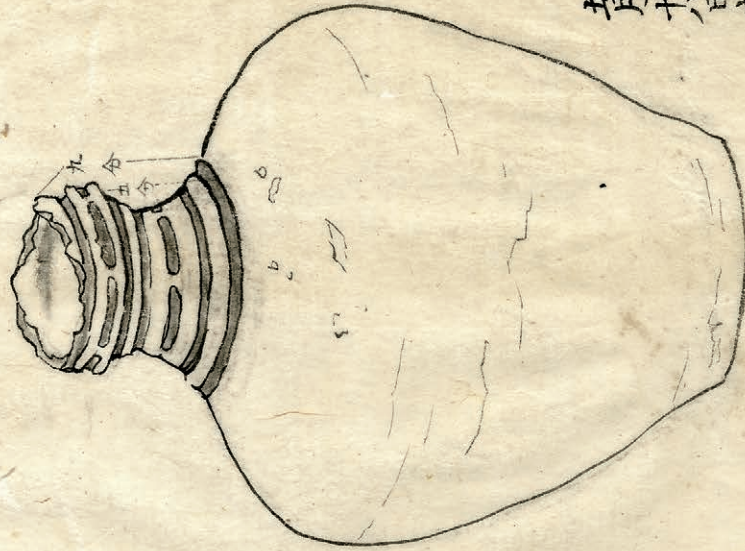
卷一



白王魏壹

赤
壬午年新

九月十八日

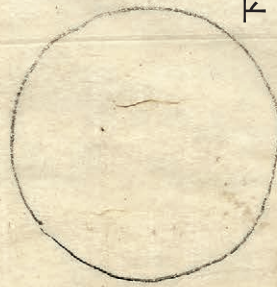


高四寸腹徑三寸二分五厘
口徑一寸二分底徑一寸八分

上面



下面



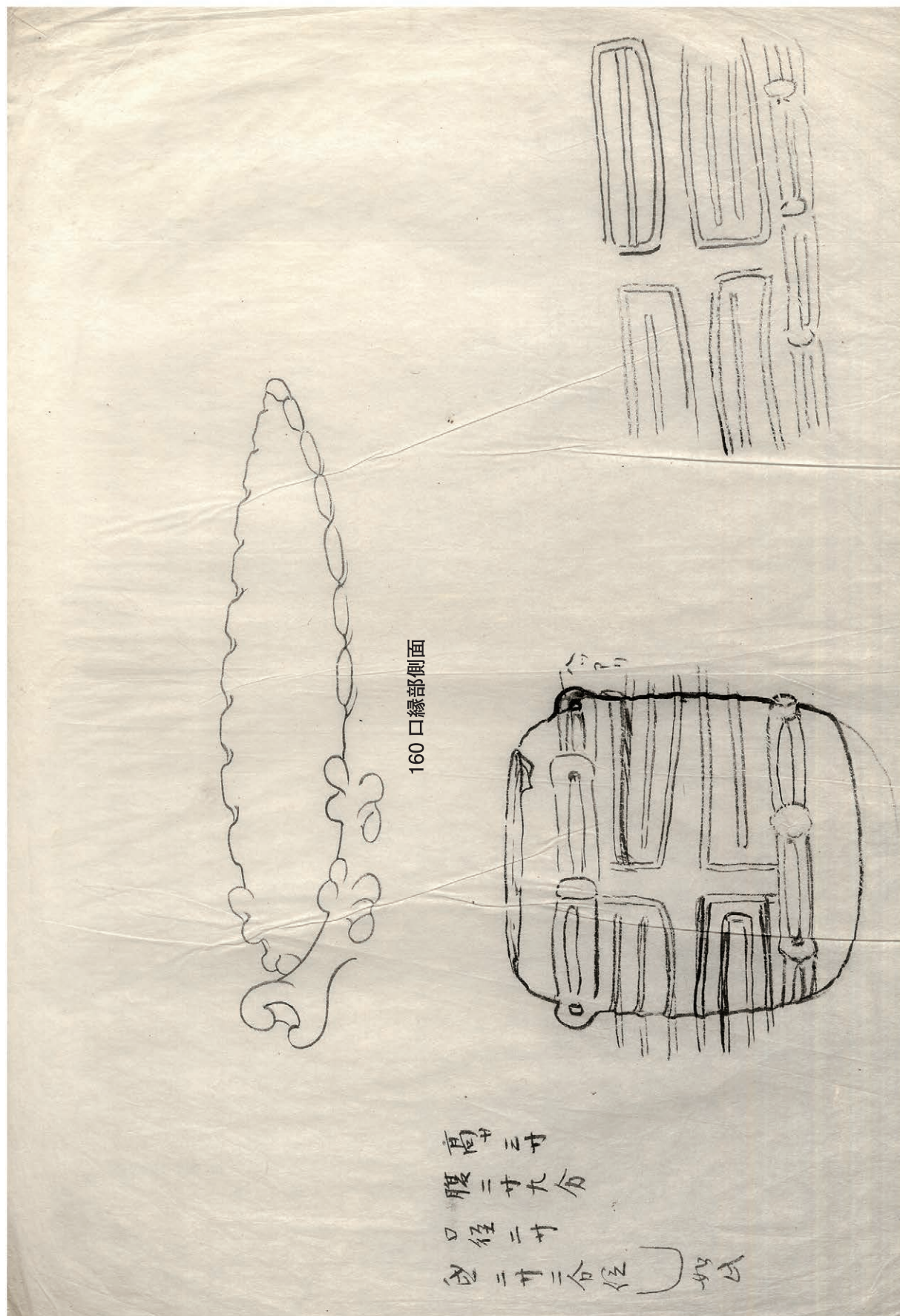


199

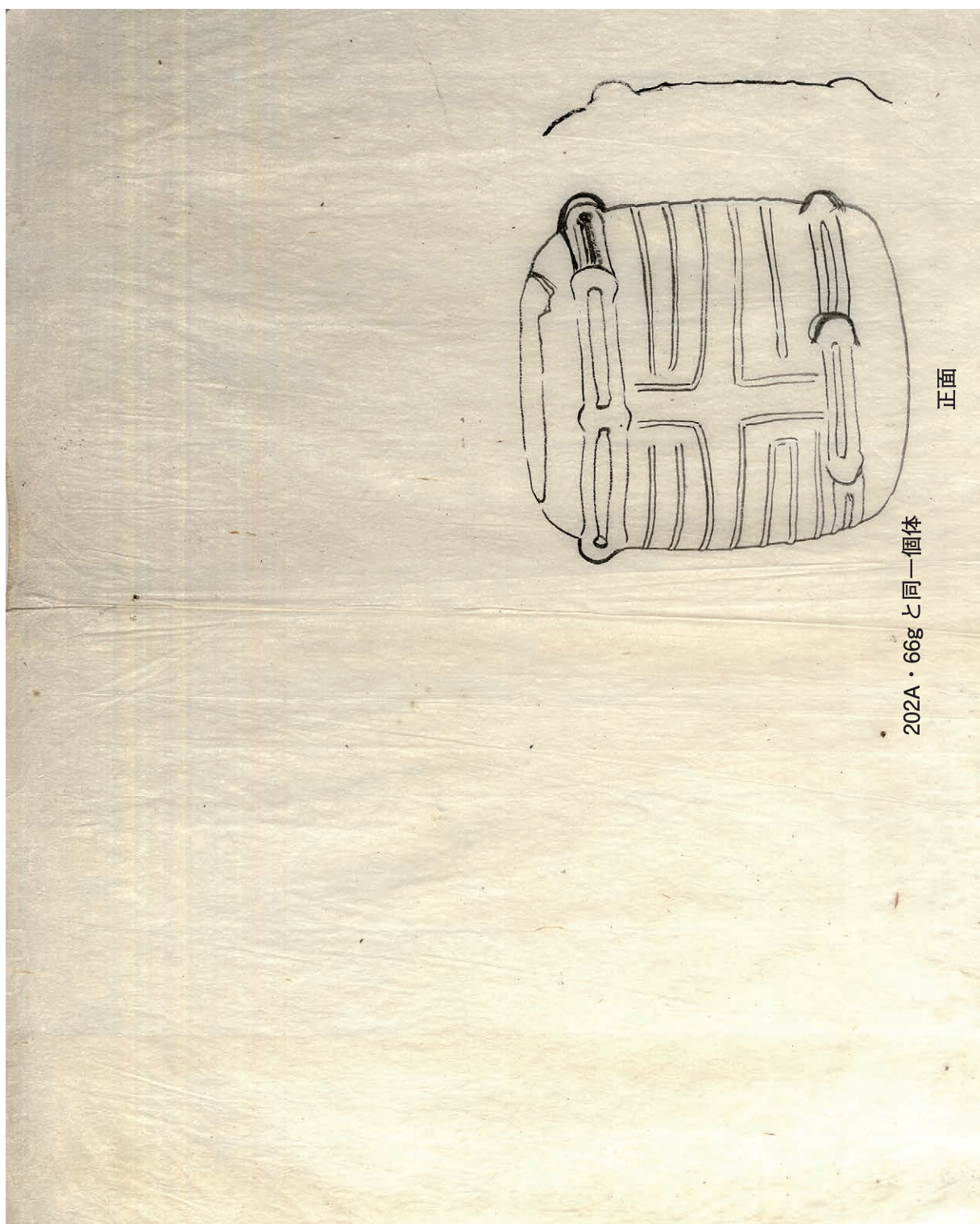




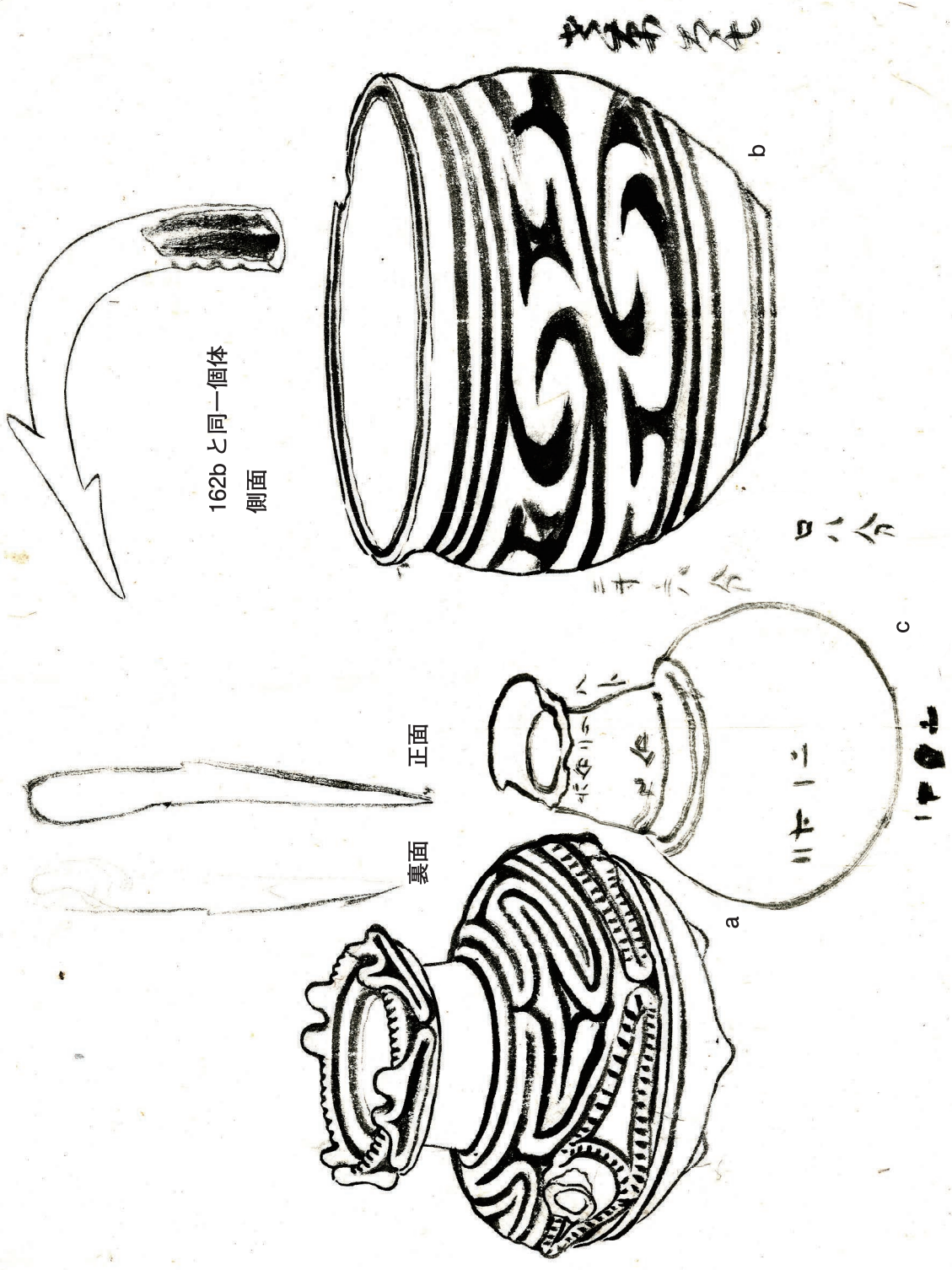
201



202A



202B

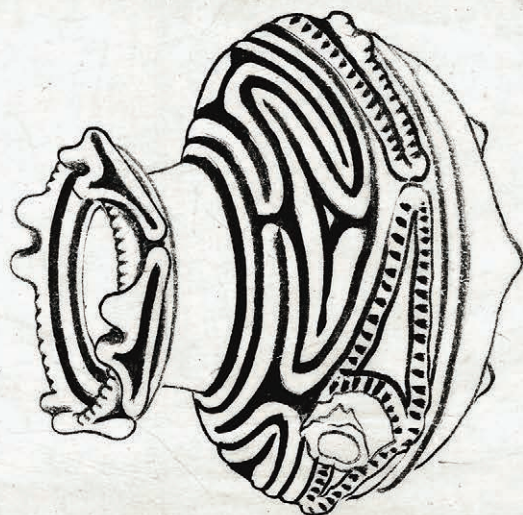


203A

西津輕郡楯岡村

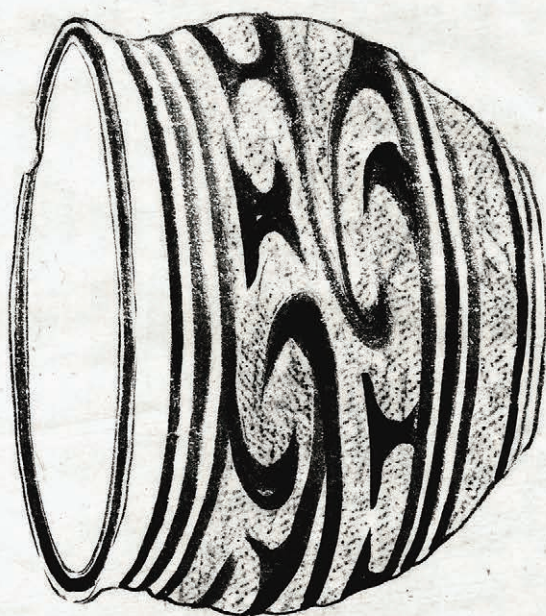
野呂氏所藏

黒色ニシテ回所ニ朱ヲ存ス
且顔ル光澤アリ



a

茶褐色ヲ帶フ



b

203B

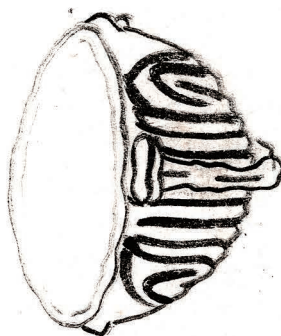
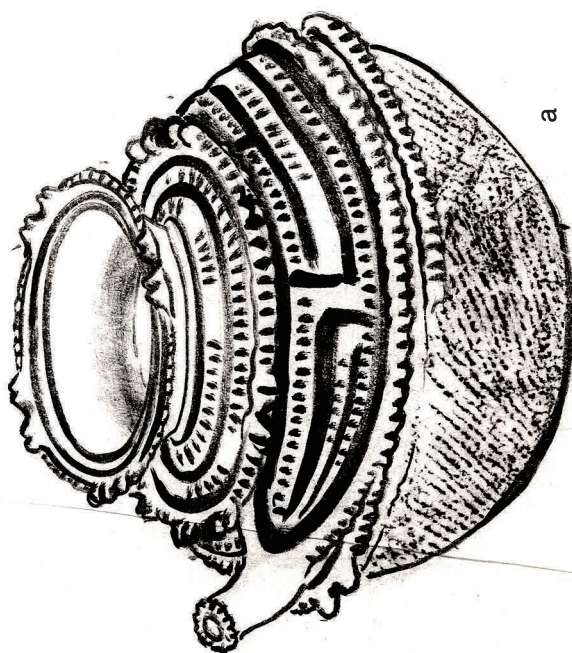
原氏藏

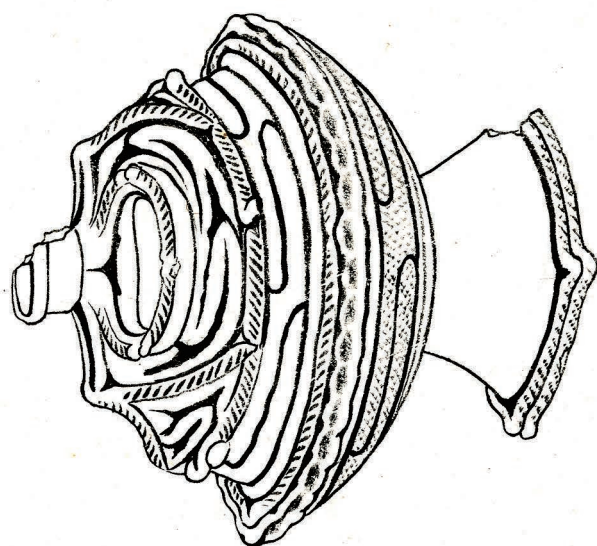
高廿九分三厘

口径三寸二分二厘

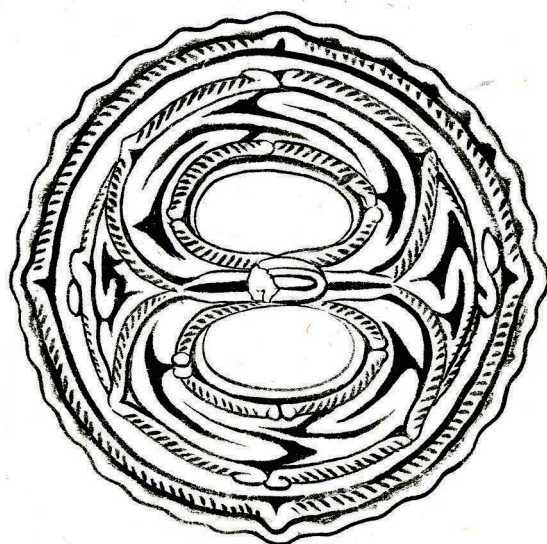
腹径三寸九分

龍岡虫工





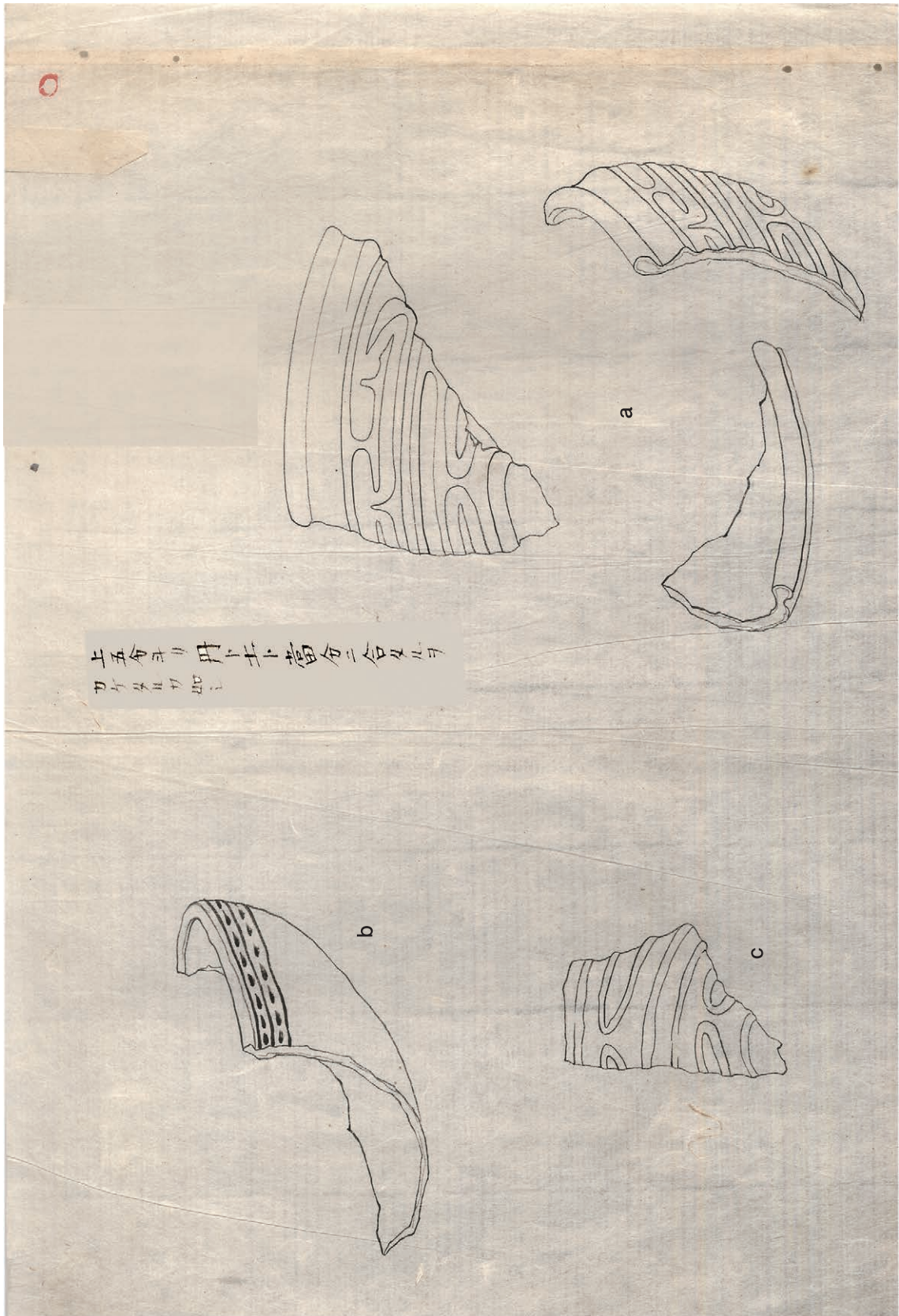
正面



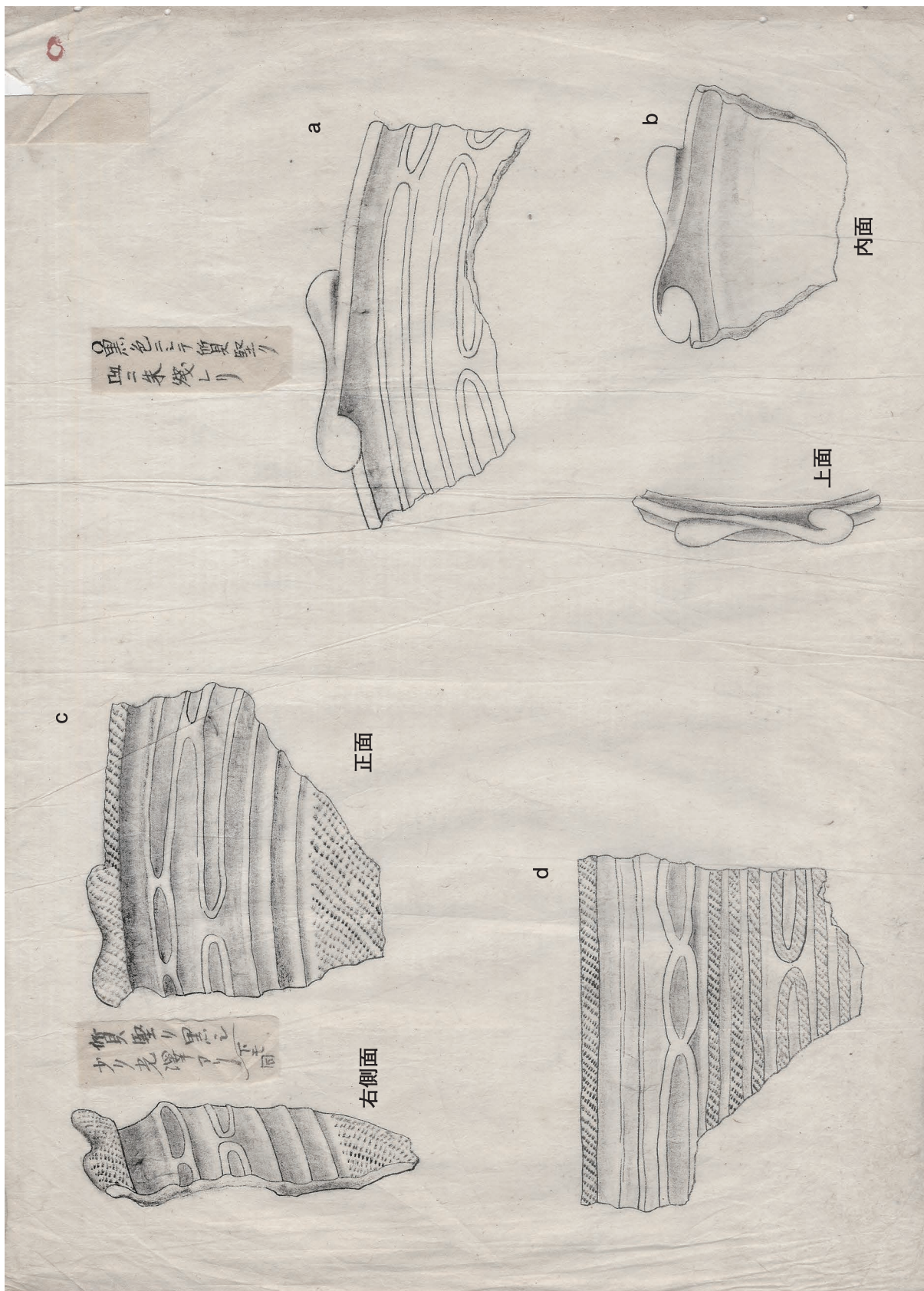
上面

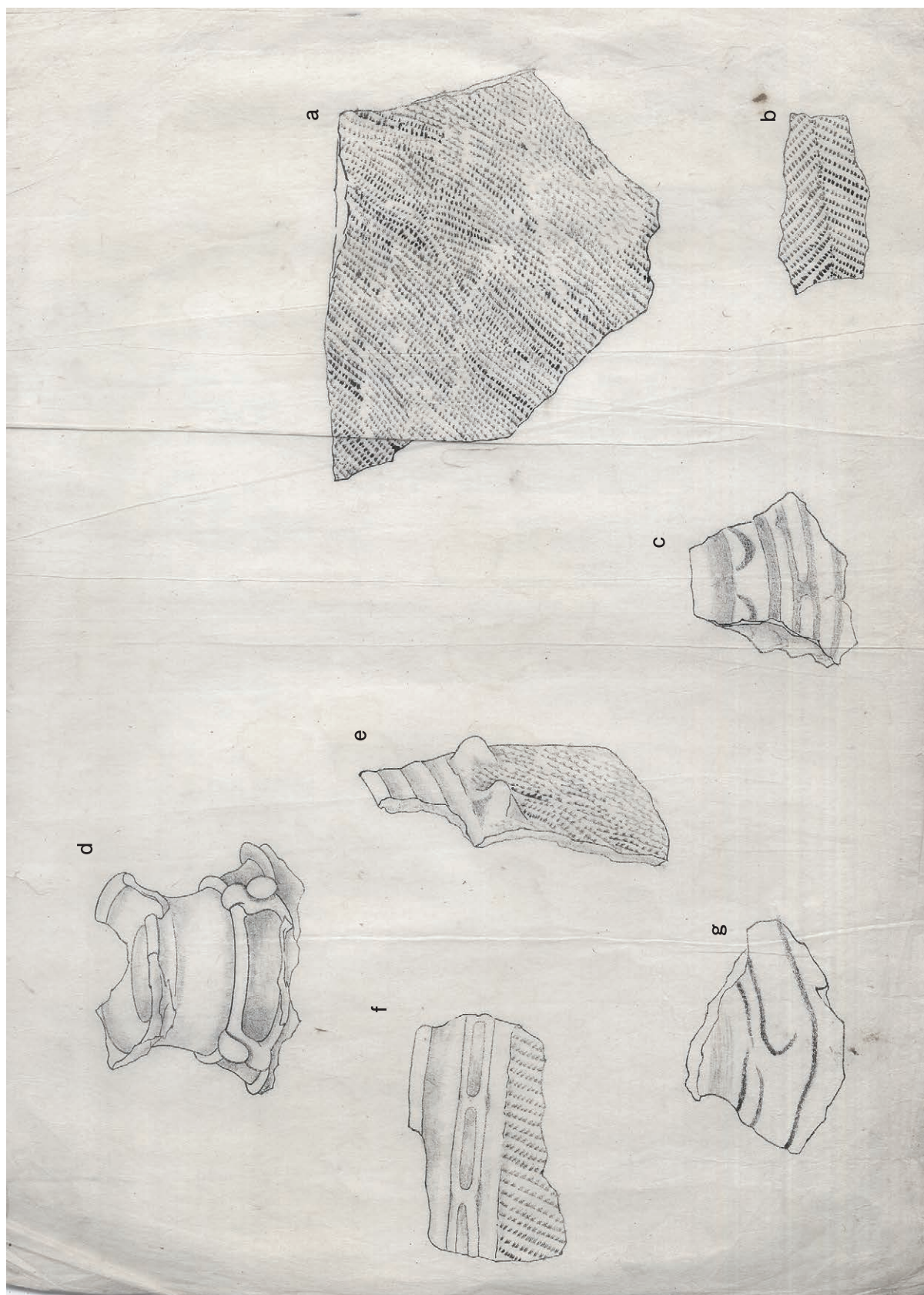
未
甲九月九日

205A



206A



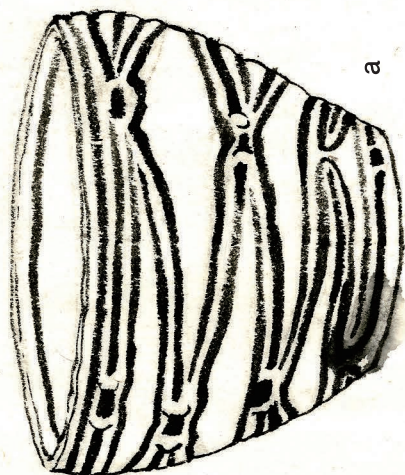


瓶之圖

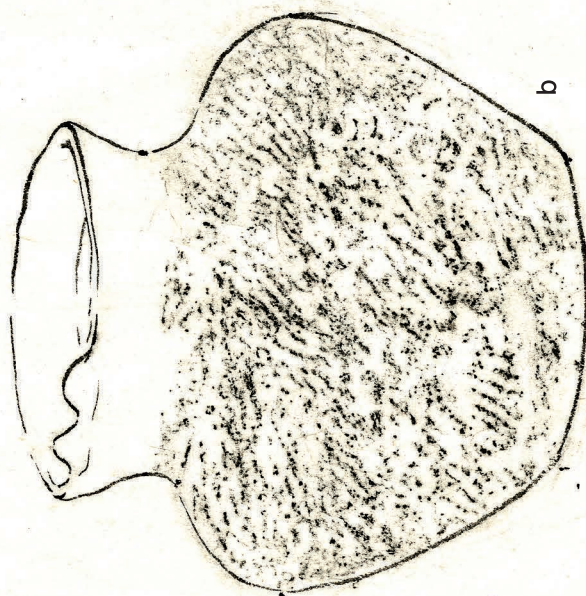
高廿二寸一分

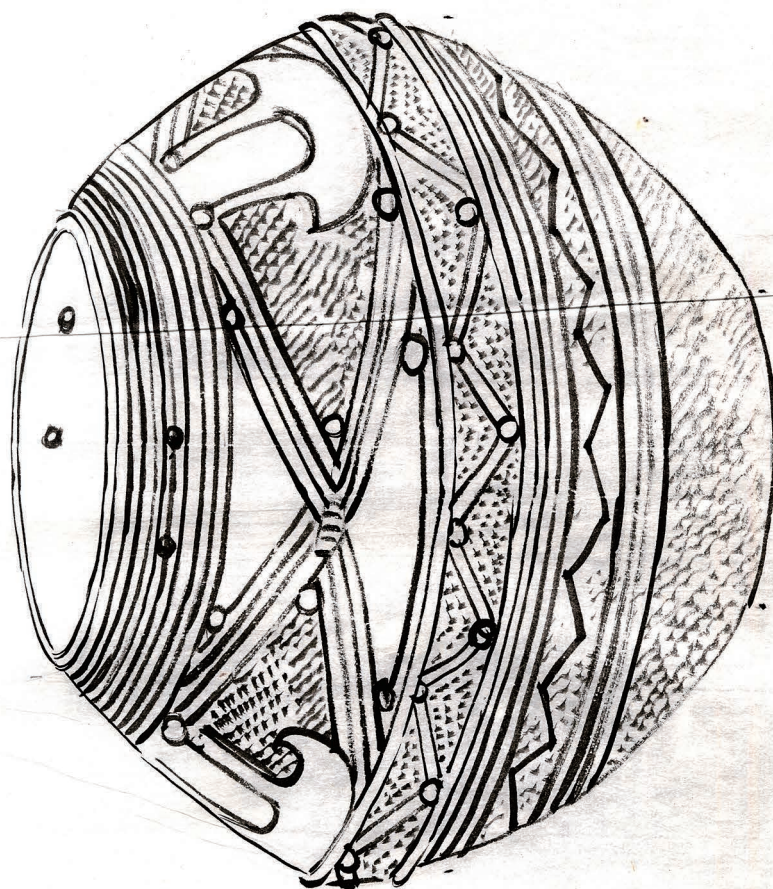
明治三十七年

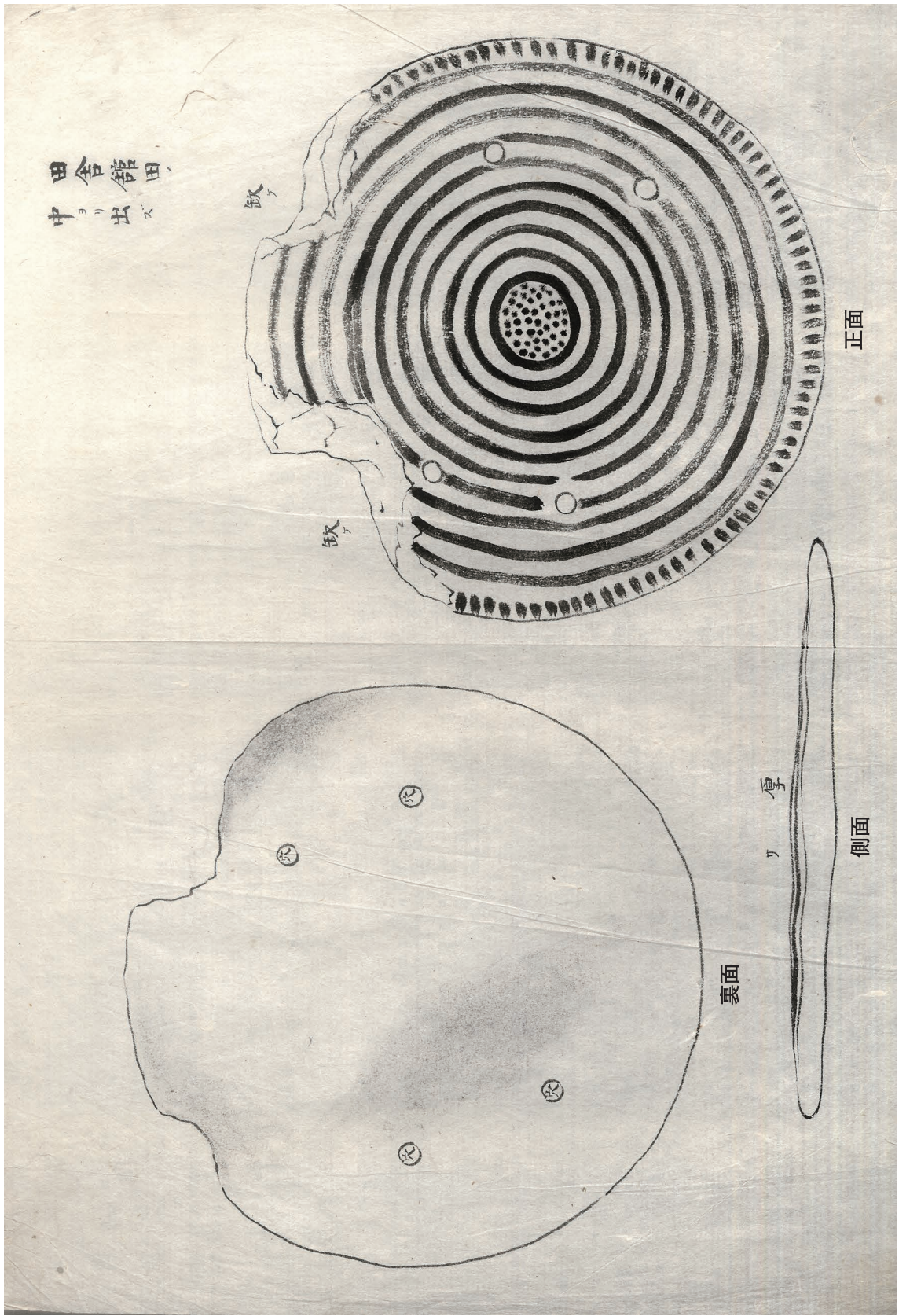
二月十七日寫



建石







211A

中央厚子廿四合

端厚子二合二厚子



正面



側面

211B



212



213

明治廿四年卯年三月廿日

北見国枝幸郡
枝幸村海岸マリア

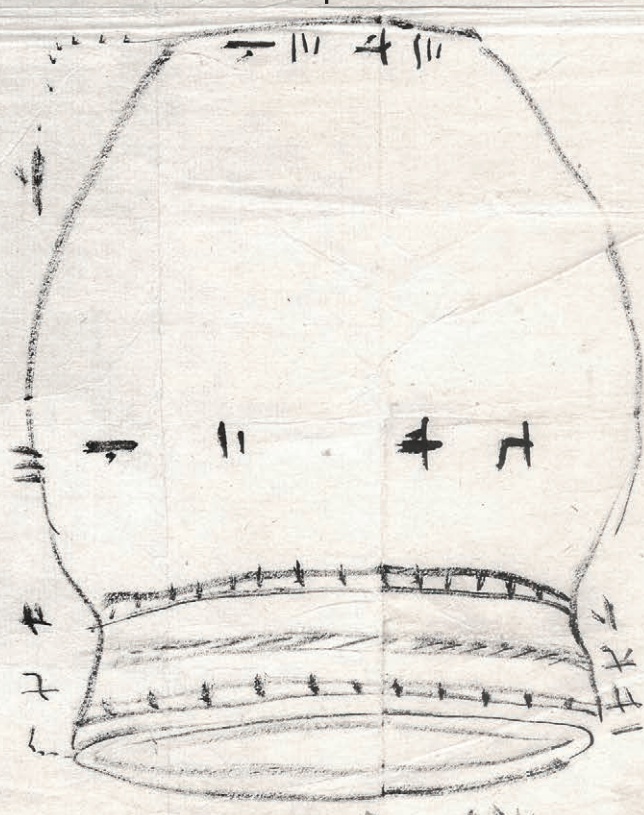
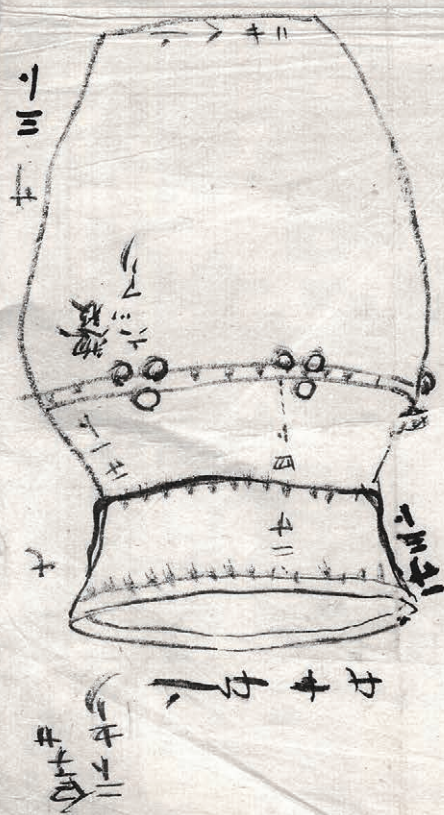
鯨油場

田口初平
所産地ヨリ



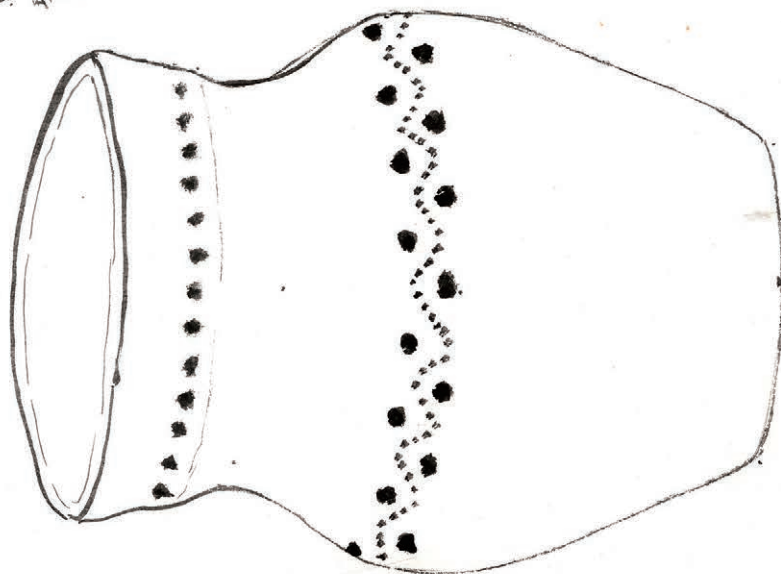
c

q



北海道北見國網走^{ヨリ}出^ス

色^ミ褐色^ミ黒^ミ斑^{アリ}



尾上村

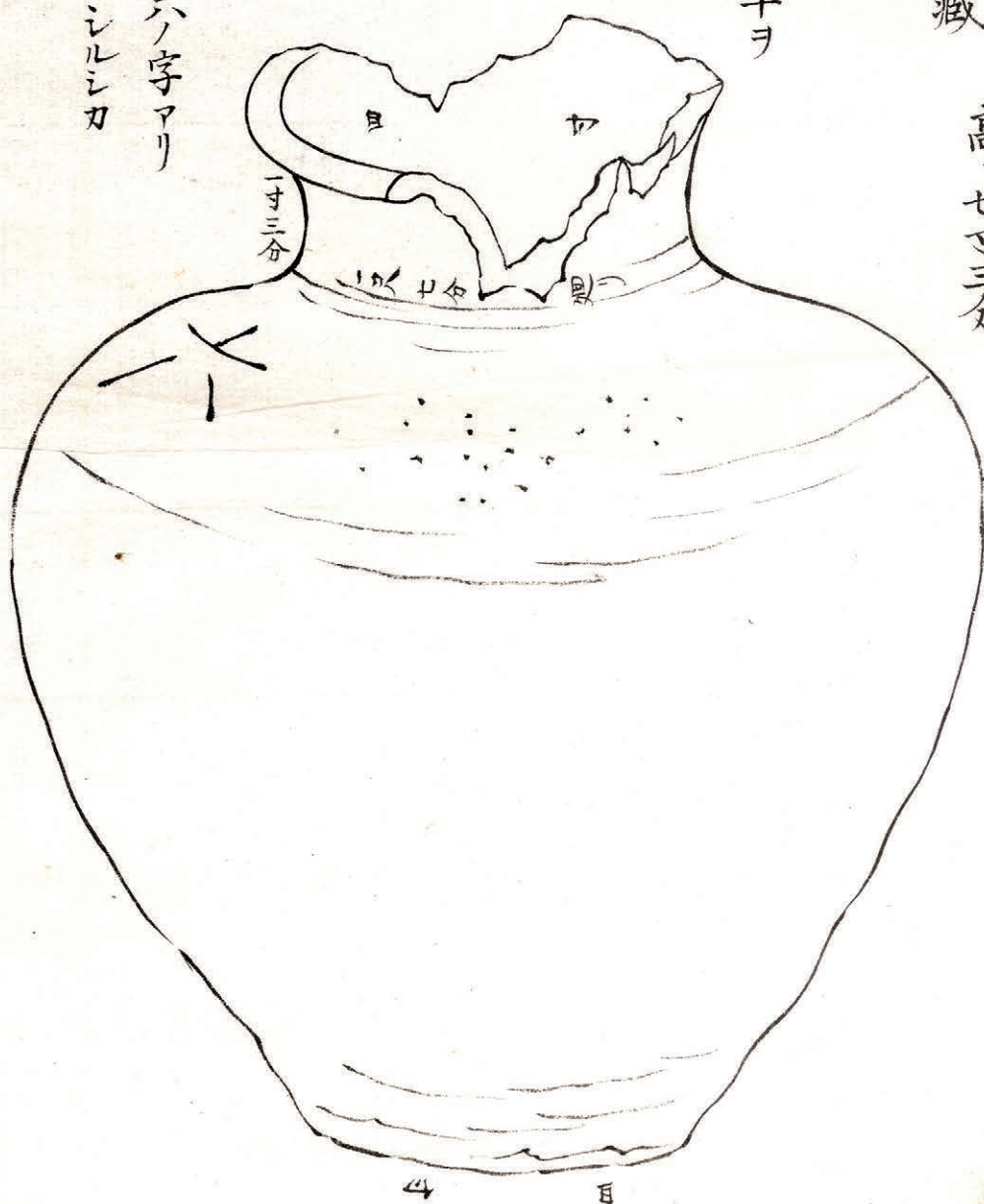
福士氏之藏

高サ七寸三分

一尺三寸廻リ

明治十三年之頃
猿賀神社之草ヲ
取セシ時人吏
社之後ヨリ掘得
タルト云々

如圖六ノ字アリ
數ノレルシカ



明治十六年 旧正月十六日写

神氏藏



松本平村

相馬長次郎之藏

字松本と云煙々

堀々々といふ

高四寸煙々

一尺四寸

底二寸

厚二合

藥をわけ

物々々

鳥々々々々

如圖四本

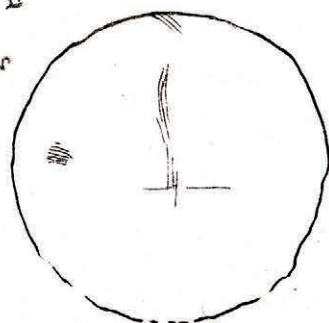
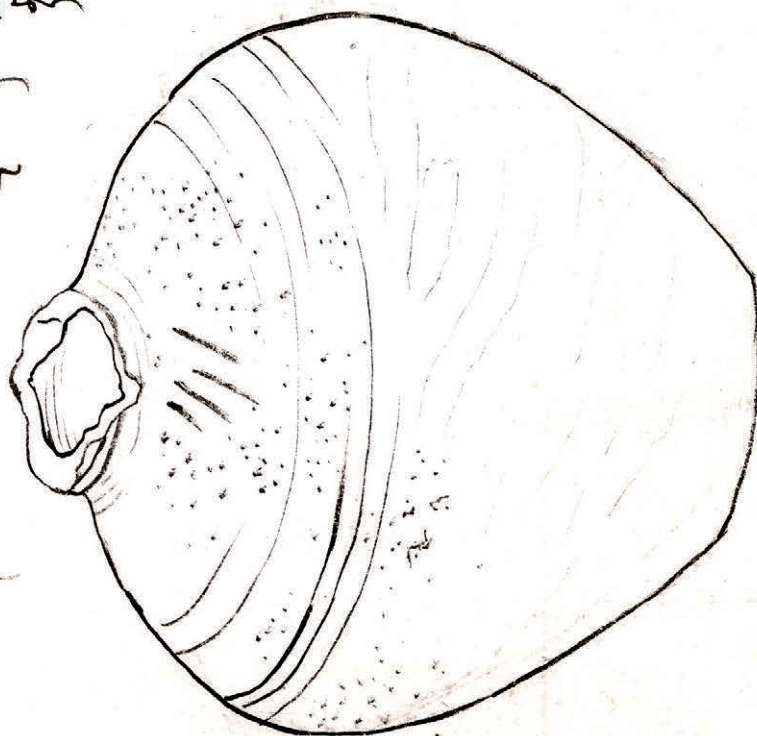
印様のめ

々々

惜々々

のめ

と



明治十七年

四月七日



219A



219B

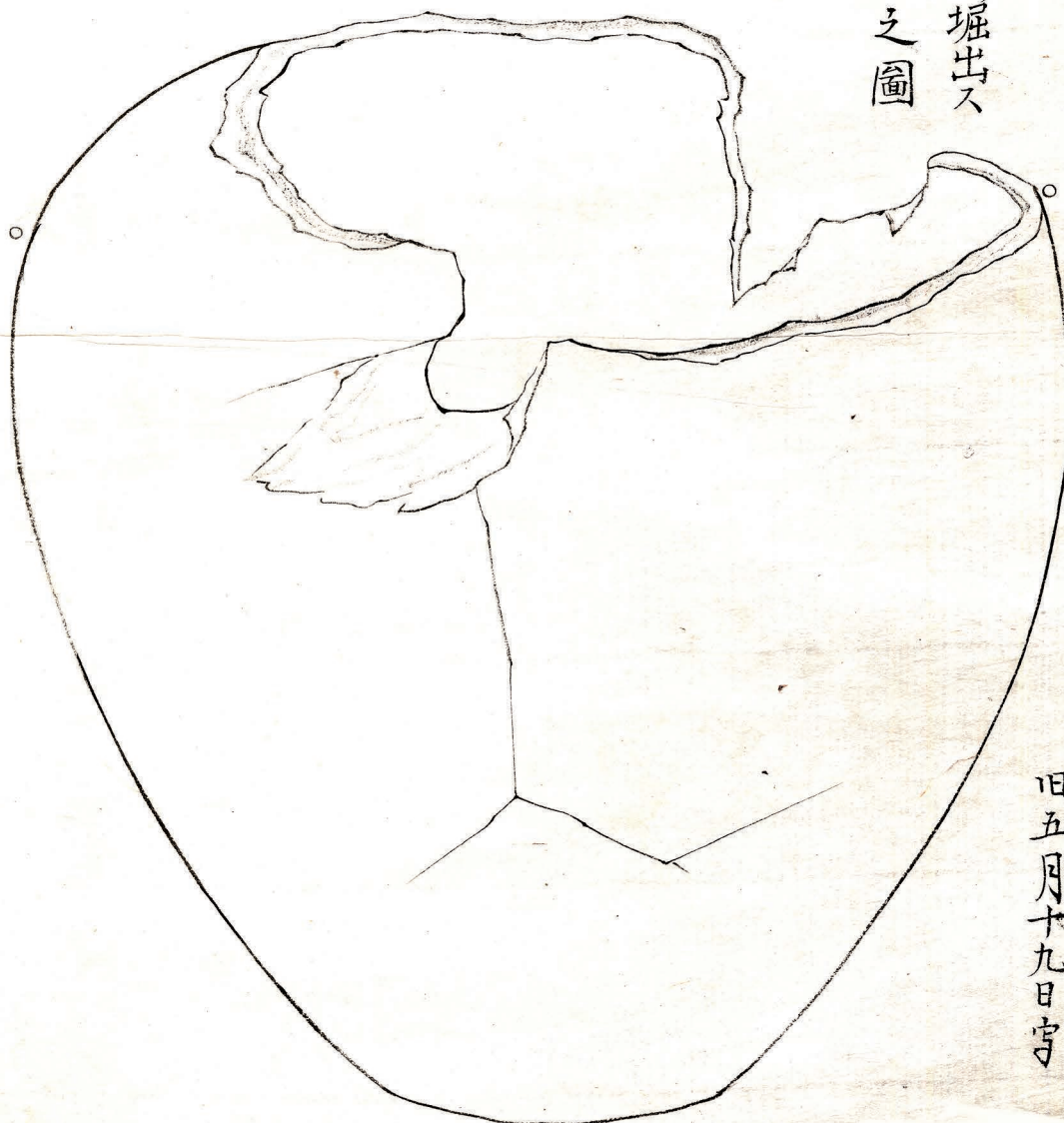


下澤氏之藏

浪岡村土中ヨリ掘出ス

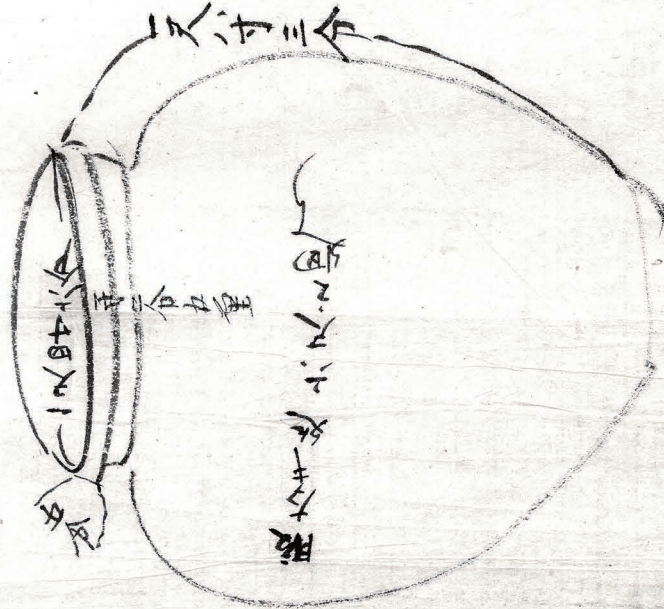
瓶罍破之圖

高^サ六寸二分斗
印六寸六分
黒^色質^堅シテ
光澤ナス



巳ノ
旧五月十九日寫

日一四
四十六日部



享保十三年
年

清納戶全清取
廣須新田上大觀
一

十月七日

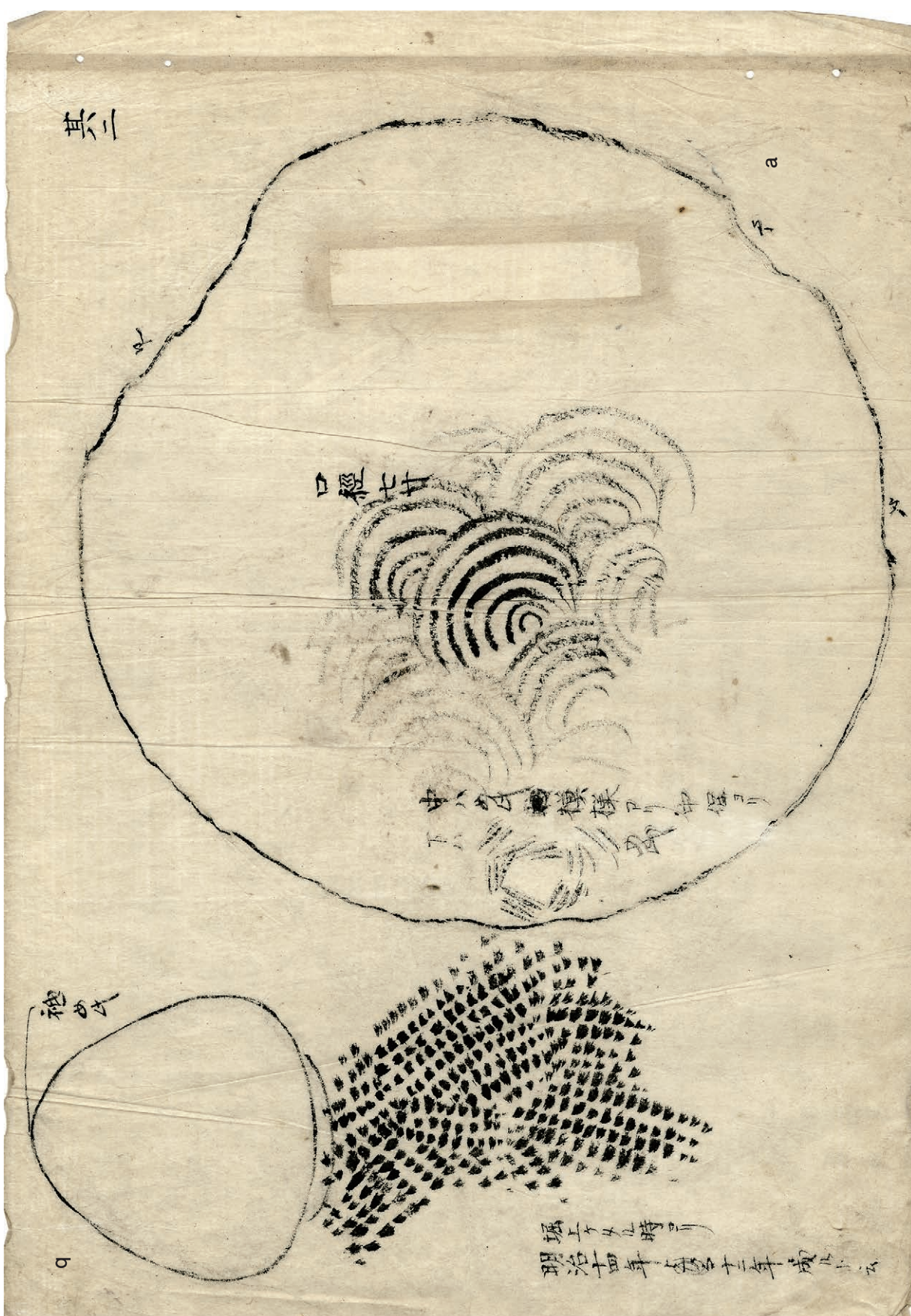


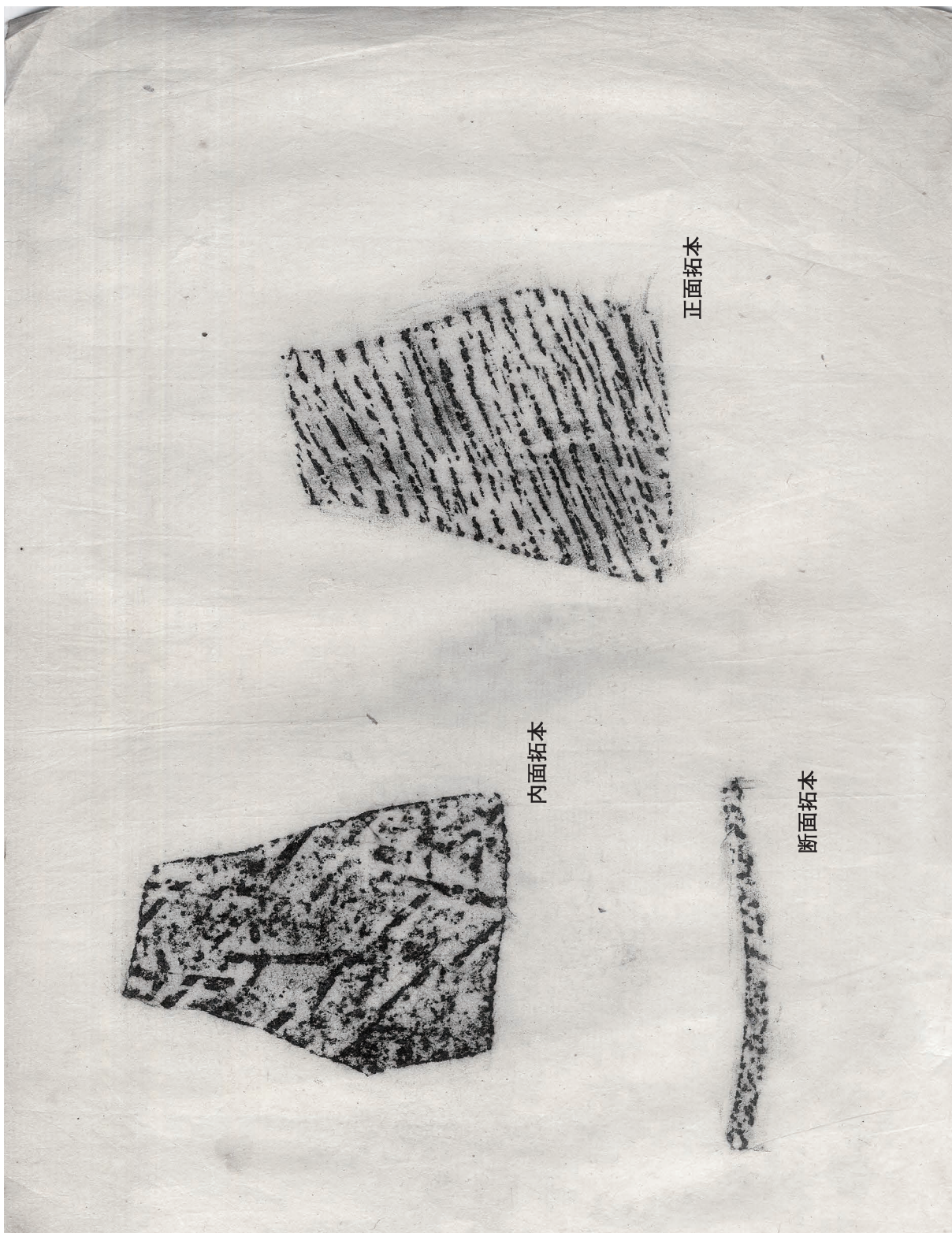
223



224

其二

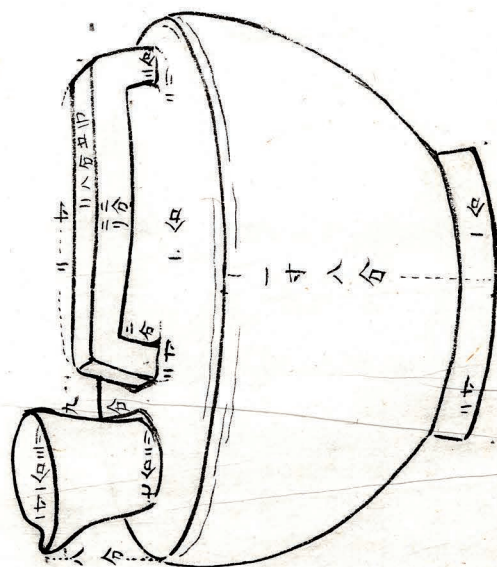


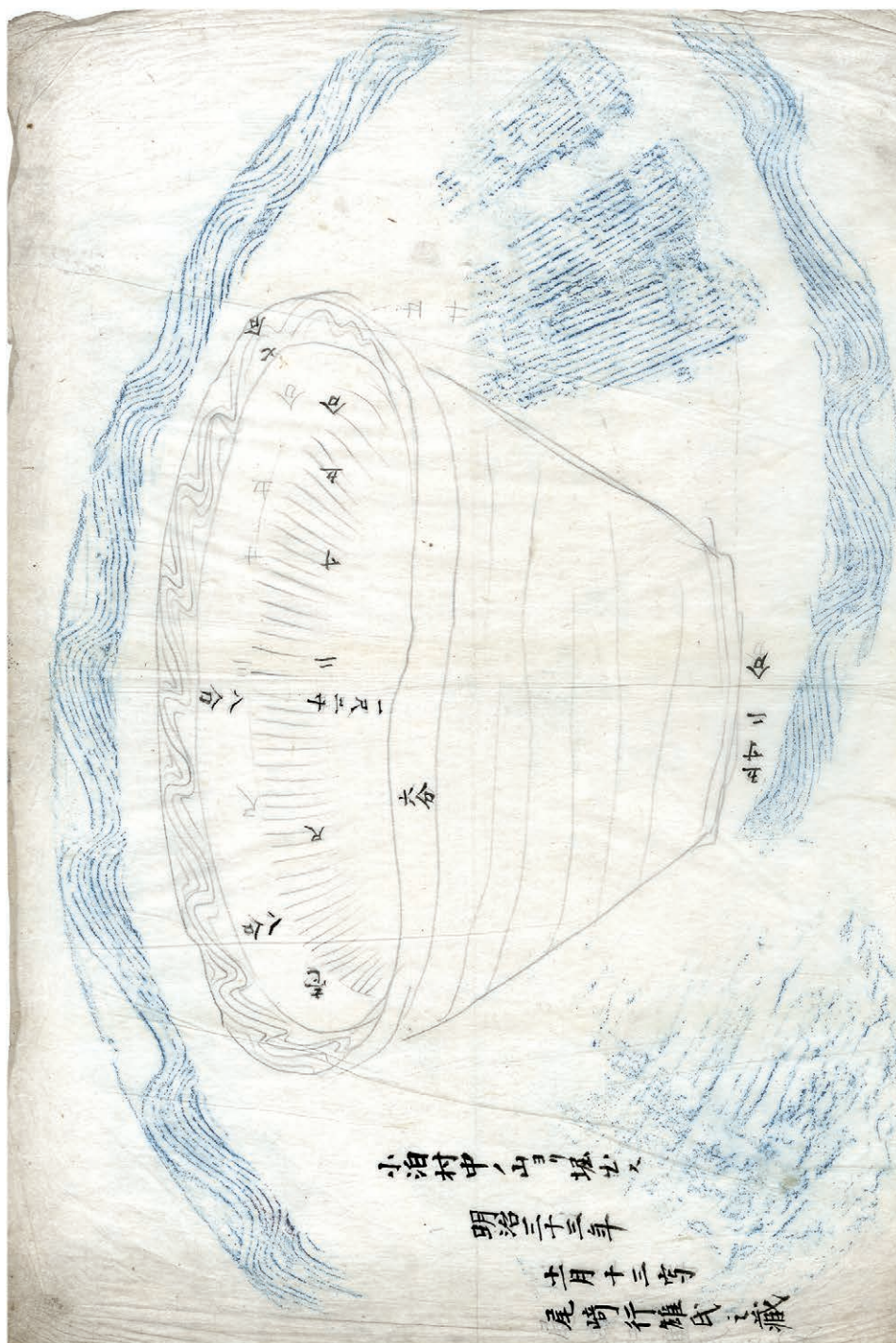


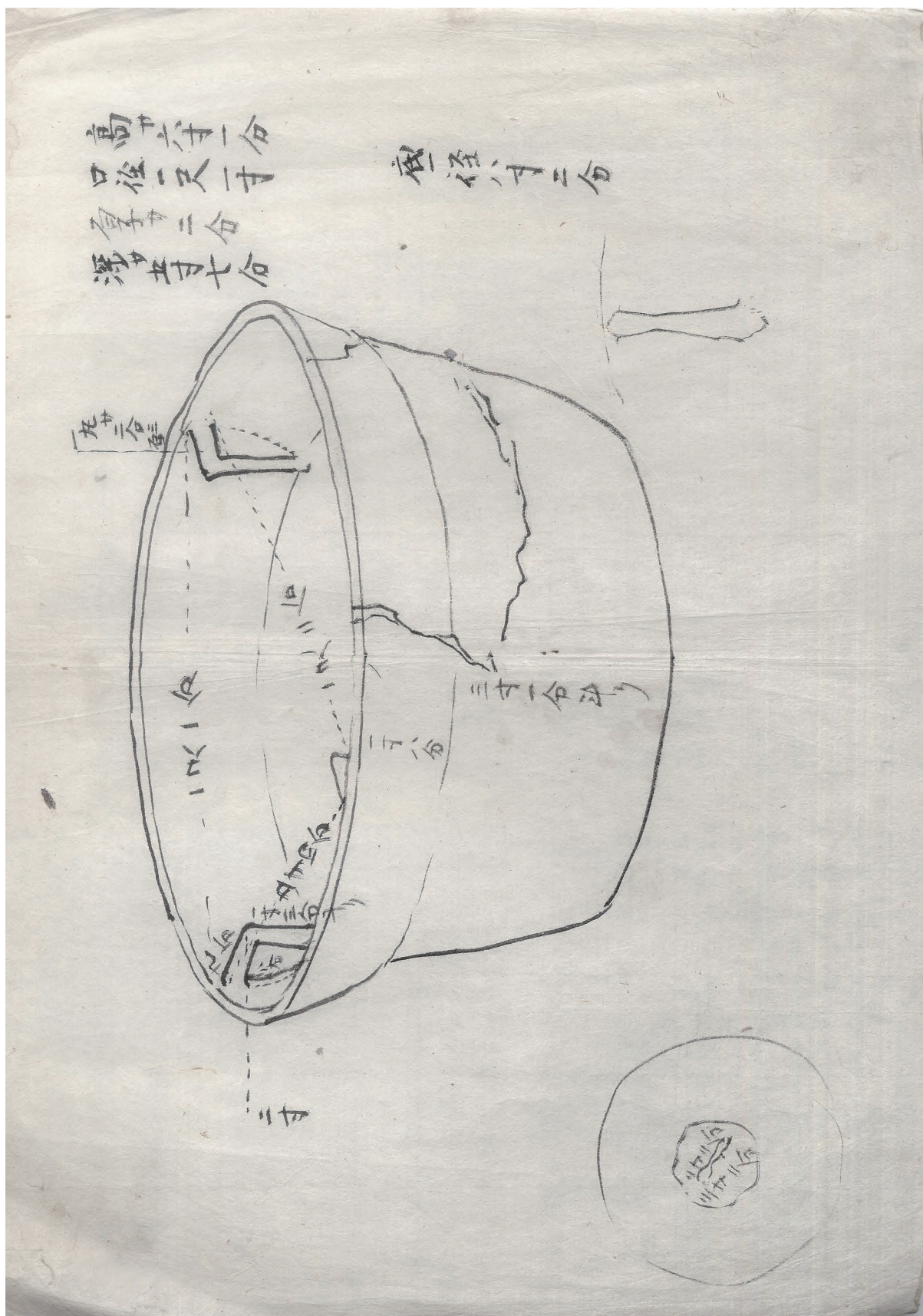
正面拓本

内面拓本

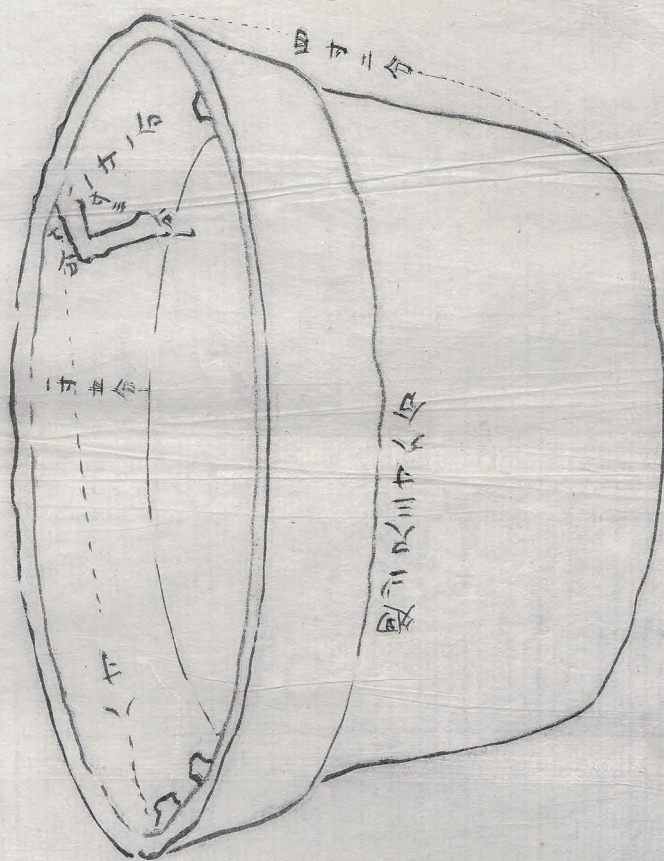
断面拓本







口径九寸
厚二分
深四寸五分



佐藤 蒨 考古画譜Ⅱ

2010年3月1日 発行

編集 関根達人

発行 弘前大学人文学部附属 亀ヶ岡文化研究センター

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL 0172-39-3190

印刷 川口印刷工業株式会社 青森営業所

〒030-0811 青森県青森市青柳1丁目16-3 木村ビル2階

TEL 017-721-6520

